鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
18

平成14年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2004年３月

序

鹿児島大学キャンパスには，後期旧石器時代から近代までの，貴重な遺跡が包蔵されていることが，鹿児島大学埋蔵文化財調査室の発掘調査によって，次第に明らかにされています。その成果は，これまでに埋蔵文化財調査室年報（Vol.1-17）として逐次報告されてきました。

今回，平成 14 年度の調査結果の報告として，鹿児島大学調査室年報 Vol.18 を刊行いたします。平成 14 年度には郡元キャンパスにおいて発掘調査 3 件，立会い調査 23 件，桜ヶ丘キャンパスにおいては，立会い調査 1 件が行われました。本年報には，それらの調査研究の成果の概要が掲載されています。

特に郡元キャンパスにおいては，注目すべき成果がでています。理学部改修地では，弥生時代前期末から中期初頭にかけての，一定の規模をもった集落の存在が，環濠らしき大溝の存在から想定されており，それに西接した地点，理工系総合研究棟建築に伴う調査では，弥生時代前期ごろから，水田を営んでいたことが判明しました。鹿児島ではほとんどない，生産域と居住域の有機的関係が分かる貴重な遺跡なのです。この地では，この関係性はいったん途絶え，古墳時代後半期には再び行われます。今後の資料の整理・研究によって，その詳細が明らかになることを期待しています。

また，VBL 棟建設地においては，河川跡が検出され，最下部には弥生時代後期の木杭列が検出されており，これは水田に水を引くための灌漑施設，合掌型堰である可能性がでてきました。当時から河川を利用した生産体系を持っていたことになります。この形状の堰も県内では初めての検出例であり，弥生時代後期に属するとなると，全国的にも珍しい例となります。

また，付編 1 としては，平成 4 年度から翌年度に行われた郡元団地 L-6 区（中央図書館増築地）の発掘調査も掲載しております。ここでは，郡元キャンパス内における古墳時代後半期の，当時の定住域とはやや離れた箇所の住居跡が検出されました。当時の居住における選地・占地条件を考えるうえでの貴重な遺跡です。

付編 2 は，中央図書館増築地第 1 次調査における，土壌プラント・オパール定量分析により，古墳時代後半期ごろのある段階には，畑栽培による稲作が行われ，その後，湿潤な環境となり，水田稲作が営まれていたものと分析されております。

現在，キャンパス内では，研究，教育の発展に伴って，多くの建物の建築や周辺整備などが行われ，それに先立って必要な埋蔵文化財の発掘調査が行われています。しかし，年々増加する発掘調査や埋蔵物に対する調査および研究体制，保管体制が十分でないのが現状です。特に，従来から言われているように，遺跡から出土する膨大な量の遺物の保管場所の確保は困難を極めています。また，迅速な調査および研究を遂行するためのスタッフの数も十分とは言えないのが現状です。独立行政法人化後も，これらの貴重な大学の財産，ひいては国民の財産としての埋蔵文化財の調査，および研究を行うための体制の実現について，重ねて全学的なご理解，ご支援をお願いする次第です。

最後に，埋蔵文化財調査室のスタッフによる精力的かつ地道な調査・研究の積み重ねにより，このような立派な年報にまとめられたことに対し，感謝の意を表したいと存じます。

平成 16 年 2 月

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会
委員長　佐々木　修

例言

1. 本年報は，鹿児島大学構内において，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が **2002(平成 14)年度に行なった調査活動**の成果をまとめたものである。

なお，1992･1993（平成 4･5）年度に行った**郡元団地 L-6 区(図書館増築地 A･B 地点)**における発掘調査報告を付編 1 として掲載した。付編 2 には，**郡元団地 L-6 区(図書館増築地 A 地点)の土壌プラント･オパール定量分析の結果報告**を掲載した。

2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。調査時における図面･写真の担当は以下の通りである。

2: 中村直子・新里貴之・松本益幸（王 力明）・有村航平・安座間充・鮎川章子・興梠真利子・新原和子・吉永幸子

付編: 中村・古澤生・大西智和・峰山いずみ・鮎川章子・池口洋人・今村知子・上地浩・小原愛・甲斐光代・坂本裕子・前幸男・趙国興・中村由美子・西中川泉・西谷彰・星野恵美・横手浩二郎

3. 本書の作成にあたっては，埋蔵文化財調査室が行なった。担当者は以下の通りである。

実測（2：中村直子，付編：有村航平・青山奈緒）
写真（中村・青山）
製図（1：新里貴之，2：中村，付編：新里・中村・青山）
作表（1：新里，2：中村，付編：有村・新里・中村）
執筆（1：新里，2：中村，受贈図書：有村，付編：新里）
概要訳文（新里）
編集（新里）

4. 郡元団地 L-6 区（中央図書館増築地 A・B 地点）の出土遺物について，陶磁器は，渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部），石器については，横手浩二郎氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）の，石材については大塚裕之氏（鹿児島大学総合研究博物館）にご教授をいただいた。X 線写真については，永濱功治氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）の，住居跡内の赤色顔料の分析については，大久保浩二氏（現・川内市立隈之城小学校教諭）にご協力をいただいた。また,付編 2 のプラントオパール定量分析については，藤原宏志氏（宮崎大学）の玉稿を賜った。サマリーは，新田栄治（鹿児島大学埋蔵文化財調査室長）が校正した。

5. 発掘調査による遺物の保管は，埋蔵文化財調査室の管理のもと，各学部，部局が収蔵している。また，図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡例

1　昭和 60 年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室の設置を機として，鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように，鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は，以下の通りである。

(1) 郡元団地では，国土座標第 2 座標系(X=-158.200, Y=-42. 400)を基点として一辺 50m の方形地区割りを行なった(Fig.3 参照)。

(2) 桜ヶ丘団地では，国土座標第 2 座標系(X=-161. 600, Y=-44.400)を基点として一辺 50mの方形地区割りを行なった（Fig.4 参照)。

2　本年報において報告を行なった地点については，一部の立会調査地点を除き，Fig.2～4 にその位置を記してある。

3　本年報におけるレベル高は，すべて海抜を表し，方位は真北方向を示す。

4　本書で使用した遺構の表示記号は，以下の通りである。

SK：土坑状遺構　SD：溝状遺構　P：ピット

5　2・付編で使用した土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

6　遺物に関しては観察表を作成した。その標記，表現については以下の通りである。

調整：調整名称の前の( )は，調整方向を表す。(—);横位方向，(|);縦位，(＼);左上がりの斜位，(／);右上がりの斜位，(?);方向不明，とした。→は，調整の新旧関係を表す。

色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し，この色調に当てはまらないものについては，「～に類似」と表記した。

胎土：粒子の大きさで，礫(2mm～)・粗砂粒(1～2mm)・砂粒(0.2～1mm)・細砂粒(0.2mm 以下)に分けた。また，砂粒の種類については，特定できないものは，その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては，便宜的に 1～9 の 9 段階に分けた。9：20%以上，8：15~20%，7：15%前後，6：10~15%，5：10%前後，4：5~10%未満，3：5%前後，2：1~5%未満 1：1%以下，とした。

サイズ：復元によるサイズは，( ) をつけた。

7　本文中の遺物番号は，挿図，図版，遺物観察表と一致している。

目次

1　平成 14 年度（2002 年 4 月-2003 年 3 月）の調査概要 …… 1
1.1　鹿児島大学構内遺跡の立地と環境 …… 1
1.2　調査概要 …… 1
2　平成 14 年度（2002 年 4 月-2003 年 3 月）の立会い調査 …… 6

受贈図書 …… 15
調査室要項 …… 23

付編 1　郡元団地 L-6 区（中央図書館増築地 A・B 地点）における発掘調査 …… 25
1　調査にいたる経過 …… 25
2　調査体制 …… 25
3　調査の経過 …… 25
4　層位 …… 25
5　遺構・遺物 …… 29
5-1.　A・B 地点 1 層（表土・出土地不明）の出土遺物 …… 29
5-2.　A・B 地点 2 層出土遺物 …… 31
5-3.　A・B 地点 3 層上面検出遺構 …… 33
5-4.　A・B 地点 3 層出土遺物 …… 35
5-5.　A・B 地点 4 層上面検出遺構 …… 36
5-6.　A・B 地点 4 層出土遺物 …… 41
5-7.　A・B 地点 5 層上面検出遺構 …… 54
5-8.　A・B 地点 5 層出土遺物 …… 67
6　まとめ …… 68

付編 2　郡元団地 L-6 区（中央図書館増築地 A 地点北壁）
におけるプラント・オパール分析結果報告…… 75

1　平成14年度(2002年4月-2003年3月)の調査概要

平成14(2002)年度は，発掘調査が郡元団地で3件行われた。立会調査は，郡元団地で23件，桜ヶ丘団地で1件，行われた。

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は，薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり，他の三方は姶良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。本書に掲載する調査地点は，鹿児島大学構内の郡元団地と桜ヶ丘団地で，それぞれを，「鹿児島大学構内遺跡郡元団地」，「同，桜ヶ丘団地」と呼んでいる。

郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し，標高約7mを測る。従来から周知の遺跡として知られており，校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており，県立医大遺跡，付属中学校敷地内遺跡，釘田遺跡，水町遺跡も郡元団地内の遺跡である[1]。郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見され，現在，3つの集住地域が把握できている。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部，もう一つは南西部で，いずれも微高地上に形成されている。中央に位置する住居群のすぐ北側には河川流路が確認されている。河川の中からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭が出土している。平成9年度の工学部における調査では，弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ，構内ではまだ発見されていないが，古墳時代の包含層中には多量のイネのプラント・オパールが含まれており[2]，稲作が継続的に行われていたことがわかる。

桜ヶ丘団地は郡元団地から南に約2.5kmの亀ヶ原台地上に位置し，標高約70mを測る。昭和60年に埋蔵文化財調査室が設置されてからは，鹿児島大学構内遺跡宇宿団地と呼称していたが，キャンパス名の変更に伴い，桜ヶ丘団地と呼ぶ。近隣の台地上には，旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が点在しており，桜ヶ丘団地でも同様の時期の遺物が出土している。また，縄文時代早期，弥生時代前期・終末期の住居跡も確認されている[3]。

1.2 調査概要(Tab.1)

2001-2　郡元団地J-7･8区(理学部改修地)

理学部改修地は，理学部1号館の中庭に位置する。平成14年3月2日より，調査を開始し，9月13日に終了した。しかし，大学施設部の工事範囲変更により，改めて9月17日から調査を行い，10月18日に調査を終了した。

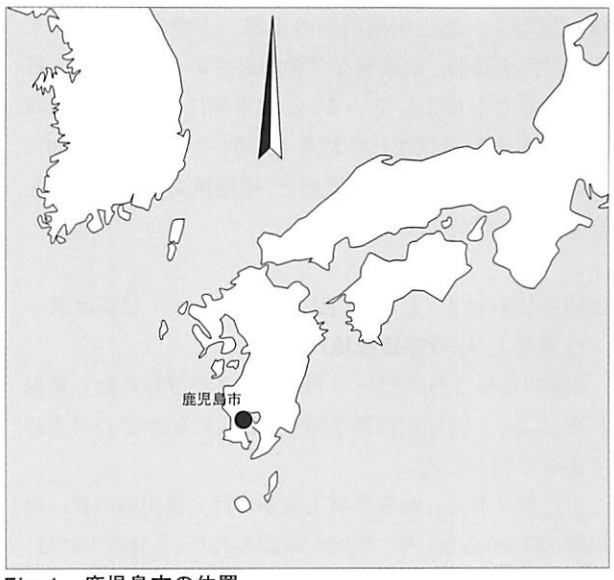


Fig.1　鹿児島市の位置

同地点は，古墳時代後半期の住居跡を中心に，溝，土坑など約80基の遺構群が検出され，古墳時代の集落が一定期間占地していることを示している。

また，この古墳時代の集落跡の，層位的下位のレベルより，環濠状の溝が検出され，その溝内より弥生時代前期末-中期初頭の土器がまとまって出土した。土器は，甕・壺・高坏・鉢などで，未だ資料的にデータの少ない同期の編年研究に大いに寄与するものである。さらに，古墳時代方形住居群の下位より，円形住居跡が検出されたが，その床面炭化物の放射性炭素年代測定により，弥生時代終末期頃のものであるとの結果がでている。

古墳時代の住居跡には，数パターンの炉のつくりかたや屋内炉内埋設土器の器種選定，住居の廃棄パターンなど，今後の詳細な研究が必要であり，そのデータを蓄積することのできる重要な遺跡である。

2002-1　郡元団地J･K-9･10区(理工系総合研究棟建設地)

理工系総合研究棟は，便宜的に総合研究棟IIと呼んでいた箇所である。平成14年度4月20-10月31日，同年12月11日-平成15年2月20日まで継続して行なわれた。中断理由は，大学施設部による建物の縄張り設計変更によるものであった。

発掘調査では，弥生時代～古墳時代にかけての生産遺跡と判断された。弥生時代前期と考えられる畦状遺構，同中期前半の水田跡（溝状遺構6条・小ピット群），古墳時代後半期の溝状遺構1条とピット群，古代の「波板

状遺構」などが検出されている。弥生時代前期～中期の土層からは，イネのプラント・オパールが多量に確認され，水田を行っていたものと推定される。遺物は，出土量が少なく，弥生中期前半の土器，古墳時代後半の土器，古代土師器，須恵器などの小破片のほかに磨製・打製石鏃などが出土している。この東側に隣接して，同時期の集落跡が確認されており（2001-2理学部改修地），生活域との有機的空間配置など，同地域の生活の一端を窺えるものであるといえる。

2002-2(H-12・13区VBL[ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー]棟建設地)

平成15年3月3日－8月29日まで行われた。発掘調査により，同地点は弥生時代-近代にかけての河川跡であると判明した。

中近世と考えられる2層上面からは，検出幅の狭い河川跡（約3m程度）や，畑跡が確認された。4層以下には，切り合い関係から見て，数回の濁流を伴う河川跡が確認されたが，これらは5m以上の幅である。最下位の泥炭層に突き刺さる形で，数条の木杭列が確認された。そのうちの1本を放射性炭素年代測定した結果，「cal.130AD」とされた。木杭列の配置とその傾きからは，合掌型堰である可能性があり，河川を利用した灌漑施設を設けていたと思われる。また，古墳時代前期のある段階に東原式の甕を破砕し，埋めた遺構も確認された。河川沿いでの祭祀行為である可能性が高い。縄文時代前期末－中期初頭の深浦式や晩期の黒川式，石匙などは，かなり水磨を受けており，上流から流れてきたものであろう。刻目突帯文土器-古代の土器は，完形品に近い形で出土することが多く，特に弥生時代後期-終末期の土器は完形率が高い。石鏃や三角形状の石庖丁も確認されている。また，弥生時代前期-中期頃にかけての土層からはイネのプラント・オパールやムギが検出されている。当時，この河川を利用した，生産体系が確立されていたと考えられる。

註

1)松永幸男1986「第II章　鹿児島大学構内遺跡の位置と環境」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」I　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2)付編2参照

3)新里貴之2002「付編　桜ヶ丘団地I-8区（難治性ウイルス疾患研究センター増築地）の発掘調査」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」16　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

Tab.1　平成12年度調査一覧

種類	調査コード	地区	調査	期間
発掘調査	2001-2	J-7・8区	郡元団地　理学部改修に伴う発掘調査	2002年3月2日-9月13日，9月17日-10月18日
	2002-1	J・K-9・10区	郡元団地　理工系総合研究棟(総合研究棟II)建設に伴う発掘調査	2002年4月20日-10月31日，12月11日-2003年2月20日
	2002-2	H-12・13区	郡元団地　VBL(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)棟建設に伴う発掘調査	2003年3月3日-8月29日
立会調査	2002-A	I-6区	郡元団地　漏水確認掘削工事に伴う立会調査(消火栓)	2002年10月24日
	2002-B	I-8～10区	郡元団地　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(消火栓)	2002年5月22日
	2002-C	J・K-8・9区	郡元団地　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(電柱)	2002年7月22日
	2002-D	J・K-8～10区	郡元団地　理学部校舎改修その他機械工事に伴う立会調査(ガス管)	2002年7月18日-8月8日
	2002-E	J・K-7区	郡元団地　理学部校舎新営その他機械設備工事に伴う立会調査(配水管)	2002年8月29日-9月18日
	2002-F	I-8・9区	郡元団地　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(電気配管)	2002年9月18日-10月23日
	2002-G	J～L-10区	郡元団地　理工系総合研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査(電気配管)	2002年11月1日-9日
	2002-H	J・K-10区	郡元団地　理工系総合研究棟新営機械設備工事に伴う立会調査(給排水管)	2002年12月9日-12月11日
	2002-I	J-7区	郡元団地　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(スロープ階段)	2002年12月10日(既掘部)
	2002-J	D-4区	郡元団地　高倉看板設置工事に伴う立会調査(看板設置)	2002年12月10日
	2002-K	J-8区	郡元団地　理学部校舎改修その他機械設備工事に伴う立会調査(排水管)	2002年12月11日
	2002-L	K-7区	郡元団地　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(樹木移植)	2002年12月26日(既掘部)
	2002-M	J-8区	郡元団地　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(整地)	2003年1月21日(既掘部)
	2002-N	I-7区	郡元団地　理学部講義棟改修工事に伴う立会調査(階段基礎)	2003年1月22日
	2002-R	J-7区	郡元団地　理学部校舎改修工事に伴う立会調査(階段撤去)	2003年2月4日(既掘部)
	2002-O	E-8区	桜ヶ丘団地　基幹整備工事に伴う立会調査(厨房改修)	2003年2月12日(既掘部)
	2002-P	F-8区	郡元団地　農学部実験ガス管埋設工事に伴う立会調査(ガス管)	2003年2月27日
	2002-Q	J-8区	郡元団地　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(外灯設置)	2003年3月11日(既掘部)
	2002-S	K-8区	郡元団地　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(噴水)	2003年3月17日
	2002-T	I-7区	郡元団地　理学部講義棟改修機会整備工事に伴う立会調査(ガス管)	2003年3月18日
	2002-U	K-8区	郡元団地　理学部校舎改修工事その他電気設備工事に伴う立会調査(電気配管)	2003年3月19日
	2002-V	D-10区	郡元団地　農学部資源有機物リサイクル場設置工事に伴う立会調査(基礎埋設)	2003年3月20日
	2002-W	M～O-6・7区	郡元団地　教育学部幹線並木設備工事に伴う立会調査(樹木移植)	2003年3月20・21日
	2002-X	F-8区	郡元団地　埋設土実験に伴うガス管布設工事に伴う立会調査(ガス管)	2003年3月24日

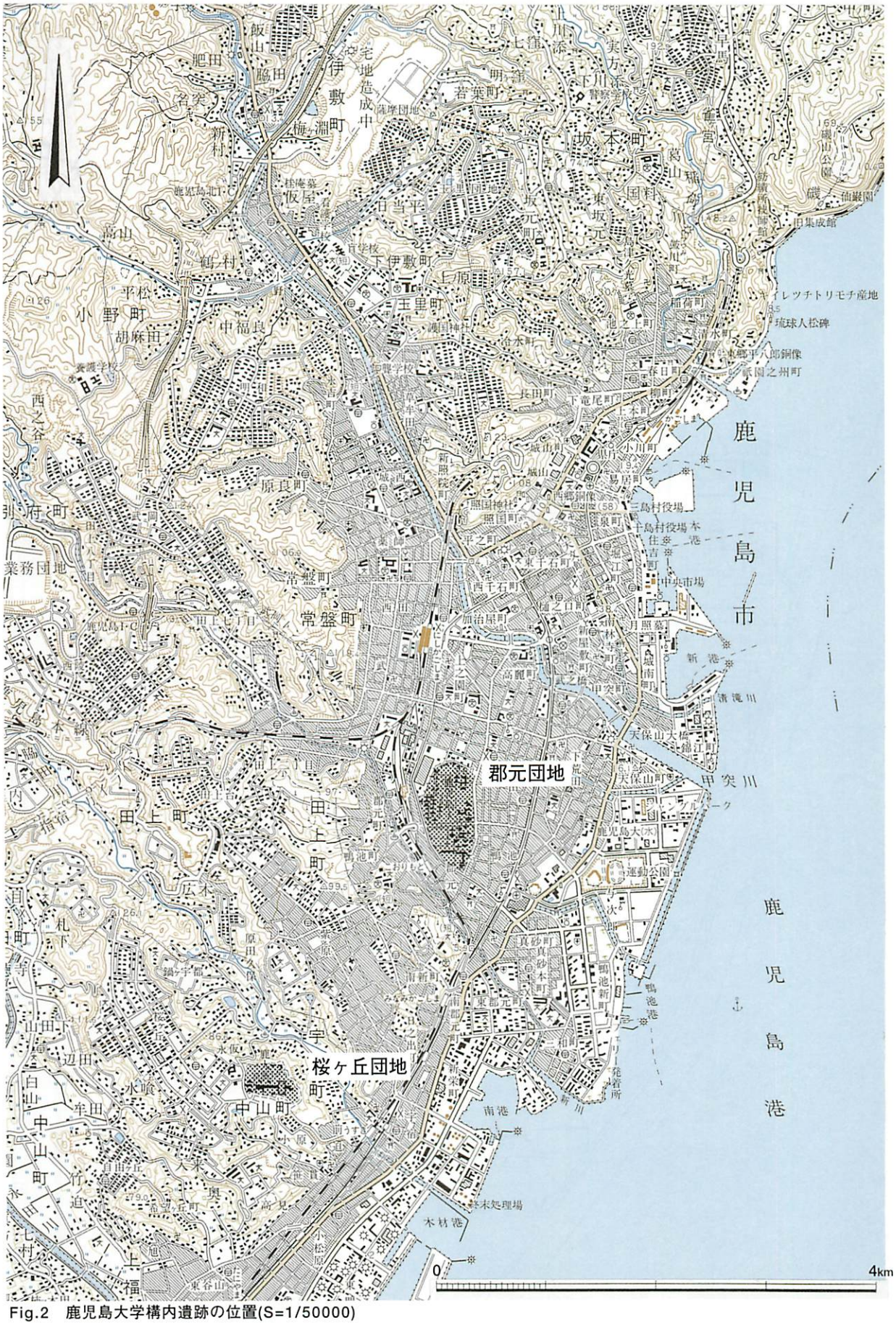


Fig.2　鹿児島大学構内遺跡の位置(S=1/50000)

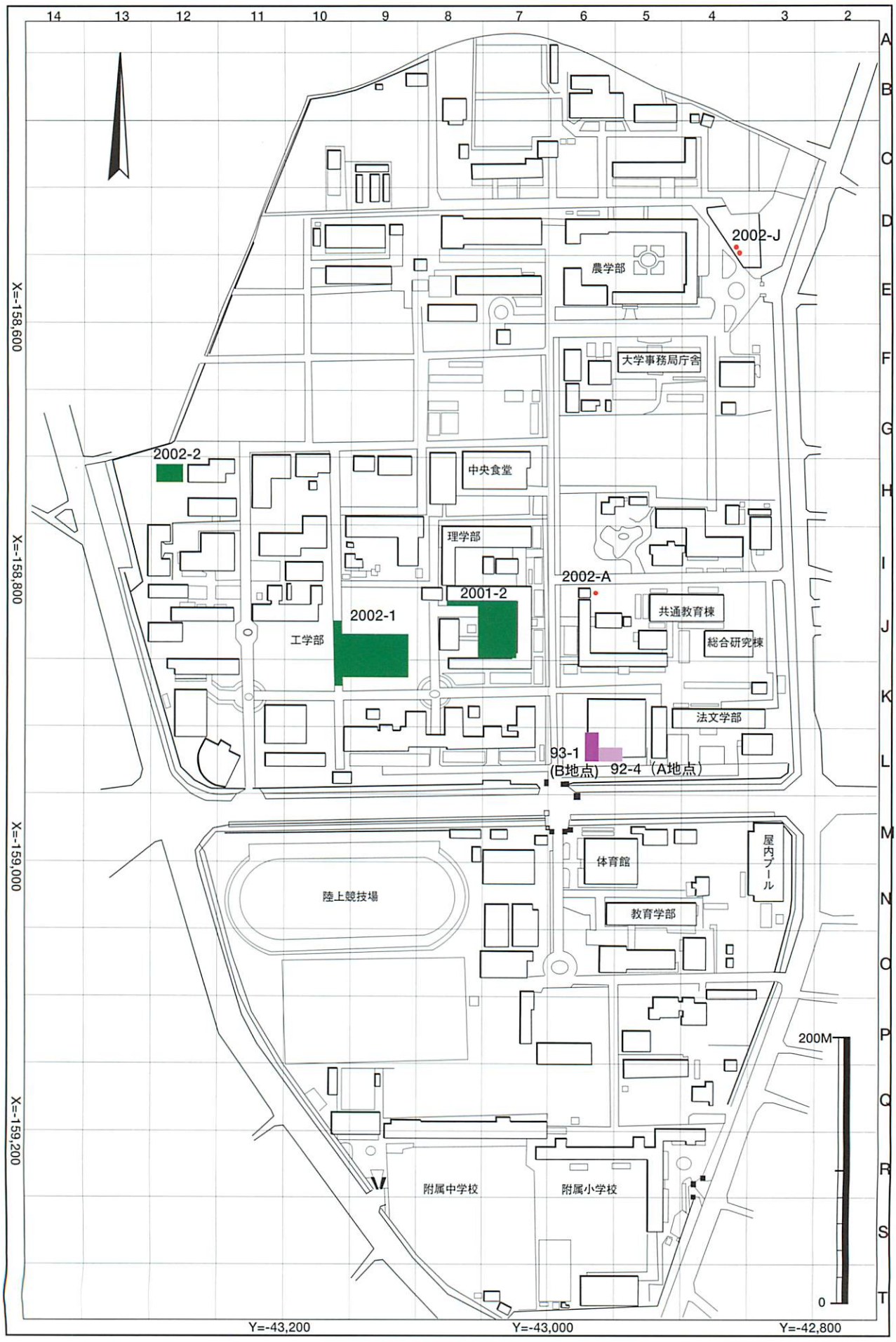


Fig.3　郡元団地構内図(S=1/4000)

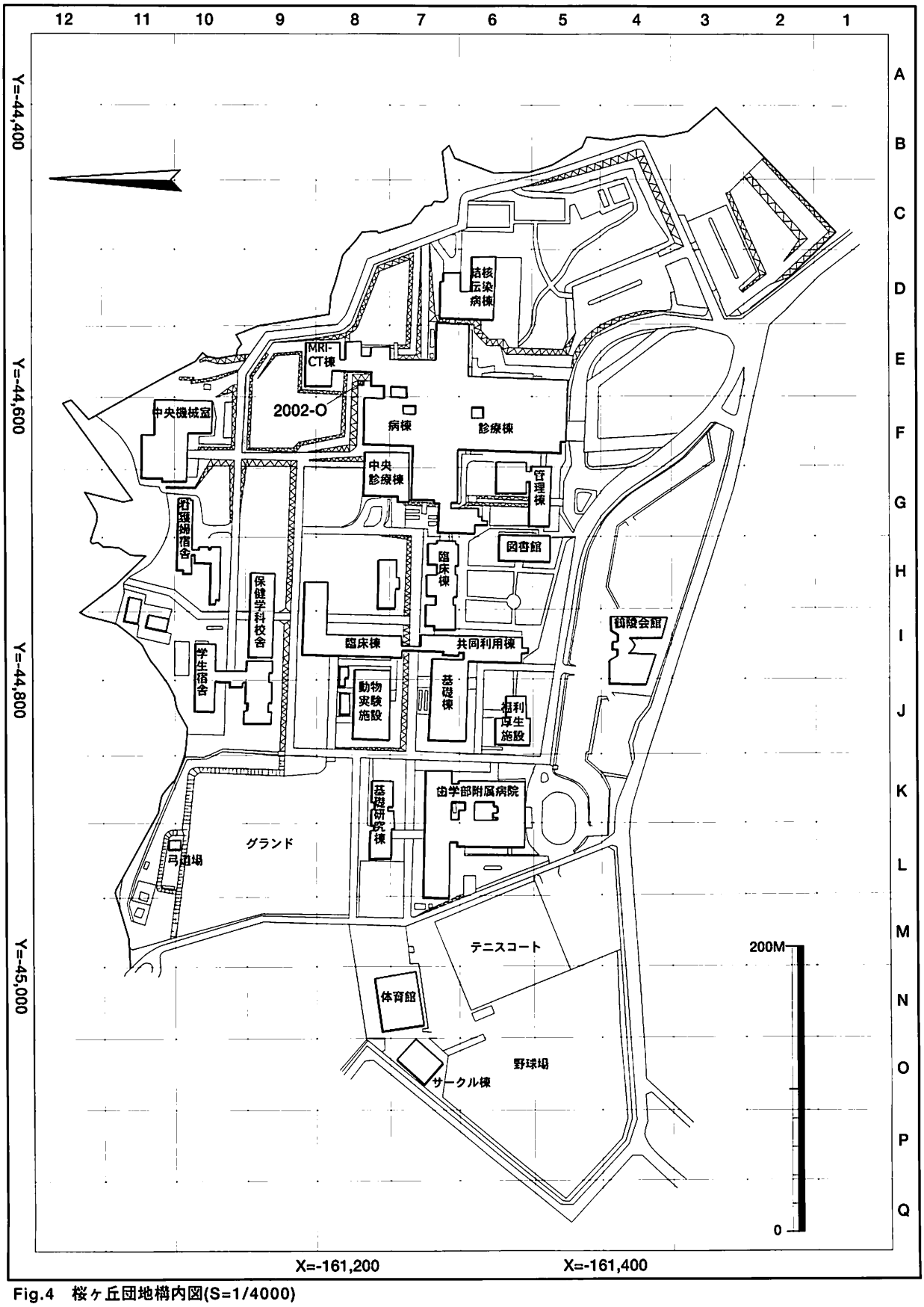


Fig.4　桜ヶ丘団地構内図(S=1/4000)

2　平成14年度(2002年4月-2003年3月)の立会調査

1章のTab.1にあるように，平成14年度は24件の立会調査を実施した。団地別に見ると，郡元団地23件，桜ヶ丘団地1件で，なかでも理工系総合研究棟建設に伴う立会調査が多かった。これらのうち，2002-I・2002-L・2002-M・2002-N・2002-P・2002-Q・2002-Rは掘削が表土層および既掘部の範囲でおさまっており，埋蔵文化財への影響はなかった。

以下，プライマリーな土層が確認されたものについて，立会調査ごとに説明す

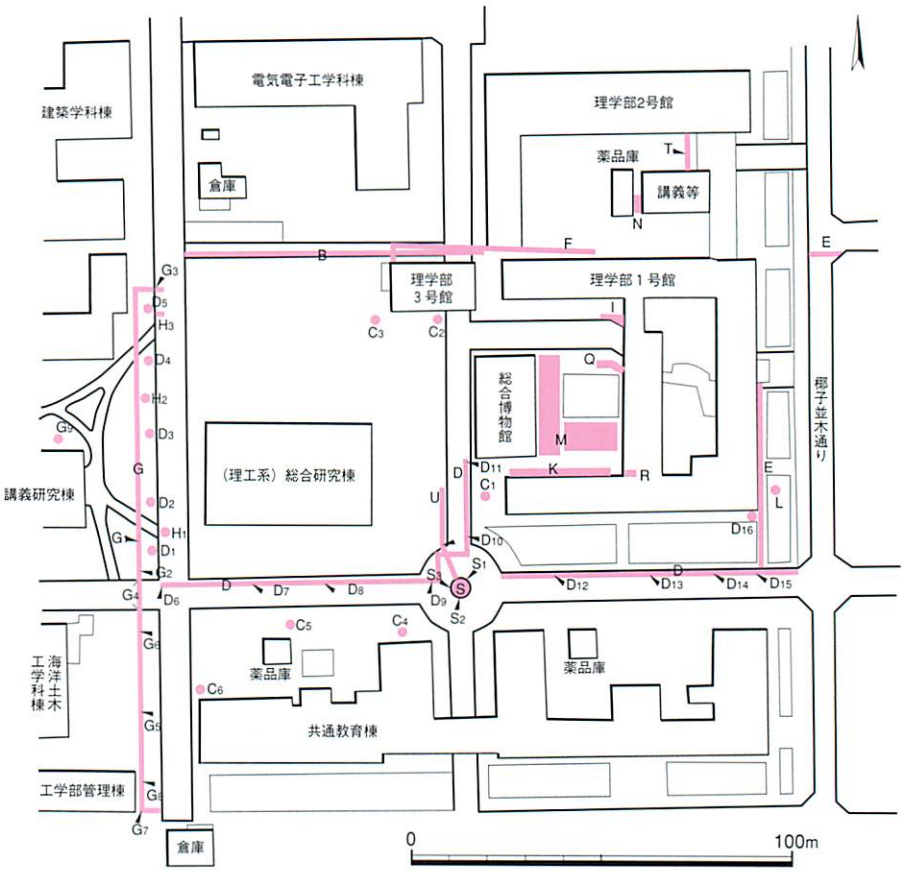


Fig.5 立会調査区の位置(S=1/2000)

2002-A 漏水確認掘削工事に伴う立会調査 (Fig.3 構内図)

調査地点 共通教育棟1号館北側車庫近く(郡元団地I-6区)

調査期間 2002年10月24日

本学総合研究博物館の橋本達也氏より掘削工事を行っている旨，連絡があったので，埋蔵文化財調査室員が工事地点に出向いたところ，消火栓漏水のため掘削工事を行っていた。工事に立会っていた施設部設備課職員に学内掘削工事の際には埋蔵文化財調査室の立会調査が必要であることを説明し，急遽，立会調査を実施した。

掘削場所は1カ所で，1×0.6mの面積を地表下75cmにわたって掘削した。基本層位として，1-4層までを確認

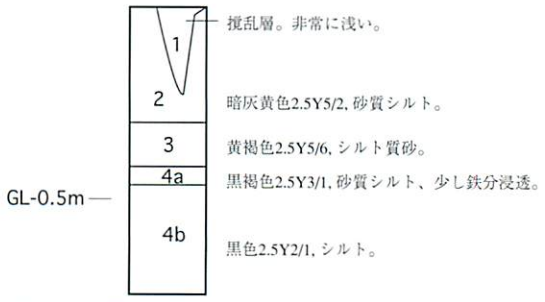


Fig.6 A土層柱状図

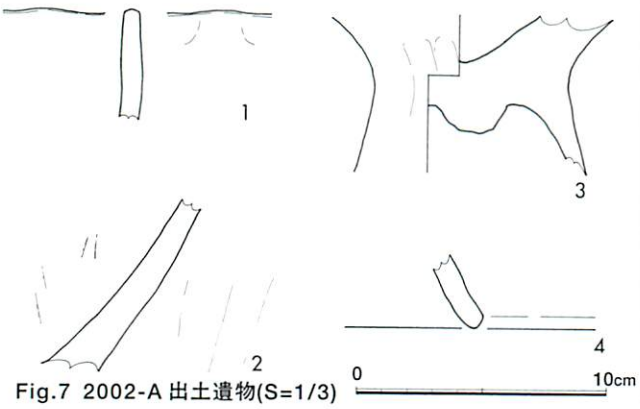


Fig.7 2002-A 出土遺物(S=1/3)

PL.1 2002-A 出土遺物

Tab.2 2002-A 遺物観察

No.	層	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
1	4層	甕	口縁部	外面:淡黄色2.5Y8/1を基調とするが、煤のため黒. 内面:灰白色.2.5Y8/2と灰色5Y5/1(黒斑)	礫:石英, 粗砂・砂粒:石英, 角せん石, 白色粒, 細砂粒も含む.	3	外面:ナデ, 内面:ナデ(＼)	外面:スス付着
2	4層	甕	胴部下半	外面:灰黄色7.5Y7/2とにぶい橙色2.5Y6/4(加熱部分). 内面:にぶい橙色7.5Y6/4.	礫:赤色粒, 粗砂粒・砂粒:赤色粒・角せん石・白色粒. 細砂粒を含む.	3	外面:板状の工具によるナデ(｜). 内面:ハケ(−)のちナデ.	外面:スス付着, 二次的加熱を受けている
3	4層	甕	脚台付近	外面:赤橙色10R6/6, 脚部内面:橙色7.5Y6/6, 体部内面:黄灰色2.5Y6/1.	礫:石英, 粗砂粒・砂粒:石英・白色粒・黒色粒.	3	外面:ユビナデ(｜), 脚部内面:粗雑なナデ(−), 体部内面:ハケ(−)→ナデ.	外面:二次的加熱を受けている.
4	4層	甕	脚台	外面:にぶい黄橙色10R7/4, 内面:橙色5Y6/6.	粗砂粒:赤色粒, 砂粒:赤色粒・石英・黒色粒.	3		

したが, 4層は古墳時代の包含層で, 古墳時代の土器片が多く出土した。

出土遺物は土器片だけだったが, 図示できたものは4点だった (Fig.7,Tab.2,PL.1)。いずれも, 甕の破片である。1は口縁部であるが, 直口形の器形を呈すると推定できる。粗雑なつくりで, 口唇部はユビオサエによって歪んでいる。2は, 脚台近くで胴部下半の破片である。比較的丁寧なナデ調整によって仕上げられている。3は脚台付近の破片で, 脚端部は欠損している。脚台内面天井部には, 突起が付けられている。突起にはユビオサエや爪の痕が明瞭で, 摘まみ上げて整形したと考えられる。4は, 脚端部で, 若干外反する器形を呈する。1, 3は笹貫式である可能性が高いので, これらは古墳時代後半期のものであると考えられる。

2002-B　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(Fig.5)

調査地点　理学部1号館南側と3号館北側道路（郡元団地H-8～10区）

調査期間　2002年5月22日

理学部校舎改修に伴う消火栓設置工事における立会調査で, 理学部1号館近くと, 3号館北側道路の2カ所で行われた。1号館近くでは, 古墳時代の住居跡2基を確認した。また, 3号館北側では, 壁面で遺構を確認し, 古墳時代土器を主体とする遺物が多く出土したが, 近隣で同時に行われていた2002-2理学部改修工事に伴う発掘調査とあわせて報告することにする。

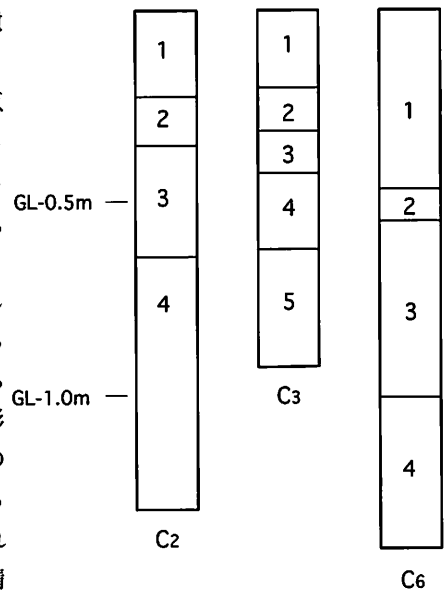
2002-C　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(Fig.5)

調査地点　理学部3号館南側一帯（郡元団地J・K-8・9区）

調査期間　2002年7月22日

電柱埋設のための掘削工事に伴う立会調査である。直径30cm, 深さ120cmの掘削を6ケ所行ったが, そのうちC2,C3,C6でプライマリーな層を確認した (Fig.8)。C2の4層は周辺の過去の調査結果から, 古墳時代の包含層に比定できると考えられるが, 遺物は出土しなかった。C3からは遺物が出土し, そのうち1点が図示できるものである(Fig.9,Tab.3, PL.2)。

5は, 少し内弯しながら外開きに立ち上がる器形で, 坩か鉢の口縁部であると考えられる。胎土が精製されており, 外面にはミガキも施されていて, 丁寧なつくりの土器である。古墳時代のものと考えられる。



C2
1層　撹乱。
2層　にぶい黄褐色10YR5/4, 砂質シルト。しまっている。0.5～2cm大のパミス含む
3層　黄褐色10YR5/6, 2層との混土の砂質シルト。少しパミスを含む。
4層　黒褐色10YR3/2, 砂質シルト。均質。

C3
1層　撹乱。
2層　灰黄褐色10YR4/2, 砂質シルト。しまっている。0.5cm大のパミス, 炭混じり。
3層　にぶい黄褐色10YR4/3, 粗砂混じり砂質シルト, 0.5cm大のパミス含む。
4層　灰黄褐色10YR4/2, 砂質シルト。マンガンがまだらに浸透, しまっている。
5層　褐灰色10YR6/1。シルト質砂。やわらかい。

C6
1層　表土。
2層　褐灰色10YR6/1, 細砂。
3層　極暗褐色7.5YR2/3, 粗砂混じりシルト。
4層　明褐色7.5YR5/8, 粗砂。
5層　上部は4層に類似, 下部は徐々に灰色に変化。

Fig.8 2002-C 土層柱状図

Tab.3 2002-C 出土遺物観察

No.	地点	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
5		椀？	口縁部	外面:橙色5YR6/8. 内面:にぶい橙色7.5YR6/4.	細砂粒(光沢のある粒子)を含む.	1	外面・内面:ナデのちミガキ(−). 口唇部:ヨコナデ.	

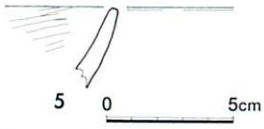


Fig.9 2002-C 出土遺物
(S=1/3)

PL.2 2002-C 出土遺物

2002-D　理学部校舎改修その他機械工事に伴う立会調査(Fig.5)

調査地点　工学部から理学部一帯（郡元団地J・K-8～10区）

調査期間　2002年7月18日-8月8日

ガス管埋設工事のため共通教育棟3･4号館の北側道路を，幅80㎝，深さ80-100㎝の掘削を行った。このうち，D4･D5と，D12-D16は既掘部であった。また，D1-D12の範囲では，プライマリーな層を確認したが（Fig.10），2002-1理工系総合研究棟における発掘調査で確認できた基本層位とほぼ同じである。今回の調査では，遺構・遺物等は出土していない。

2002-E　理学部校舎新営その他機械設備工事に伴う立会調査（Fig.5）

調査区　理学部1号館西側（郡元団地J･K-7区）

調査期間　2002年8月29日-9月18日

掘削工事は排水管埋設地であったが，その地点は古墳時代の遺構が良好な状態で残存している可能性が高かったため，工事前に発掘調査を実施した。埋設地は2カ所だったが，北側地点は既掘部だったため立会調査のみを行った。本調査を実施した地点は，理学部1号館東側の玄関から南側に向かって幅1mほどのトレンチであったが，古墳時代の溝状遺構や住居跡1基を検出した。遺物も，古墳時代を中心とする土器片が多く出土した。

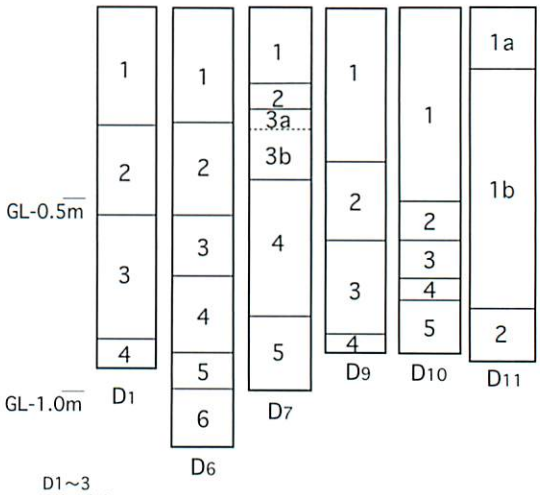
これらの調査結果については，2002-2理学部改修工事に伴う発掘調査とあわせて報告する予定である。

2002-F　理学部校舎新営その他機械設備工事に伴う立会調査（Fig.5）

調査区　理学部1号館西側（郡元団地I-7･8区）

調査期間　2002年9月18日-10月23日

掘削工事は電気配管埋設地点であったが，この地点も古墳時代を中心とする遺構が良好に存在している可能性が高かったため，工事前に発掘調査を実施した。古墳時代の住居跡・土器溜まり･弥生時代中期の溝等が検出し，遺物も弥生時代・古墳時代を中心に多量に出土した。この調査成果についても，2002-2理学部改修工事に伴う発掘調査とあわせて報告する予定である。



D1～3
1層　表土。
2層　灰黄色2.5Y6/2類似，1～0.5cm大のパミス含む（5%）。
3層　灰黄褐色10YR5/2，砂混じりシルト，1～0.5cm大の白いパミス含む(10%)。管状の鉄分あり。
4層　灰黄色2.5YR6/2，シルト。管状の鉄分あり。

D6
1層　表土。
2層　灰黄色2.5Y6/2類似，1～0.5cm大のパミス含む(5%)。
3層　灰黄褐色10YR5/2，砂混じりシルト，1～0.5cm大の白いパミス含む(10%)。管状の鉄分あり。
4層　灰黄色2.5YR6/2，シルト。管状の鉄分あり。

D7～9
1層　表土。粗砂層・砂利を含む。
2層　オリーブ褐色2.5Y4/3。0.5cm大の白いパミス含む(3%)。鉄分浸透。
3a層　黄灰色2.5Y4/1，シルト質砂1～0.5cm大の白いパミス含む(5%)。マンガン浸透，下部鉄分多い。
3b層　3a層に類似するが，鉄分多い。
4層　褐灰色10YR4/1，シルト。
5層　オリーブ黒色7.5YR2/2，シルト。

D10
1層　アスファルトと砂利層。
2層　暗灰黄色2.5Y4/2，シルト質砂。0.5～1cm大の白いパミス含む(5%)。
3層　灰黄褐色10YR5/2，シルト質砂。小さな管状の鉄分含む
4層　褐灰色10YR4/1，シルト。
5層　褐灰色10YR6/1，シルト。筋状の鉄分含む，0.5cm大の白いパミスを含む(2%)。

D11
1a層　アスファルトと砂利層。
1b層　10YR5/3砂層。1～0.5cm大の白いパミス含む(3%)。
2層　灰黄褐色10YR5/2，シルト質砂。0.5cm大の白いパミスを含む(2%)，マンガン浸透。

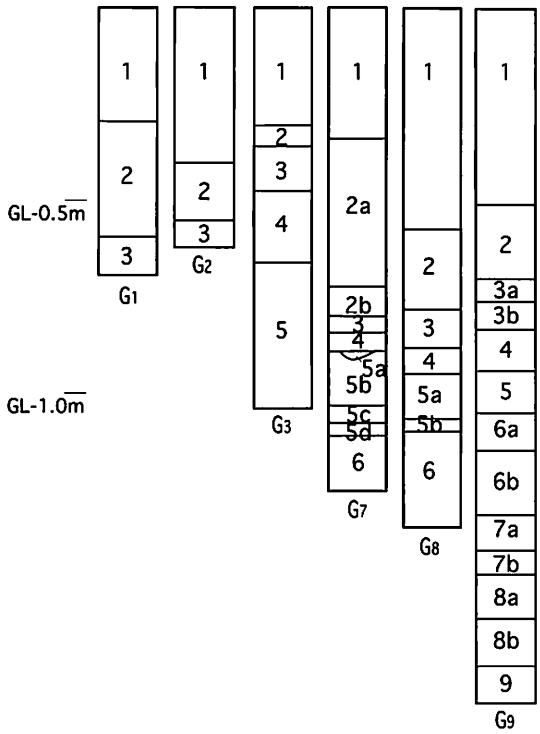
Fig.10 2002-D 土層柱状図

2002-G　理工系総合研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査（Fig.5）

調査区　理学部1号館西側（郡元団地I-7･8区）

調査期間　2002年9月18日-10月23日

掘削地点のほとんどでプライマリーな層が確認できた。特に，掘削深度が1m以上に及んだところは，周辺の過去の発掘調査から推定すると，古墳時代-弥生時代の包含層（6-9層）に比定できる層が確認できた（Fig.11）が，遺物は出土しなかった。



G1・2
1層　表土。
2層　2.5Y6/2類似,1～0.5cm大のパミス含む(5%)。
3層　灰黄褐色10YR5/2, 砂混じりシルト。1～0.5cm大の白いパミス含む(10%)。管状の鉄分あり。

G3
1層　表土。
2層　灰黄褐色10YR5/2, シルト質砂。
3層　灰黄褐色10YR5/2, シルト質砂。
4層　暗灰黄色2.5Y4/2, シルト質砂。
5層　黄灰色2.5Y6/1, シルト質砂。

G7
1層　表土。
2a層　にぶい黄褐色10YR5/3, 砂質シルト。0.5～1cm大のパミス含む。
2b層　にぶい黄褐色10YR4/3, 砂質シルト。0.5～1cm大のパミス含む。
3層　褐色10YR4/4, 細砂層。
4層　灰黄褐色10YR4/2, 細砂質シルト。
5a層　4層と5b層との混土。
5b層　灰黄褐色10YR5/2, シルト。
5c層　褐灰色10YR4/1, シルト。鉄分の浸透。
5d層　5Cと6層との混土,シルト。
6層　黒褐色10YR3/1シルト,粘質, 1cm大のパミス含む。

G8
1層　表土。
2層　にぶい黄褐色10YR5/3, 砂質シルト。0.5～1cm大のパミス含む。
3層　黄褐色10YR5/6粗砂層, 1～3cm大のパミス含む。
4層　灰黄褐色10YR5/2, 細砂層。
5a層　灰黄褐色10YR4/2, シルト。粘質。
5b層　5a層と6層との混土。
6層　黒褐色10YR2/2, シルト, 粘質。

G9
1層　表土。
2層　暗灰黄色2.5Y4/2, 砂質シルト。0.5～4cm大のパミス含む。しまっている。
3a層　灰黄褐色10YR4/2を基調として褐色10YR4/6が混じる。砂質シルト。0.5～4cm大のパミスを含む。
3b層　3a層より灰黄褐色の色調強い。0.5～4cm大のパミス含む。しまっている。
4層　黄灰色2.5Y4/1, 砂質シルト。0.5～4cm大のパミス含む。
5層　黄灰色2.5Y4/1と黒褐色2.5Y3/1の中間色。砂質シルト。
6a層　灰色5Y6/1, シルト質細砂。
6b層　灰黄褐色10YR5/2, シルト。
7a層　灰黄褐色10YR4/2シルト, 0.5～3cm大のパミス含む。
7b層　黒褐色10YR3/2シルト,0.5～3cm大のパミス含む。
8a層　にぶい黄褐色10YR5/3, シルト。
8b層　褐灰色10YR4/2, シルト。
9層　黒褐色10YR3/1, シルト。

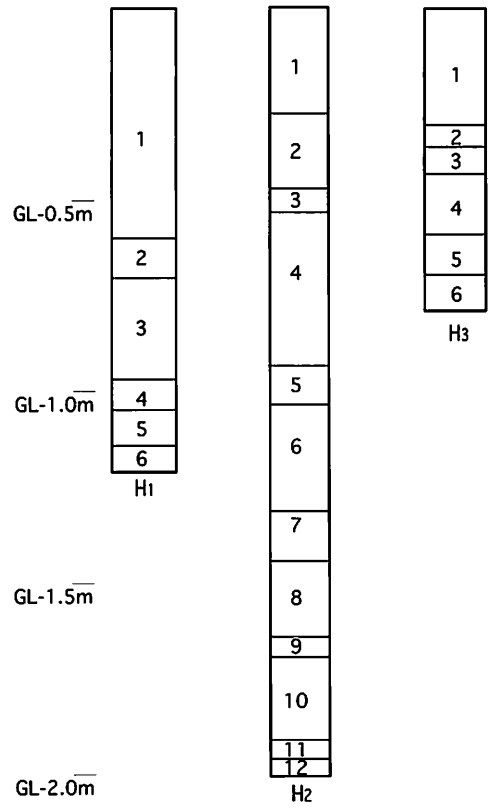
Fig.11 2002-G 土層柱状図

2002-H　理工系総合研究棟新営機械設備工事に伴う立会調査（Fig.5）

調査区　理工系総合研究棟西側道路（郡元団地J・K-10区）

調査期間　2002年12月9日-12月11日

3カ所の掘削地点での立会調査を行った。いずれもプライマリーな土層を確認した（Fig.12）。今回の調査では遺物は出土しなかったが, 周辺の調査から近世-縄文時代の遺物包含層にあたると考えられる。



H1
1層　表土。
2層　灰黄褐色10YR4/2シルト, 鉄分・0.5～1cm大のパミス少量含む, しまっている。
3層　灰黄褐色10YR5/2シルト, 鉄分・5～1cm大のパミス含む, しまっている。
4層　灰黄褐色10YR4/2シルト, 鉄分浸透。
5層　黒褐色10YR3/1シルト。
6層　灰黄褐色10YR5/2シルト, 少し粘質。

H2
1層　撹乱。
2層　灰黄褐色10YR5/3に類似, 砂質シルト。
3層　にぶい黄褐色10YR5/3, 砂質シルト。
4層　灰黄褐色10YR5/2, 砂質シルト。鉄分浸透。
5層　褐灰色10YR5/1に類似, 砂質シルト。
6層　褐灰色10YR5/1に類似, 砂質シルト。
7層　褐灰色10YR4/1.5, 砂質シルト。
8層　褐灰色10YR4/1.5, 砂質シルト。鉄分浸透。
9層　にぶい黄橙色10YR7/2に類似, シルト。
10層　黒褐色10YR3/1, 粗砂まじりシルト。
11層　灰黄褐色10YR6/2.5, 砂。
12層　黒色N1.5/,泥炭層。

H3
1層　撹乱。
2層　にぶい黄褐色10YR5/3に類似, 砂質シルト。
3層　灰黄褐色10YR4/2, 砂質シルト。鉄分浸透。
4層　灰黄褐色10YR5/2, 砂質シルト。鉄分浸透。
5層　褐灰色10YR4/1に類似, 砂質シルト。
6層　褐灰色10YR5/1, 砂質シルト。

Fig.12 2002-H 土層柱状図

2002-J 高倉看板設置工事に伴う立会調査（Fig.3 構内図）

調査地点 正門西北側緑地帯（郡元団地D-4区）

調査期間 2002年12月10日

看板設置のため，2カ所の掘削工事を行った。2カ所とも同じ層位(Fig.13)で，2・3層から瓦が出土した。近現代のものであろうと考えられる。

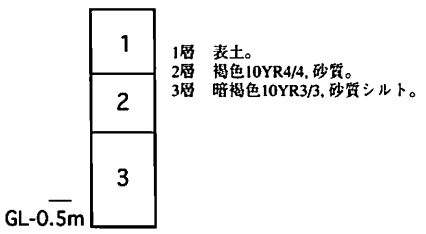


Fig.13 2002-J 土層柱状図

2002-K 理学部校舎改修その他機械設備工事に伴う立会調査（Fig.5）

調査区 理学部1号館南側（郡元団地J-8区）

調査期間 2002年12月11日

理学部校舎際の掘削を行った。2層を確認した（Fig.14）が，どちらにも瓦片等の出土が確認され，現代の層であると考えられる。

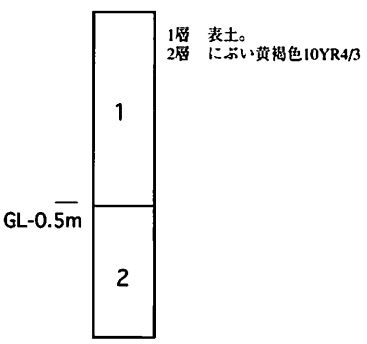


Fig.14 2002-K 土層柱状図

2002-N 理学部講義棟改修工事に伴う立会調査（Fig.5）

調査地 理学部2号館南側薬品庫と講義棟との間（郡元団地I-7区）

調査期間 2003年1月22日

薬品庫と講義棟との間の掘削工事に伴う立会調査を行った。表土が厚く堆積していたが，河川跡と考えられる土層を検出した（Fig.15）。A層から古墳時代後半期の遺物が多く出土したが，いずれも細かく破損し，ほとんどの破片の表面には鉄分が付着し，砂粒が固着していた。以下，実測できるものについて図示し，説明を加える(Fig.16,Tab.4,PL.3)。

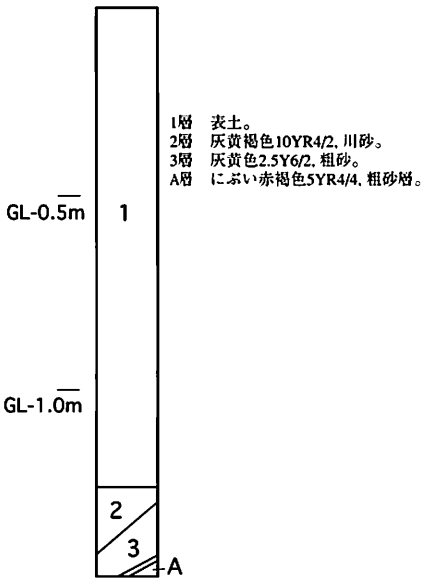


Fig.15 2002-N 土層柱状図

図示できたのは14点である。6-17は甕または鉢で，18・19は壺，6-13は甕の口縁部である。いずれも小破片のため口縁部形態は不明だが，直立またはゆるやかに外反する口縁部の端部であろうと考えられる。口唇部には平坦面をもつ。9は，内湾気味に立ち上がるため鉢である可能性もある。14-17は胴部上半部に貼付された突帯部である。いずれも絡縄突帯で，粗雑なつくりである。

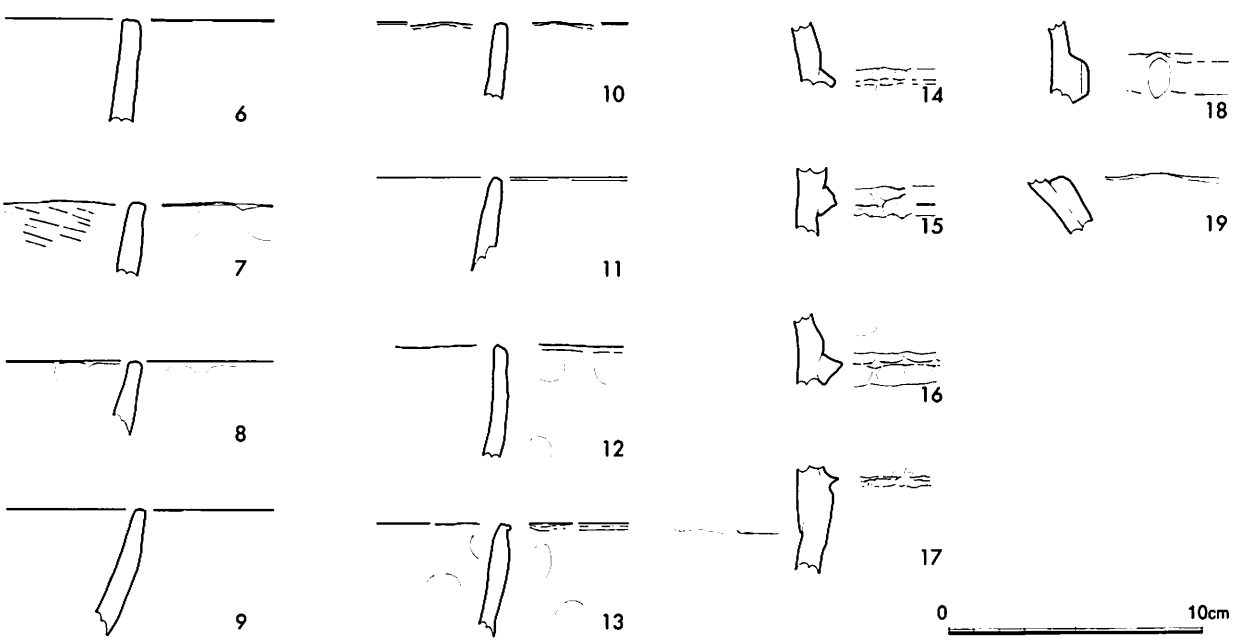


Fig.16 2002-N 出土遺物(S=1/3)

Tab.4 2002-N 出土土器観察

No.	層	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
6	A層	甕	口縁部	外面:不明, 内面:にぶい黄橙色10YR7/4.	付着物のため不明.	−	外面:不明, 内面:ナデ?.	鉄分などの付着物あり, 特に外面.
7	A層	甕	口縁部	外面:灰黄褐色10YR4/2.内面:褐灰色2.5Y4/1.	細砂粒を含む.	2	外面:ナデ, 内面:ハケ(−)→ナデ.	鉄分などの付着物あり.
8	A層	甕	口縁部	付着物のため不明.	付着物のため不明.	−	付着物のため不明.	鉄分などの付着物あり.
9	A層	甕	口縁部	付着物のため不明.	付着物のため不明.	−	付着物のため不明.	
10	A層	甕	口縁部	浅黄橙色10YR8/3を基調とする.	粗砂粒:石英・角せん石, 詳細は付着物のため不明.	−	ナデ?	鉄分などの付着物あり.
11	A層	甕か鉢か壷	口縁部	浅黄橙色10YR8/4.	粗砂粒:白色粒・赤色粒, 砂粒:石英・白色粒・赤色粒・黒色粒.	3	外面:ナデ, 内面:ナデ(|→−).	
12	A層	甕	口縁部	外面:付着物のため不明, 内面:浅黄橙色10YR8/4.	付着物のため不明.	−	ナデ?	鉄分などの付着物あり, 特に外面.
13	A層	甕	口縁部	付着物のため不明.	付着物のため不明.	−	ナデ?	鉄分などの付着物あり.
14	A層	甕	胴部	外面:付着物のため不明, 内面:浅黄橙色10YR8/4.	付着物のため不明.	−	ナデ?	鉄分などの付着物あり.
15	A層	甕	胴部	付着物のため不明.	付着物のため不明.	−	付着物のため不明.	鉄分などの付着物あり.傾き, 上下疑問.
16	A層	甕	胴部	外面:にぶい黄橙色10YR7/3, 内面:10YR7/4	粗砂粒:角せん石, 砂粒:角せん石, 石英, 白色粒, 赤色粒, 細砂粒も含む.	3	外面:ナデ(−). 内面:付着物のため不明.	内面:鉄分などの付着物あり.
17	A層	甕	胴部	外面:付着物のため不明, 内面:にぶい黄橙色10YR7/4.	粗砂粒・砂粒:石英・角せん石・白色粒, 細砂粒も含む.	3	外面:付着物のため不明. 内面:ナデ(＼).	鉄分などの付着物あり, 特に外面. 内面:接合痕あり.
18	A層	壷	胴部	付着物のため不明.	付着物のため不明.	−	付着物のため不明.	鉄分などの付着物あり.
19	A層	壷	胴部	外面:褐灰色, 内面:付着物のため不明.	粗砂粒・砂粒:石英・角せん石・白色粒.	3	ナデ.	鉄分などの付着物あり.

17は内面に粘土帯の接合痕が明瞭に残っている。18・19は壷の幅広突帯である。18は太く浅い刻み目が施されている。19は突帯下部が欠損している。

図示できた遺物のほとんどが，古墳時代後半期の土器であると考えられる。

PL.3 2002-N 出土遺物

2002-P　農学部実験ガス管埋設工事に伴う立会調査 (Fig.24)

調査地　農学部4号館南側道路（郡元団地F-8区）

調査期間　2003年2月27日

実験ガス管埋設工事の試掘のため，1m四方の範囲を地表下1mまで掘削した。1-6層まで確認したが，遺物・遺構等は検出しなかった。

2002-S　理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査地　共通教育棟3号館北側道路噴水（郡元団地K-8区）

Fig.17 2002-P 土層柱状図

調査期間　2002年3月17日

在来の貯水槽を撤去したのち，壁面土層観察を行った(Fig.18)。近代-古代の遺物包含層と考えられる層が確認できたが，プライマリーな層の掘削は行わなかったため，埋蔵文化財への影響はなかった。

2002-T　理学部講義棟改修機械整備工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査地　理学部2号館南側（郡元団地I-7区）

調査期間　2003年3月18日

掘削深度は基本的に70cmまでで，既掘部の範囲だったが，在来の配管と交差する部分を地表下85cmまで掘り下げたため，下部に河川跡の埋土と考えられる層が確認できた（Fig.19)。遺物などは出土していない。

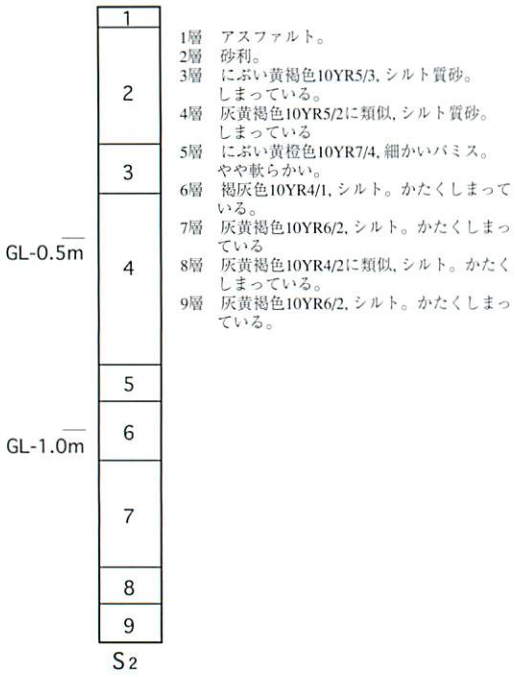


Fig.18 2002-S 土層柱状図

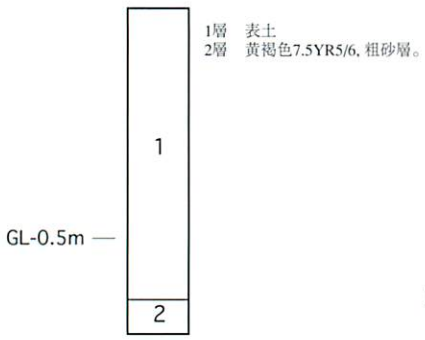


Fig.19 2002-T 土層柱状図

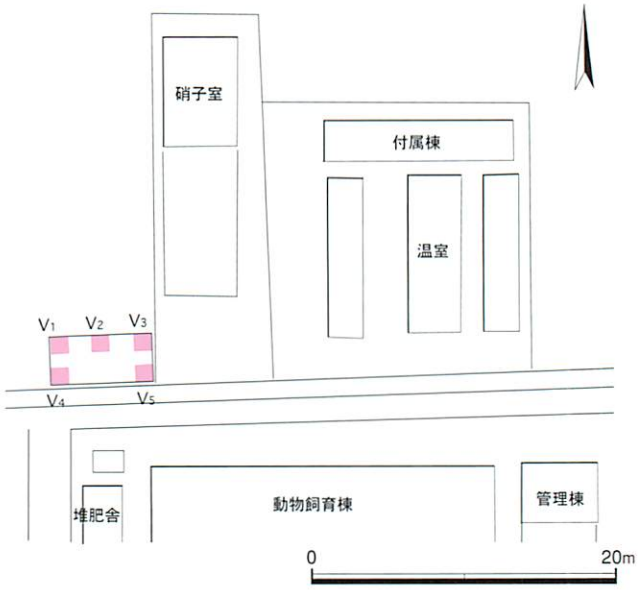
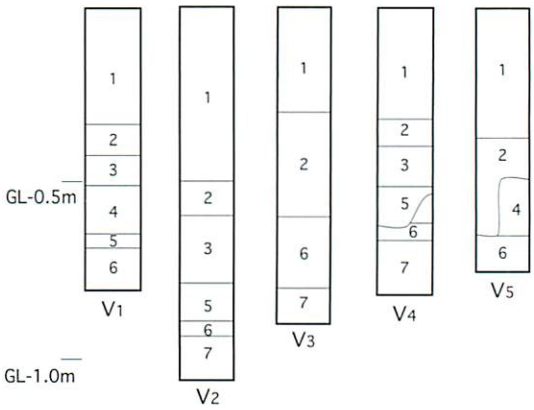


Fig.20 2002-V 立会調査区の位置(S=1/500)



1層　オリーブ黒色7.5YR3/2, シルト。
2層　灰オリーブ色7.5YR4/2, シルト。
3層　にぶい黄褐色10YR4/3, シルト。0.5cm大のパミスを含む。
4層　にぶい黄褐色10YR5/3, 細砂。筋状の鉄分あり。
5層　黄褐色10YR5/6, 粗砂混じりシルト。
6層　灰黄褐色10YR5/2, 砂質シルト。マンガン含む。
7層　にぶい褐色10YR5/3, シルト。マンガン・鉄分浸透。

Fig.21 2002-V 土層柱状図

2002-U　理学部校舎改修その他電気設備工事に伴う立会調査（Fig.5）

調査地　理工系総合研究棟東側（郡元団地 K-8 区）

調査期間　2003 年 3 月 19 日

電気配管工事のための発掘調査で，幅 80cm，地表下 95cmまでの掘削を行った。1-3層までを確認したが，D10 地点の層位と同じである。遺物などの出土はなかった。

2002-V　農学部資源有機物リサイクル場設置工事に伴う立会調査（Fig.20）

調査地　農場管理棟北側（郡元団地 D-10 区）

調査期間　2003 年 3 月 20 日

リサイクル場の基礎部分のみ5カ所の掘削を行った。1カ所の掘削範囲は，2.7 × 2m，深さ 75-106cm におよんだ。1-7 層の基本層位を確認したが（Fig.21），地点ごとに若干の層位の起伏が見られた。遺物は出土しなかった。

2002-W　教育学部幹線並木設備工事に伴う立会調査（Fig.22）

調査地　教育学部ゲートから南側道路･音楽美術棟西側緑地帯（郡元団地 M ～ O-6･7 区）

調査期間　2003 年 3 月 20･21 日

教育学部ゲートより南へのびる道路沿いの並木一帯と，音楽美術棟西側緑地帯に樹木移植のための掘削工事を行った（Fig.22･23）。W2 では，3 層上面に溝状遺構が確認できたが，周辺の過去の発掘調査結果の土層から推定すると，古代か古墳時代のものであると考えられる。遺物などの出土はなかった。

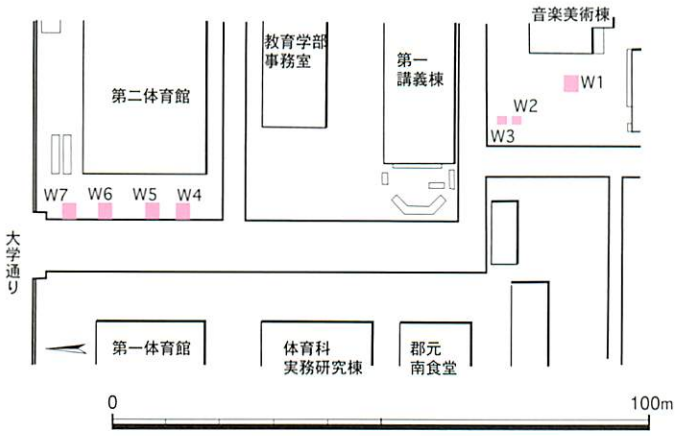
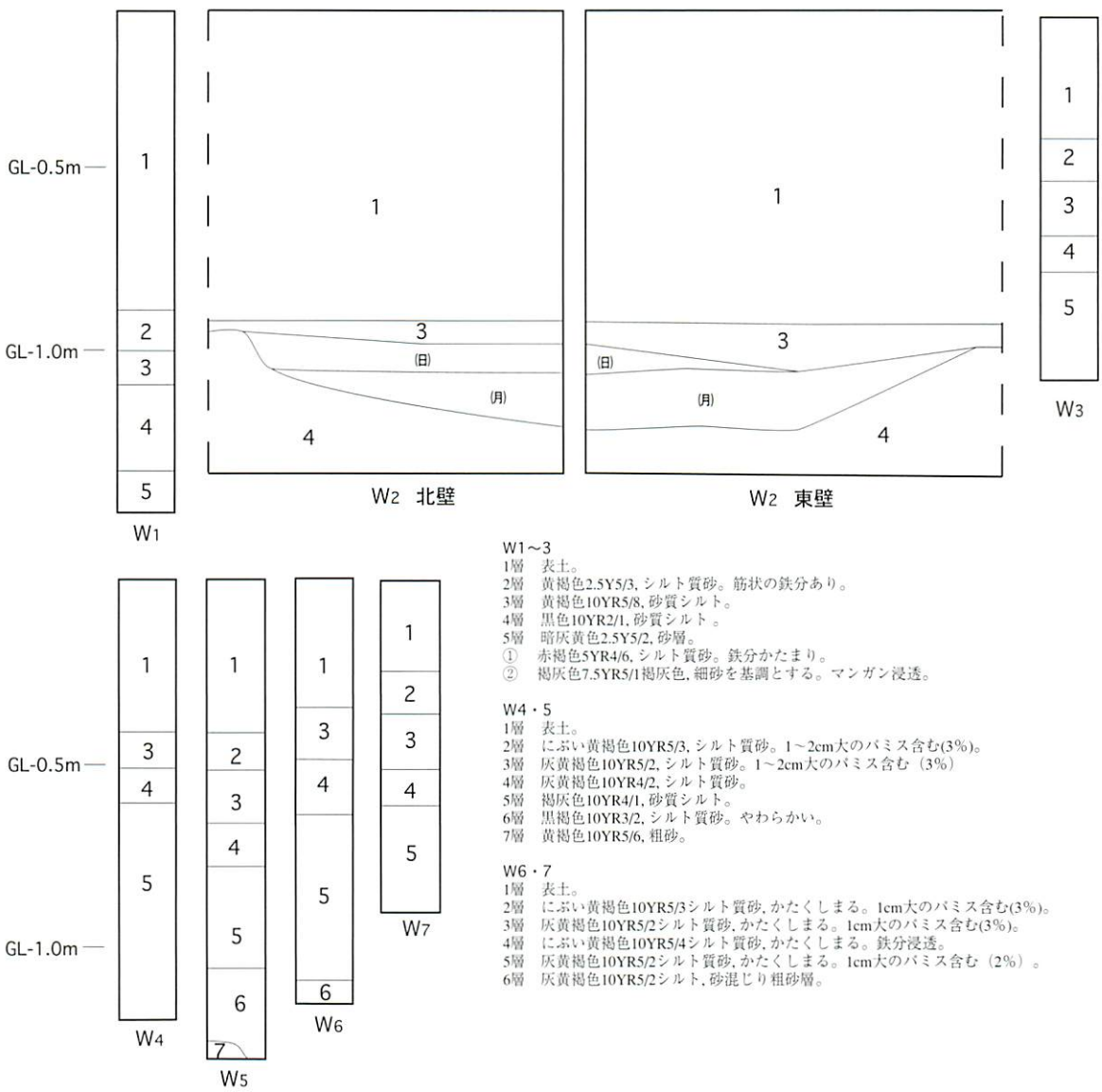


Fig.22 2002-W 立会調査区の位置(S=1/1400)



W1～3
1層　表土。
2層　黄褐色2.5Y5/3, シルト質砂。筋状の鉄分あり。
3層　黄褐色10YR5/8, 砂質シルト。
4層　黒色10YR2/1, 砂質シルト 。
5層　暗灰黄色2.5Y5/2, 砂層。
①　赤褐色5YR4/6, シルト質砂。鉄分かたまり。
②　褐灰色7.5YR5/1褐灰色, 細砂を基調とする。マンガン浸透。

W4・5
1層　表土。
2層　にぶい黄褐色10YR5/3, シルト質砂。1～2cm大のパミス含む(3%)。
3層　灰黄褐色10YR5/2, シルト質砂。1～2cm大のパミス含む（3%）
4層　灰黄褐色10YR4/2, シルト質砂。
5層　褐灰色10YR4/1, 砂質シルト。
6層　黒褐色10YR3/2, シルト質砂。やわらかい。
7層　黄褐色10YR5/6, 粗砂。

W6・7
1層　表土。
2層　にぶい黄褐色10YR5/3シルト質砂, かたくしまる。1cm大のパミス含む(3%)。
3層　灰黄褐色10YR5/2シルト質砂, かたくしまる。1cm大のパミス含む(3%)。
4層　にぶい黄褐色10YR5/4シルト質砂, かたくしまる。鉄分浸透。
5層　灰黄褐色10YR5/2シルト質砂, かたくしまる。1cm大のパミス含む（2%）。
6層　灰黄褐色10YR5/2シルト, 砂混じり粗砂層。

Fig.23 2002-W 土層柱状図

2002-X　埋設土実験に伴うガス管布設工事に伴う立会調査（Fig.24）

調査地　農場内道路（郡元団地F-8区）

調査期間　2003年3月24日

道路部分を, 3.2×0.7mの範囲で, 深さ85cmにわたって, 5カ所の掘削を行った。いずれも同一層で（Fig.25）, 2・3層は水田層であると考えられるが, 遺物等の出土はなく, 時期は不明である。

2　立会調査

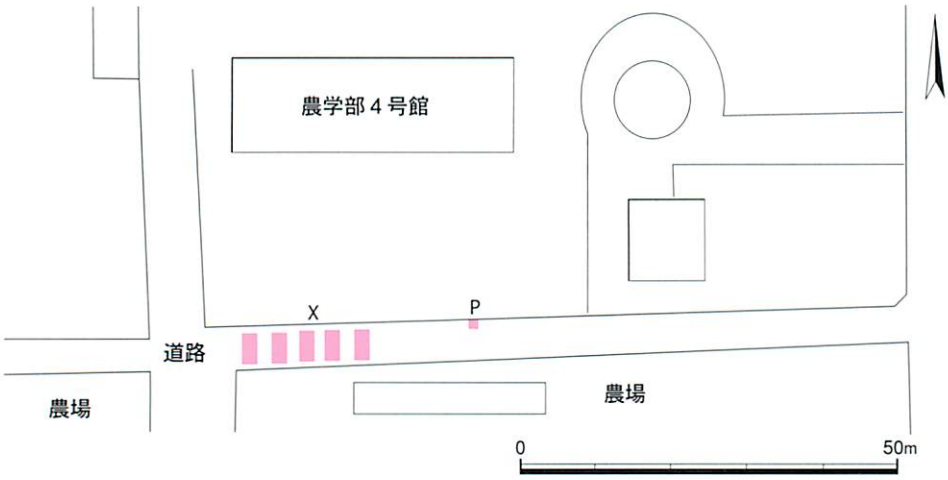


Fig.24 2002-X 立会調査区の位置(S=1/1000)

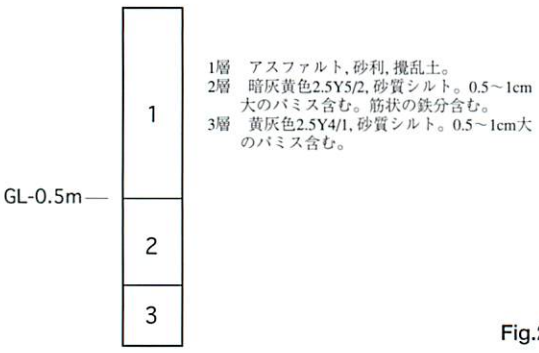


Fig.25 2002-X 土層柱状図

受贈図書　平成14年度(2002年4月～2003年3月)

文献名	発行所
単行本	
平成13年度企画展公開シンポジウム「有樋尖頭器の発生・変遷・終焉」予稿集・記録集	千葉県立房総風土記の丘
市川市出土の埴輪	市立市川考古博物館
静岡の原像をさぐる	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
10年のあゆみ	財団法人岐阜県文化財保護センター
ホケノ山古墳	学生社
大和の考古学100年	奈良県立橿原考古学研究所
20年のあゆみ	八尾市文化財調査研究会
しまねの古代文化　第九号	島根県古代文化センター
山陰地方における古墳群と地域社会	島根県古代文化センター
西谷正先生年譜・著作目録	九州大学大学院人間環境学研究院
太宰府市史　文芸資料編	太宰府市
図録	
海を渡ったアイヌの工芸-英国人医師マンローのコレクションから	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
版画にみる東京の風景ー関東大震災から戦前までー	大田区立郷土博物館
藤内遺跡出土品重要文化財指定記念展「蘇る高原の縄文王国」	富士見町教育委員会
美濃桃山陶	土岐市美濃陶磁歴史館
京都大学所蔵古瓦図録 I(山野道三コレクション)	京都大学大学院文学研究科
紫金山古墳	大阪府立近つ飛鳥博物館
西域への道 シルクロードと大谷探検隊	大阪府立近つ飛鳥博物館
未盗掘古墳の世界	
荒神谷遺跡／加茂岩倉遺跡	大阪府立近つ飛鳥博物館 島根県埋蔵文化財調査センター
志津見ダム地内の遺跡	国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会(埋蔵文化財調査センター)
弥生時代・日本海地域の交流	下関市立考古博物館
伊豫の鏡～鏡に映しだされた古代伊豫～	松山市考古館
「伊都国王都・三雲遺跡」展	
王のアクセサリー	伊都歴史資料館
郷ノ浦町の文化財	伊都歴史資料館
車出遺跡・戸田遺跡・大谷遺跡	壱岐郷土館
刻まれた歴史　ー沖縄の石碑と拓本ー	郷ノ浦町教育委員会 沖縄県立博物館
琉球王国　ー大交易時代とグスクー	沖縄県立博物館
復帰後三十年間の県内発掘調査展	沖縄県立埋蔵文化財センター
パンフレット	
20年のあゆみ	財団法人君津郡市文化財センター
島屋敷物語	東京都埋蔵文化財センター
石器時代の狩猟　槍から弓矢へ	(財)かながわ考古学財団・厚木市教育委員会・大和市教育委員会
くろがねのわざ　新しい時代への礎	静岡市立登呂博物館
海を渡ってきた技術と文化	磐田市教育委員会
暮らすひとびと・行き交うひとびと	三重県埋蔵文化財センター
宝塚古墳の源流を求めて	松阪市教育委員会
どこにあるの? 神戸の遺跡	神戸市埋蔵文化財センター
ドロだらけでなにしとん?	神戸市埋蔵文化財センター
年報	
調査年報 14　平成13年度	財団法人北海道埋蔵文化財センター
北上市埋蔵文化財年報	北上市立埋蔵文化財センター
北上市埋蔵文化財年報(2000年度)	北上市立埋蔵文化財センター
東北大学埋蔵文化財調査年報17	東北大学埋蔵文化財調査研究センター
年報21	財団法人茨城県教育財団
東京大学構内遺跡調査研究年報3	東京大学埋蔵文化財調査室
東京都埋蔵文化財センター年報21	財団法人東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター年報22	財団法人東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター
君津郡市文化財センター　年報No.19	財団法人君津郡市文化財センター
君津郡市文化財センター　年報No.20	財団法人君津郡市文化財センター
千葉県立房総風土記の丘年報23	千葉県立房総風土記の丘
平成10年度　市立市川考古博物館年報(第27号)	市立市川考古博物館
平成11年度　市立市川考古博物館年報(第28号)	市立市川考古博物館
平成13年度　市立市川考古博物館年報(第29号)	市立市川考古博物館
年報　9　平成13年度	財団法人かながわ考古学財団
静岡県埋蔵文化財調査研究所　年報18	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
年報	財団法人岐阜県教育文化財団
平成13年度　年報	財団法人岐阜県文化財保護センター
橿原考古学研究所年報26	奈良県立橿原考古学研究所
橿原考古学研究所年報27	奈良県立橿原考古学研究所
高槻市文化財年報平成12年度	高槻市教育委員会
平成12年度　年報	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
平成13年度　年報	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
平成11年度　神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会
倉敷埋蔵文化財センター年報8	倉敷埋蔵文化財センター
津山弥生の里第9号	津山弥生の里文化財センター
広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報XVII	広島大学環境保全委員会埋蔵文化財調査室
山口大学構内遺跡調査研究年報XIV	山口大学埋蔵文化財資料館
島根県教育庁　埋蔵文化財調査センター年報・　平成13年度	島根県教育委員会
愛比売ー平成12年度年報ー	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
愛比売ー平成13年度年報ー	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
松山市埋蔵文化財調査年報13	松山市教育委員会
福岡市埋蔵文化財年報 Vol.15 ー平成12(2000)年度版ー	福岡市教育委員会
春日市埋蔵文化財年報9	春日市教育委員会
熊本大学埋蔵文化財調査室年報8	熊本大学埋蔵文化財調査室
川内市歴史資料館年報　平成11年度	川内市歴史資料館
川内市歴史資料館年報　平成12年度	川内市歴史資料館
川内市歴史資料館年報　平成13年度	川内市歴史資料館
ミュージアム知覧 館報　第8号	ミュージアム知覧
読谷村立歴史民俗資料館年報第28号	読谷村立歴史民俗資料館
読谷村立歴史民俗資料館年報第27号	読谷村立歴史民俗資料館
紀要	
群馬県立歴史博物館紀要第23号	群馬県立歴史博物館
かながわの考古学研究紀要7	財団法人かながわ考古学財団
研究紀要IX	財団法人君津郡市文化財センター
金沢大学考古学紀要第26号	金沢大学文学部考古学講座
富山考古学研究5号	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
研究紀要第9号	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

受贈図書

文献名	発行所
研究紀要第11号	三重県埋蔵文化財センター
研究紀要第12号ー森脇遺跡ー	三重県埋蔵文化財センター
研究紀要第7集	財団法人由良大和古代文化研究協会
古事　天理大学考古学研究室紀要第6冊	天理大学考古学研究室
考古学論攷第24冊	奈良県立橿原考古学研究所
兵庫県埋蔵文化財研究紀要第2号	兵庫県教育委員会
紀要愛媛第2号	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
ミュージアム知覧紀要第8号	ミュージアム知覧
逐次刊行物	
テエタ　北海道埋蔵文化財センターだより　第7号	財団法人　北海道埋蔵文化財センター
テエタ　北海道埋蔵文化財センターだより　第8号	財団法人　北海道埋蔵文化財センター
胆沢城　第51号	水沢市埋蔵文化財調査センター
平泉文化研究年報第2号	岩手県教育委員会
沖縄研究ノート11	宮城学院女子大学キリスト教文化研究所
研究ノート11号	財団法人茨城県教育財団
歴史人類第31号	筑波大学歴史・人類学系
歴史人類第30号	筑波大学歴史・人類学系
さきたまvol.13	埼玉県立さきたま資料館
調査研究報告第15号	埼玉県立さきたま資料館
駒澤考古第27号	駒澤大学考古学研究室
駒澤考古第28号	駒澤大学考古学研究室
研究論集XIX	東京都埋蔵文化財センター
人類史集報2001	東京都立大学人類史調査グループ
青山史學第20号	青山学院大学文学部史学研究室
きみさらづ第19.20号	財団法人 君津郡市文化財センター
加止里第7号	財団法人 香取郡市文化財センター
千葉県立房総風土記の丘だより第38号	千葉県立房総風土記の丘
千葉県立房総風土記の丘だより第39号	千葉県立房総風土記の丘
千葉県立房総風土記の丘だより第40号	千葉県立房総風土記の丘
研究所報No.97	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報No.98	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報No.99	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報No.100	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報No.101	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報No.102	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡市立登呂博物館館報12ー平成13年度ー	静岡市立登呂博物館
長野県埋蔵文化財発掘調査一覧その12	長野県教育委員会
名古屋市博物館だより　第145号	名古屋市博物館
名古屋市博物館だより　第146号	名古屋市博物館
名古屋市博物館だより　第147号	名古屋市博物館
名古屋市博物館だより　第148号	名古屋市博物館
名古屋市博物館だより　第149号	名古屋市博物館
名古屋市博物館だより　第150号	名古屋市博物館
みえ　第33号	三重県埋蔵文化財センター
佐加太　第16号	坂田郡社会教育研究会文化財部会
佐加太　第17号	坂田郡社会教育研究会文化財部会
京都府埋蔵文化財情報　第83号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報　第84号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報　第85号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報　第86号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
青陵　第108号	奈良県立橿原考古学研究所
青陵　第109号	奈良県立橿原考古学研究所
青陵　第110号	奈良県立橿原考古学研究所
華火　97.98号	財団法人大阪市文化財協会
華火　99号	財団法人大阪市文化財協会
華火　100号	財団法人大阪市文化財協会
華火　101号(Vol.17,No.5)	財団法人大阪市文化財協会
華火　102号	財団法人大阪市文化財協会
華火　総索引集(創刊号～100号)	財団法人大阪市文化財協会
大阪府立近つ飛鳥博物館　館報7	大阪府立近つ飛鳥博物館
アスカディア・古墳の森　Vol.16	大阪府立近つ飛鳥博物館
アスカディア・古墳の森　Vol.17	大阪府立近つ飛鳥博物館
ひょうごの遺跡　43号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
ひょうごの遺跡　44号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
ひょうごの遺跡　45号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
年報 津山弥生の里　第10号(平成13年度)	津山弥生の里文化財センター
自然科学研究所研究報告　第27号	岡山理科大学
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第27号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第28号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
出雲地方における前方後円墳の出現とその時代	島根県教育委員会
隠岐に召すままスペシャル最終号3	島根県埋蔵文化財調査センター
オロチのいぶき(特別号)尾原ダム建設予定地内の遺跡	島根県埋蔵文化財調査センター
青木遺跡調査概報林木バイパス発掘だより増刊号	島根県埋蔵文化財調査センター
斐伊川放水路発掘調査概報「斐伊川放水路発掘物語」PART8	島根県埋蔵文化財調査センター
ドキ土器まいぶん No.13	島根県埋蔵文化財調査センター
ドキ土器まいぶん No.17	島根県埋蔵文化財調査センター
ドキ土器まいぶん No.18	島根県埋蔵文化財調査センター
ドキ土器まいぶん No.19	島根県埋蔵文化財調査センター
ドキ土器まいぶん No.20	島根県埋蔵文化財調査センター
古代文化研究　第10号	島根県古代文化センター
石見銀山ニュース第3号	島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会
まいぶんえひめ　No.28	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
まいぶんえひめ　No.29	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
湯築城だより　1号	湯築城資料館
湯築城だより　2号	湯築城資料館
学内発掘20年の歩み	山口大学埋蔵文化財資料館
山口大学埋蔵文化財資料館収蔵考古資料	山口大学埋蔵文化財資料館
シンポジウム韓国考古学の新世紀	九州大学大学院人文科学研究院
三遺跡交流こどもフォーラム記録集	福岡県教育委員会
姉妹遺跡	福岡県教育委員会
夜須町親子歴史教室	夜須町教育委員会
まいぶん久留米　創刊号	久留米市埋蔵文化財センター
太宰府市史　中世資料編	太宰府市
宇土市史研究第23号	宇土市教育委員会
熊本博物館館報　No.14	熊本市立熊本博物館
ふるさと古代発見展ー原田久保遺跡の調査ー	鹿児島市立ふるさと考古歴史館
ミュージアム知覧通信　第4号	ミュージアム知覧
南日本文化　第35号	鹿児島国際大学付属地域総合研究所

文献名	発行所
鹿児島大学総合情報処理センター広報　2003　No.16	鹿児島大学総合情報処理センター
鹿児島大学総合研究博物館NEWS LETTER　No.2	鹿児島大学総合研究博物館
鹿児島大学総合研究博物館NEWS LETTER　No.3	鹿児島大学総合研究博物館
鹿児島大学総合研究博物館NEWS LETTER　No.4	鹿児島大学総合研究博物館
鹿児島大学総合研究博物館NEWS LETTER　No.5	鹿児島大学総合研究博物館
鹿児島大学総合研究博物館NEWS LETTER　No.6	鹿児島大学総合研究博物館
鹿児島大学総合研究博物館NEWS LETTER	鹿児島大学総合研究博物館
琉球大学考古学研究集録第3号	琉球大学法文学部考古学研究室
調査報告書	
ユカンボシC2遺跡・オサツ2遺跡における考古学的調査	千歳市教育委員会
梅川4遺跡における考古学的調査ー大楽毛1遺跡調査報告書II	千歳市教育委員会
祝梅排水路整備事業に伴う事前調査	釧路市埋蔵文化財調査センター
柳之御所遺跡	鵜川町教育委員会
	花巻地方振興局花巻農村整備事務所・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手の洞穴遺跡	岩手県教育委員会
岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成10年度)	岩手県教育委員会
岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成11年度)	岩手県教育委員会
岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成12年度)	岩手県教育委員会
岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成13年度)	岩手県教育委員会
岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成14年度)	岩手県教育委員会
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成13年度)	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
柳之御所遺跡	岩手県教育委員会
柳之御所遺跡ー第52次発掘調査概報ー	岩手県教育委員会
国見山廃寺跡	北上市立埋蔵文化財センター
塚遺跡	北上市立埋蔵文化財センター
鳩岡崎上の台遺跡	北上市立埋蔵文化財センター
蛭川遺跡	北上市教育委員会
立花南遺跡	北上市教育委員会
向遺跡	北上市教育委員会
黒岩宿遺跡	北上市教育委員会
黒岩城跡	北上市教育委員会
森下遺跡	北上市教育委員会
水沢遺跡群範囲確認調査	水沢市教育委員会
胆沢城跡	水沢市教育委員会
町屋敷遺跡	水沢市教育委員会
手形山南遺跡	秋田市水道局・秋田市教育委員会・駒澤大学考古学研究室
高田B遺跡	仙台市教育委員会・宮城県道路公社
今市遺跡	仙台市教育委員会
若林城跡	仙台市教育委員会
中在家南遺跡(第3・4次)・押口遺跡(第3次)発掘調査報告書	仙台市教育委員会
八木山緑町遺跡ほか発掘調査報告書	仙台市教育委員会
姥久保遺跡IV	東京都南部住宅建設事務所
姥久保遺跡III	東京都南部住宅建設事務所
お茶の水貝塚ー三楽病院若葉寮地区ー	東京都埋蔵文化財センター
市谷本村町遺跡	東京都埋蔵文化財センター
西台後藤田遺跡　第3地点	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡No.20・480遺跡	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡No. 200遺跡	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡No. 939遺跡III	東京都埋蔵文化財センター
島屋敷遺跡	東京都埋蔵文化財センター
内藤町遺跡	東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷跡遺跡IX	東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷跡遺跡X	東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷跡遺跡XI	東京都埋蔵文化財センター
富士見池北遺跡	東京都埋蔵文化財センター
武蔵国分寺跡関連遺跡	東京都埋蔵文化財センター
弁天町遺跡	東京都埋蔵文化財センター
方南峰遺跡C地点	東京都埋蔵文化財センター
吉祥寺南町1丁目遺跡O地点	武蔵野市教育委員会
真人原遺跡III	真人原遺跡発掘調査団
大塚町遺跡2	お茶の水女子大学
日野駅北駐輪場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	日野市
根形台遺跡群II	財団法人君津郡市文化財センター
犬ヶ久保遺跡	財団法人君津郡市文化財センター
坂畑南遺跡	財団法人君津郡市文化財センター
秋元城跡I	財団法人君津郡市文化財センター
中尾遺跡群II	財団法人君津郡市文化財センター
蔵波砦跡	財団法人君津郡市文化財センター
吉原遺跡	財団法人君津郡市文化財センター
高部宮ノ前II遺跡・青山甚太山遺跡II地区	財団法人君津郡市文化財センター
主要地方道成田小見川鹿島港線	財団法人君津郡市文化財センター
織幡ササノ倉遺跡II(遺物篇)	財団法人君津郡市文化財センター
神崎カントリークラブ埋蔵文化財調査報告書I	財団法人君津郡市文化財センター
竜谷城跡II	財団法人君津郡市文化財センター
多古台遺跡群II	財団法人香取郡市文化財センター
神奈川県埋蔵文化財調査報告44	神奈川県教育委員会生涯学習文化財課
稲荷山貝塚	財団法人かながわ考古学財団
原口遺跡III	財団法人かながわ考古学財団
原口遺跡IV	財団法人かながわ考古学財団
佐原城跡遺跡	財団法人かながわ考古学財団
上ノ町遺跡	財団法人かながわ考古学財団
杉浦平太夫邸跡　第3地点	財団法人かながわ考古学財団
正覚寺やぐら群	財団法人かながわ考古学財団
川尻中村遺跡	財団法人かながわ考古学財団
大北横穴墓群	財団法人かながわ考古学財団
池子遺跡群IX	財団法人かながわ考古学財団
道志導水路関連遺跡	財団法人かながわ考古学財団
南原遺跡	財団法人かながわ考古学財団
比奈窪中屋敷横穴墓群	財団法人かながわ考古学財団
恒武西宮遺跡II・笠井若林遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
勝田井の口遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
西の谷遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
大平遺跡II	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
中原遺跡・宮裏遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
藤守遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
下石田原田遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会
御幸町遺跡発掘調査報告書遺物編	沼津市教育委員会
西洞遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会
拓南東遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会
長塚古墳・清水遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会

受贈図書

文献名	発行所
東畑毛遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会
尾崎遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会
埋蔵文化財発掘調査報告書	沼津市教育委員会
岩井戸岩陰遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
後平茶臼古墳・後平遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
上ヶ平遺跡II	財団法人岐阜県文化財保護センター
深橋前遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
太江遺跡・寿楽寺廃寺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
藤田坂遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
徳山陣屋跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
南青柳遺跡・南青柳古墳・大平前遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
保別戸古墳群	財団法人岐阜県文化財保護センター
野笹遺跡II・赤池4号古墳	財団法人岐阜県文化財保護センター
名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(XIII)	名古屋大学年代測定総合研究センター
国指定史跡　小長曽陶器窯跡	財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
市内遺跡調査報告　川合K窯跡	瀬戸市教育委員会・財団法人
内田町遺跡	瀬戸市埋蔵文化財センター
粟生城跡	財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
一般国道23号　中勢道路　埋蔵文化財発掘調査概報XIV	三重県埋蔵文化財センター
	三重県埋蔵文化財センター
粥見井尻遺跡発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
宮山遺跡(第2次)・大久保城跡	三重県埋蔵文化財センター
宮川用水第二期地区　埋蔵文化財発掘調査概報III	三重県埋蔵文化財センター
	三重県埋蔵文化財センター
近畿自動車道尾鷲勢和線(紀勢～勢和間)　埋蔵文化財発掘調査概報III	
金塚遺跡・金塚横穴墓群・山村遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
権現坂遺跡	三重県埋蔵文化財センター
山室遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
城堀遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
真名井神社裏包含地発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
神田遺跡・屋瀬B遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
勢武谷経塚	三重県埋蔵文化財センター
石薬師東古墳群・石薬師東遺跡(第14次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
川島遺跡群(第1次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
惣作遺跡(第2次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
惣作遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
中鳶遺跡(第2次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告III－2	三重県埋蔵文化財センター
発シA遺跡	三重県埋蔵文化財センター
発シA遺跡－第2次調査－	三重県埋蔵文化財センター
堀田　第3～5次調査	三重県埋蔵文化財センター
埋蔵文化財発掘調査概報III	三重県埋蔵文化財センター
埋蔵文化財発掘調査概報V	三重県埋蔵文化財センター
埋蔵文化財発掘調査概報VIII	三重県埋蔵文化財センター
野篠里中遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
野田塚・野田遺跡	三重県埋蔵文化財センター
里前遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
里前遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
六大A遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
伊勢町第23.24.25次	松本市教育委員会
岡の宮遺跡I	松本市教育委員会
出川南遺跡	松本市教育委員会
川西開田遺跡V・三間沢川左岸遺跡III	松本市教育委員会
百瀬遺跡IV	松本市教育委員会
平田北遺跡VI	松本市教育委員会
清水島II遺跡・中名II遺跡・持田I遺跡発掘調査報告	002
石名田木船遺跡発掘調査報告	2002
中山中遺跡発掘調査レポート	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

文献名	発行所
埋蔵文化財調査概要－平成13年度－	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
京都大学構内遺跡調査研究年報1997・1998年度	京都大学埋蔵文化財研究センター
野山遺跡群III	奈良県教育委員会
下永東方遺跡	奈良県立橿原考古学研究所
居伝遺跡	奈良県立橿原考古学研究所
栗谷遺跡群	奈良県立橿原考古学研究所
菅田遺跡	奈良県立橿原考古学研究所
西坊城遺跡	奈良県立橿原考古学研究所
長谷寺	奈良県立橿原考古学研究所
坪井・大福遺跡	奈良県立橿原考古学研究所
東大寺三社池	奈良県立橿原考古学研究所
奈良県遺跡調査概報1997年度(第三分冊)	奈良県立橿原考古学研究所
奈良県遺跡調査概報1998年度(第一～三分冊)	奈良県立橿原考古学研究所
東但馬遺跡	三宅町教育委員会　奈良県立橿原考古学研究所
平城京左京四条三坊十一坪 発掘調査報告書	平城京左京四条三坊十一坪発掘調査会・奈良大学考古学研究室
多哥寺遺跡－1980～1982年度発掘調査報告書－	兵庫県多可郡中町教育委員会
墳丘のない墓の探査研究	奈良大学文学部考古学研究室
鬼虎川遺跡第22次調査概要報告	天理大学考古学研究室
瓜破遺跡発掘調査報告　II	大阪府教育委員会　財団法人東大阪市文化財協会
大阪市内における朝鮮・日本石造物調査報告	財団法人大阪市文化財協会
大阪城跡　V	財団法人大阪市文化財協会
長原・瓜破遺跡発掘調査報告　XVIII	財団法人大阪市文化財協会
長原遺跡東部地区発掘調査報告　V	財団法人大阪市文化財協会
長原遺跡発掘調査報告　IX	
長原遺跡発掘調査報告　VIII	財団法人大阪市文化財協会
南住吉遺跡発掘調査報告　II	財団法人大阪市文化財協会
大阪市埋蔵文化財発掘調査報告－1999・2000年度－	財団法人大阪市文化財協会
大阪城跡V	財団法人大阪市文化財協会
平成14年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告	財団法人大阪市文化財協会
客坊寺跡西縁部の中・近世遺構	財団法人八尾市文化財調査研究会
入佐川遺跡　小野川放水路次号に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(III)	財団法人東大阪市文化財協会
年ノ神遺跡	兵庫県教育委員会
年ノ神古墳群　－山陽自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXXVI－	兵庫県教育委員会
梅田古墳群I－播但連絡道路(5期事業)に伴う埋蔵文化財調査報告書II日下部遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
まるやま遺跡II	兵庫県教育委員会
塩壺遺跡	兵庫県教育委員会
貝谷遺跡　－山陽自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書XXXVIII－	兵庫県教育委員会
五反田遺跡　県立コウノトリの郷公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
荒田神社裏遺跡	兵庫県教育委員会
住吉宮町遺跡第33次調査	兵庫県教育委員会
上石遺跡	兵庫県教育委員会
西山B・C古墳群	兵庫県教育委員会
大年山遺跡・大年山古墳　－山陽自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXXIX－	兵庫県教育委員会
佃遺跡	兵庫県教育委員会

文献名	発行所
的場遺跡・上ノ段遺跡　ー(国)175号特殊改良第一種事業に伴う発掘調査報告書ー	兵庫県教育委員会
宝林寺北遺跡II	兵庫県教育委員会
北口町遺跡	兵庫県教育委員会
薬師前遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
深江北町遺跡　第9次	神戸市教育委員会
淡河木津遺跡　第1次・第2次発掘調査報告書	神戸市教育委員会
日輪寺遺跡発掘調査報告書	神戸市教育委員会
日輪寺遺跡第4次～第7次調査	
兵庫県指定有形民俗文化財	神戸市教育委員会
沢の鶴大石蔵発掘調査報告書	
野瀬遺跡	神戸市教育委員会
特別史跡姫路城跡	姫路市教育委員会
ーお城本町地区市街地再開発事業に伴う発掘調査概報ー	
TSUBOHORI姫路市埋蔵文化財調査略報	姫路市教育委員会
沼E遺跡I	津山市教育委員会
美作国分跡	津山市教育委員会
今岡廃寺	大原町教育委員会
帝釈峡遺跡群発掘調査室年報XVI	広島大学大学院文学研究科
屋敷古墳群・鋤崎古墳群・足頭古墳群・長廻古墳群・海部城跡・杓子観音・古墳群・杓子観音・遺跡	島根県教育委員会
御崎谷・遺跡	島根県教育委員会
ー海軍望楼の官舎跡の調査ー	
増補改訂　島根県遺跡地図・(石見編)	島根県教育委員会
田中谷遺跡・塚山古墳・下がり松遺跡・角谷遺跡	島根県教育委員会
東船遺跡　ー旧石器時代から近代までの複合遺跡の調査ー	島根県教育委員会
馬場遺跡・杉ヶ撓遺跡・客山墳墓群・連行遺跡	島根県教育委員会
石見銀山	島根県教育委員会・大田市教育委員会
石見銀山(龍昌寺跡)	島根県教育委員会・大田市教育委員会
加茂岩倉遺跡	島根県教育委員会・加茂町教育委員会
下山遺跡(2)	国土交通省中国地方整備局・
ー縄文時代遺構の調査ー	島根県教育委員会
貝谷遺跡	国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
小丸遺跡	国土交通省中国地方整備局島根県教育委員会
上野・遺跡ー弥生後期集落及び鍛冶関連遺跡の調査ー	日本道路公団中国支社・島根県教育委員会
神原・遺跡ー1997年の調査結果ー	国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
檀原遺跡(2)ー自然科学分析編ー	国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
殿淵山遺跡・獅子谷遺跡(1)	国土交通省中国地方整備局・
ー遺構・遺物編ー	島根県教育委員会
島根県出雲市　古志本郷遺跡IV・放れ山横穴墓群・只谷間府・上沢・遺跡(分析編)	日本道路公団中国支社・島根県教育委員会
堤平遺跡	国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所・島根県教育委員会
馬場遺跡発掘調査報告書	日本道路公団中国支社・島根県教育委員会
白石大谷・遺跡・惣三堀遺跡　掘田ヶ谷遺跡・地蔵院遺跡・熊谷遺跡	日本道路公団中国支社・島根県教育委員会
青銅器埋納地調査報告書I(銅鐸編)	島根県埋蔵文化財調査センター・島根県古代文化センター

文献名	発行所
弥生時代の磨製石器	島根県埋蔵文化財調査センター・島根県古代文化センター
史跡松江城整備事業報告書	松江市教育委員会
二ツ縄手遺跡発掘調査報告書	松江市教育委員会
シアケ遺跡発掘調査報告書	伯太町教育委員会
石見銀山　遺跡総合調査概報(2)	温泉津町教育委員会・仁摩町教育委員会・大田市教育委員会・島根県教育委員会
妻木晩田遺跡	淀江町教育委員会
淀江町内遺跡VIII	淀江町教育委員会
農学部遺跡1	香川大学埋蔵文化財調査室
幸の木遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
祝谷西山遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
大久保遺跡・大久保1号墳	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
中城跡　底なし田・遺跡　元城跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
土居窪遺跡2次・祝谷畑中遺跡・祝谷	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
本村遺跡2次	
土居山遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
東峰遺跡第2・4地点　高見I遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
湯築城跡　第5分冊	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
道後町遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
伊台惣部遺跡	松山市教育委員会
桑原地区の遺跡IV	松山市教育委員会
愛媛大学埋蔵文化財調査室年報ー1995・1996年度ー	愛媛大学埋蔵文化財調査室
愛媛大学埋蔵文化財調査室年報ー1997・1998年度ー	愛媛大学埋蔵文化財調査室
太宰府政庁跡	九州歴史資料館
堂畑遺跡I	福岡県教育委員会
流川地区遺跡群	福岡県教育委員会
宝満山遺跡群・浦ノ田遺跡III	福岡県教育委員会
原東遺跡　ー原東遺跡　第2次調査	福岡県教育委員会
松門寺A遺跡	福岡県教育委員会
西新町遺跡IV	福岡県教育委員会
船越高原A遺跡III	福岡県教育委員会
楠木遺跡群	福岡県教育委員会
福岡県埋蔵文化財発掘調査年報ー平成12年度ー	福岡県教育委員会
コノリ遺跡　ー第3次調査報ー	福岡市教育委員会
井尻B遺跡10	福岡市教育委員会
ー井尻B遺跡第16次調査の報告ー	
井相田D遺跡　ー第1・3次調査ー	福岡市教育委員会
吉武遺跡群XIV　ー飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書8ー	福岡市教育委員会
久保園遺跡2・席田青木遺跡4　ー空港線関係埋蔵文化財発掘調査報告書	福岡市教育委員会
元岡・桑原遺跡群1ー　第2次調査の報告	福岡市教育委員会
下山門敷町遺跡ー下山門敷町遺跡第3次調査報告ー・下山門乙女田遺跡ー	福岡市教育委員会
下山門乙女田遺跡第2次調査報告	
五十川遺跡ー第5.6.7.8次調査の概要	福岡市教育委員会
高畑遺跡　ー第18次調査ー	福岡市教育委員会
鴻臚館跡12ー平成11・12年度発掘調査報告書ー	福岡市教育委員会
鋤崎古墳　1981～1983年調査報告	福岡市教育委員会
鋤崎古墳群3　B－5号墳の調査	福岡市教育委員会
西新地区元寇防塁発掘調査報告書	福岡市教育委員会

受贈図書

文献名	発行所
大原D遺跡3－大原D遺跡群第5次・第6次調査報告－	福岡市教育委員会
那珂30－那珂遺跡第75次調査報告－	福岡県教育委員会
那珂31	福岡市教育委員会
－那珂遺跡第77次・78次調査報告－	
那珂32－那珂遺跡第73次調査報告－	福岡市教育委員会
内ヶ磯窯跡2	福岡市教育委員会
萩ノ尾古墳	福岡市教育委員会
田島A遺跡－第3.4.5.6次調査報告	福岡市教育委員会
博多80－御供所疎開跡地道路関係埋	福岡市教育委員会
蔵文化財発掘調査報告書－	福岡市教育委員会
博多81	福岡市教育委員会
－博多遺跡群第100次調査の概要－	
博多82	福岡市教育委員会
－博多遺跡群第115次調査の報告－	
博多83	福岡市教育委員会
－博多遺跡群第127次調査の概要－	
博多84	福岡市教育委員会
－博多遺跡群第122次発掘調査報告書－	
博多85	
－博多小学校建設に伴う埋蔵文化財	福岡市教育委員会
発掘調査報告書－	
麦野A遺跡	福岡市教育委員会
－麦野A遺跡群第10次調査報告－	
箱崎11	福岡市教育委員会
－箱崎遺跡第16次調査報告－	
箱崎12	福岡市教育委員会
－箱崎遺跡群第17次・第23次調査報告－	福岡市教育委員会
箱崎13－箱崎遺跡第21次調査報告－	福岡市教育委員会
板付市周辺遺跡調査報告書第23集	福岡市教育委員会
板付周辺遺跡調査報告書第24集	福岡市教育委員会
板付周辺遺跡調査報告書第25集	福岡市教育委員会
飯倉C遺跡3　第5次調査	福岡県教育委員会
彼坪遺跡I	
福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査	福岡市教育委員会
報告－14－	
野方平原遺跡	福岡市教育委員会
－第1次・第2次調査の報告－	
有田・小田部　第37集	福岡市教育委員会
立花寺B遺跡2	福岡市教育委員会
－都市高速道路5号線建設に伴う埋蔵	
文化財発掘調査報告書－	
ホリ遺跡	筑紫野市教育委員会
案内遺跡	筑紫野市教育委員会
永岡遺跡	筑紫野市教育委員会
貝元遺跡1	筑紫野市教育委員会
山家地区史跡整備調査報告I	筑紫野市教育委員会
柴田城峯畑遺跡第7次調査	筑紫野市教育委員会
袖ノ木遺跡	筑紫野市教育委員会
太宰府条坊跡	筑紫野市教育委員会
太宰府条坊跡	筑紫野市教育委員会
大曲り遺跡II	筑紫野市教育委員会
峰古野1号墳	筑紫野市教育委員会
峯畑遺跡	筑紫野市教育委員会
堀池遺跡II	筑紫野市教育委員会
老松神社古墳群	筑紫野市教育委員会
大保西小路遺跡2	小郡市教育委員会
横隈仕解田遺跡	小郡市教育委員会
横隈十三塚遺跡 I	小郡市教育委員会
横隈十三塚遺跡2	小郡市教育委員会
横隈上内畑遺跡3	小郡市教育委員会
横隈上内畑遺跡4	小郡市教育委員会
横隈上内畑遺跡6	小郡市教育委員会
花立山古墳群1	小郡市教育委員会
干潟遺跡6	小郡市教育委員会
干潟狼山遺跡	小郡市教育委員会
三沢ヶ浦遺跡4	小郡市教育委員会

文献名	発行所
三沢ハサコの宮遺跡III	小郡市教育委員会
三沢古賀遺跡3	小郡市教育委員会
三沢寺小路遺跡2	小郡市教育委員会
三沢北中尾遺跡1地点	小郡市教育委員会
三沢篷ヶ浦遺跡2	小郡市教育委員会
寺福童遺跡2	小郡市教育委員会
小郡官衙周辺遺跡2	小郡市教育委員会
小郡若山遺跡6	小郡市教育委員会
小郡川原田遺跡II	小郡市教育委員会
小板井蓮輪遺跡	小郡市教育委員会
上岩田周辺遺跡	小郡市教育委員会
福童山の上遺跡4	小郡市教育委員会
力武内畑遺跡3	小郡市教育委員会
力武内畑遺跡4	小郡市教育委員会
外野遺跡.荒木今宮脇遺跡	久留米市埋蔵文化財センター
久留米市内遺跡群	久留米市埋蔵文化財センター
久留米市埋蔵文化財調査集報IV	久留米市埋蔵文化財センター
金丸遺跡	久留米市埋蔵文化財センター
櫛原侍屋敷遺跡	久留米市埋蔵文化財センター
大園遺跡	久留米市埋蔵文化財センター
筑後国府跡	久留米市埋蔵文化財センター
原ノ口遺跡	春日市教育委員会
須玖タカウタ遺跡	春日市教育委員会
立石遺跡	春日市教育委員会
高祖遺跡群III	前原市教育委員会
高田小生水遺跡	前原市教育委員会
三雲・井原遺跡II	前原市教育委員会
三坂七尾遺跡	前原市教育委員会
神在横畠遺跡	前原市教育委員会
神在藤瀬家住宅	前原市教育委員会
飯原門口遺跡	前原市教育委員会
蔵持境遺跡	前原市教育委員会
萩浦天神社裏古墳	前原市教育委員会
潜塚古墳II	大牟田市教育委員会
三池集治監跡II	大牟田市教育委員会
黒崎観世音塚古墳	大牟田市教育委員会
大間遺跡	大牟田市教育委員会
田隈柿添遺跡	大牟田市教育委員会
田隈中屋敷遺跡	大牟田市教育委員会
梅林遺跡　第3次調査	大牟田市教育委員会
塚口遺跡	大野城市教育委員会
大野城市の文化財　第34集	大野城市教育委員会
	宗像市教育委員会
山田西遺跡群III	那珂川町教育委員会
宗石遺跡群	那珂川町教育委員会
徳政宮ノ上遺跡	那珂川町教育委員会
迫頭遺跡I	夜須町教育委員会
八ヶ坪遺跡	夜須町教育委員会
三並宮ノ前遺跡.本宮遺跡.鎌瀬遺跡	夜須町教育委員会
城山遺跡群IV	夜須町教育委員会
赤坂古墳群I	夜須町教育委員会
曽根田前田遺跡I	夜須町教育委員会
曽根田前田遺跡III	夜須町教育委員会
惣利遺跡I	夜須町教育委員会
大坪遺跡II	夜須町教育委員会
大木遺跡III	夜須町教育委員会
中原遺跡	夜須町教育委員会
藤坂古墳群II	夜須町教育委員会
梨子木遺跡	夜須町教育委員会
広園地区遺跡	吉井町教育委員会
吉井中学校遺跡遺構編　吉井中学校	吉井町教育委員会
改築に伴う埋蔵文化財発掘調査	
吉井町遺跡群　屋部西文蔵遺跡	吉井町教育委員会
吉井町遺跡群　千年地区遺跡群　千	吉井町教育委員会
年小森遺跡・千年西田遺跡	
宇野地区遺跡群IV　－福岡県築上郡	新吉富村教育委員会
新吉富村所在遺跡群の調査－	

文献名	発行所
東北アジアにおける先史文化の比較考古学的研究	九州大学大学院人文科学研究院
椎現原遺跡　椎現原遺跡2区 ー弥生時代集落の調査ー	佐賀市教育委員会
椎現原遺跡　椎現原遺跡2区 ー弥生時代集落の調査ー	佐賀市教育委員会
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 ー1999年度ー	佐賀市教育委員会
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 ー1999年度ー	佐賀市教育委員会
上和泉遺跡群・上和泉遺跡9区 ー佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書15ー	佐賀市教育委員会
上和泉遺跡群・上和泉遺跡9区 ー佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書15ー	佐賀市教育委員会
石土井遺跡・上九郎遺跡	佐賀市教育委員会
石土井遺跡・上九郎遺跡	佐賀市教育委員会
増田遺跡群・ ー増田遺跡4・5区の調査ー	佐賀市教育委員会
徳永遺跡群VI　徳永遺跡20区 ー佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書13ー	佐賀市教育委員会
徳永遺跡群VII　徳永遺跡21区 ー佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書14ー	佐賀市教育委員会
徳永遺跡群VIII　徳永遺跡3区・上和泉遺跡8区ー佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書16ー	佐賀市教育委員会
徳永遺跡群IX　徳永遺跡7・16区 ー佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書17ー	佐賀市教育委員会
徳永遺跡群X　徳永遺跡13・19区 ー佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書18ー	佐賀市教育委員会
徳永遺跡群XI　徳永遺跡17区 ー佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書19ー	佐賀市教育委員会
平尾二本杉遺跡I－1区の調査ー	佐賀市教育委員会
平尾二本杉遺跡II－2～6区の調査ー	佐賀市教育委員会
佐志中通遺跡(2)	唐津市教育委員会
川頭遺跡	唐津市教育委員会
天神ノ元遺跡	唐津市教育委員会
唐津市内遺跡確認調査(18)	唐津市教育委員会
安国寺遺跡・原遺跡ほか	国東町教育委員会
原遺跡亀井1地区・原遺跡平原1地区・原遺跡七郎丸1遺跡	国東町教育委員会
国史跡　安国寺集落遺跡	国東町教育委員会
飯塚遺跡	国東町教育委員会
上城遺跡	久住町教育委員会
中殿遺跡	久住町教育委員会
原の辻遺跡	原の辻遺跡保存等協議会
原の辻遺跡	長崎県芦辺町教育委員会
原の辻遺跡　ー低地溜め池設置工事に伴う緊急発掘調査報告書ー	長崎県芦辺町教育委員会
特別史跡　原の辻遺跡　ー原の辻遺跡記念物保存修理に伴う発掘調査ー	長崎県芦辺町教育委員会
特別史跡　原の辻遺跡　ー青銅製権に関する自然科学分析の成果報告ー	長崎県芦辺町教育委員会
特別史跡金田城跡環境整備基本計画概要書	美津島町教育委員会
矢立山古墳群発掘調査概報(2)	厳原町教育委員会
沈目遺跡	城南町教育委員会
先史琉球の生業と交易	熊本大学文学部
屋敷遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
柿迫遺跡・龍泉寺遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
枯木ヶ迫遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
上ノ原遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
蔵座村遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
長薗原遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
東九州自動車道(都農～西都間)関連埋蔵文化財発掘調査報告書II	宮崎県埋蔵文化財センター
東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書II	宮崎県埋蔵文化財センター
内城跡	宮崎県埋蔵文化財センター
南学原第1遺跡・南学原第2遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
白ヶ野第2・第3遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
白ヶ野第2・第3遺跡.上の原第1遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
迫内遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
別府原遺跡・西ヶ迫遺跡・別府原第2遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
本城跡	宮崎県埋蔵文化財センター
木脇遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
宮崎県文化財年報III	宮崎県教育委員会
西都原100号墳	宮崎県教育委員会
西都原古墳群	宮崎県教育委員会
横市地区遺跡群　江内谷遺跡・坂元B遺跡・加治屋B遺跡(第1次調査)	宮崎県都城市教育委員会
横市地区遺跡群　肱穴遺跡(1)/今房遺跡/馬渡遺跡(第1次)	宮崎県都城市教育委員会
下久玉遺跡　第9・10次調査	宮崎県都城市教育委員会
桑原遺跡	宮崎県都城市教育委員会
志和池村古墳・9号墳	宮崎県都城市教育委員会
大浦遺跡	宮崎県都城市教育委員会
大久保第2遺跡	宮崎県都城市教育委員会
大島畠田遺跡	宮崎県都城市教育委員会
池ノ友遺跡(第1次調査)	宮崎県都城市教育委員会
天神遺跡第2次・中町遺跡第3次調査	宮崎県都城市教育委員会
平峰遺跡	宮崎県都城市教育委員会
稲荷下遺跡II	宮崎県えびの市教育委員会
小岡丸地区遺跡群	宮崎県えびの市教育委員会
草刈田遺跡	宮崎県えびの市教育委員会
干迫遺跡「I」概要・縄文時代遺構	鹿児島県立埋蔵文化財センター
干迫遺跡「II-1」縄文土器1	鹿児島県立埋蔵文化財センター
干迫遺跡「II-2」縄文土器2	鹿児島県立埋蔵文化財センター
干迫遺跡「III」縄文時代石器ほか・付篇	鹿児島県立埋蔵文化財センター
干迫遺跡「IV」写真図版	鹿児島県立埋蔵文化財センター
九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡　東九州自動車道建設(末吉IC～国分IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書I	鹿児島県立埋蔵文化財センター
計志加里遺跡　九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II	鹿児島県立埋蔵文化財センター
高井田遺跡　国道10号姶良バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿児島県立埋蔵文化財センター
今里遺跡　ー南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IVー(伊集院IC～市来IC)	鹿児島県立埋蔵文化財センター
寿国寺跡・梅落遺跡　九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　IV	鹿児島県立埋蔵文化財センター
出水平遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
諏訪免遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
鍛冶屋馬場遺跡　九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III	鹿児島県立埋蔵文化財センター
池之頭遺跡　ー南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IIIー(伊集院IC～市来IC)	鹿児島県立埋蔵文化財センター

受贈図書

文献名	発行所
茶屋ノ元遺跡、鐙・安原遺跡、宮野脇遺跡、小松遺跡、前市野原遺跡、東下原遺跡九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書I	鹿児島県立埋蔵文化財センター
小倉畑遺跡　一般国道10号姶良バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅰ)	鹿児島県立埋蔵文化財センター
松尾城跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
本御内遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
鹿児島市遺跡分布図	鹿児島市教育委員会
原田久保遺跡	鹿児島市教育委員会
武遺跡E地点	鹿児島市教育委員会
名山遺跡	鹿児島市教育委員会
春日町遺跡B地点	鹿児島市教育委員会
伊作城跡	吹上町教育委員会
外園遺跡	松元町教育委員会
宮ノ上遺跡	鹿児島県吉田町教育委員会
健昌城跡	姶良町教育委員会
立山B遺跡	大崎町教育委員会
常盤原遺跡	鹿児島県郡山町教育委員会
「仲覚兵衛顕彰事業」調査報告書	ミュージアム知覧
田平下遺跡	財部町教育委員会
楠川城跡	鹿児島県上屋久町教育委員会
立切遺跡	鹿児島県熊毛郡中種子町教育委員会
志喜屋武当遺跡	鹿児島県知名町教育委員会
ヤッチのガマ・カンジン原古墓群	沖縄県立埋蔵文化財センター
円覚寺跡ー遺跡確認調査報告書ー	沖縄県立埋蔵文化財センター
浦添ようどれI	浦添市教育委員会
大里城跡ー都市公園計画に係わる緊急確認発掘調査報告書(2)	沖縄県大里村教育委員会

埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第 1 条　本学に，鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議)

第 2 条　委員会は，本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

（1）基本計画の策定に関すること。

（2）調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第 3 条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

（1）学長

（2）各学部長，附属図書館長，医学部附属病院長および歯学部附属病院長

（3）事務局長

（4）学生部長

(委員長)

第 4 条　委員会に委員長を置き，学長をもって充てる。

2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

(議事)

第 5 条　委員会は，委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立し，議事は出席委員の 3 分の 2 以上をもって　決する。

(委員以外の者の出席)

第 6 条　委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことが出来る。

(調査委員会)

第 7　条　委員会は，本学の埋蔵文化財の調査を行なうため，埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第 8 条　調査委員会は次の事項を審議する。

（1）調査実施計画に関すること。

（2）第 13 条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

（3）第 13 条に規定する調査室の予算に関すること。

（4）その他埋蔵文化財及び第 13 条に規定する調査室の業務に関すること。

第 9 条　調査委員会は，次に掲げる委員をもって組織し，学長が任命する。

（1）各学部の教授，助教授，講師の中から選任された者各 1 名

（2）第 15 条 2 項に規定する調査室長

2　前項第 1 号の委員の任期は 2 年とし，委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は，前任者の残任期間とする。

第 10 条　調査委員会に委員長を置き，前項第 1 項第 1 号の委員の中から互選により選出する。

2　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

第 11 条　調査委員会は，委員の過半数の出席をもって成立し，議事は，出席委員の過半数をもって決する。

第 12 条　調査委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことができる。

(調査室)

第 13 条　調査委員会に，本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

第 14 条　調査室は，次の業務を行なう。

（1）調査実施計画の立案

（2）発掘調査，分布調査及び確認調査

（3）調査報告書の作成

（4）その他必要な事項

第 15 条　調査室に，室長，主任及びその他必要な職員を置く。

2　室長は，本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し，学長が任命する。

3　室長は，調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4　室長の任期は 2 年とする。ただし，再任を妨げない。

5　主任は，調査室の職員の中から，特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し，学長が任命する。

6　主任は，室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7　職員は，調査室の業務に従事する。

(その他)

第 16 条　埋蔵文化財に関する事務は，事務局施設部において行なう。

付　則

1　この規則は，昭和 60 年 4 月 18 日から施行する。

2　この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の

任期は,第 9 条第 2 項及び第 15 条第 4 項の規定にかかわらず，昭和 62 年 3 月 31 日までとする。

3　鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則(昭和 51 年 1 月 22 日制定）は，廃止する。

付則

この規則は、平成９年４月１日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成12年4月1日現在）

委員長　石田忠彦（鹿児島大学副学長）

委　員　辰村吉康（法文学部長）

中山右尚（教育学部長）

井上政義（理学部長）

永田行博（医学部長）

納　光弘（医学部付属病院長）

大工原恭（歯学部長）

井上裕喜（歯学部附属病院長）

矢野利明（工学部長）

下川悦郎（農学部長）

上田耕平（水産学部長）

荒井　啓（連合農学研究科長）

山口建太郎（事務局長）

岩本義男（学生部長）

石田尚治（附属図書館長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成14年4月1日現在）

委員長　辻尾昇三（工学部教授）

委　員　本田道輝（法文学部助教授）

日隈正守（教育学部助教授）

竹内　亨（医学部教授）

田中卓男（歯学部教授）

古川一男（理学部教授）

松元光春（農学部助教授）

中村啓彦（水産学部講師）

新田栄治（調査室長併任　法文学部教授）

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併）　法文学部教授　新田栄治

主任（併）　法文学部助教授　中村直子

（併）　法文学部助手　新里貴之

技術補佐員　寒川朋枝

技術補佐員　松本益幸（王　力明）

付編1　郡元団地L-6区(中央図書館増築地A･B地点)における発掘調査

1. 調査にいたる経過

鹿児島大学では，郡元団地に位置する中央図書館の増築を予定している。増築予定地は，第1次調査に，中央図書館の南側(A地点)，第2次調査として，図書館の南西側(B地点)，北西側の隣接地点(C地点)である。周辺部では，1975年調査の釘田第1地点[1]において，古墳時代後半期の住居跡が20基以上検出された。また，1980年の中央図書館工事の際には，多量の遺物が出土していたらしく，遺物の一部が図書館職員によって保管されていた[2]。

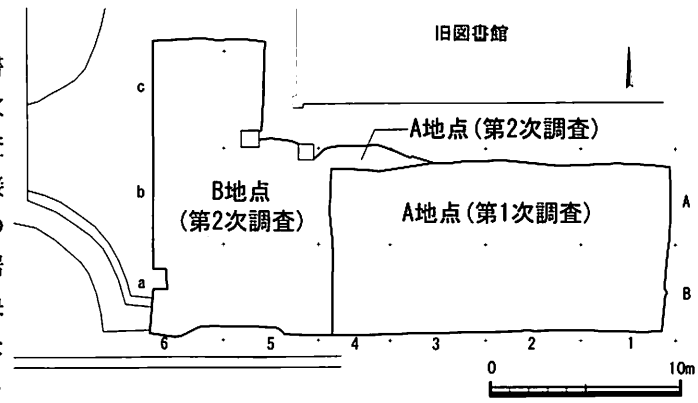


Fig.26 調査地点配置図(S=1/400)

本地点においても，良好な状態で遺跡が包蔵されている可能性が高く，発掘調査を実施した。

今回の報告は，整理作業期間の都合上，第1次調査のA地点と，第2次調査B･C地点のうち，B地点のみを報告し，C地点は，3次調査D･E地点とともに次号に譲る。

2. 調査体制

調査は下記の体制で行った。

Tab.5 調査体制

第1次調査		第2次調査	
所在地	鹿児島市郡元1-21-25	所在地	鹿児島市郡元1-21-25
期間	1993(平成5)年1月20日-3月30日	期間	1993(平成5)年5月13日-9月10日
面積	A地点190㎡	面積	B地点のみ120㎡
主体者	埋蔵文化財調査室室長　上村俊雄	主体者	埋蔵文化財調査室室長　上村俊雄
担当	埋蔵文化財調査室室長　上村俊雄 埋蔵文化財調査室室員　中村直子 大西智和　前　幸男　松村みどり	担当	埋蔵文化財調査室室長　上村俊雄 埋蔵文化財調査室室員　中村直子 峰山いづみ　大西智和　前　幸男
作業員	安部松伊都子，巽谷ミエ子，岩戸エミ子，岩戸タツ子，岩戸トシ子，岩戸ミツ子，鮫島アキエ，鮫島チリ，坂口ミエ子，寺光ミツ子，末吉ナミ，末吉ミヤ，諏訪田フサエ，谷口テル，田野邊昭徳，中原チヅ子，名越ヒデ子，西庄司，西村チエ子，野下チリ子，野下ヨシエ，福永シノブ，福永花江，牧島知子，増満ミエ子，松下ミチ，盛満アイ子，柳田キミ子，柳田二三子，吉永セツ子，脇ツルエ，脇俊子	作業員	柳田二三子，名越ヒデ子，盛満アイ子，坂口ミエ子，巽谷ミエ子，福永花江，福永シノブ，柳田キミ子，古澤生，池口洋人，西谷彰，横手浩二郎，甲斐光代，小八重睦子，今村知子，西中川泉，星野恵美，小原愛，園分リカ，上地浩，中村由美子，坂本裕子，鮎川章子，西庄司，松島恵子

3. 調査の経過

A地点は，5mメッシュでグリッドを設定し，東から西へ1-4，北から南へA･Bとした(Fig.26)。

表土層は，重機によって除去し，プライマリーな層である2層以下より手作業による掘削を行なった。掘削は層ごとに遺構を確認し，写真撮影・実測・測量・遺物取り上げを行いながら進行した。3層上面では土坑が2基(SK1･2)，4a層上面では溝状遺構2条（SD1･2)，4b層上面では，土坑1基(SK3)が確認されている。5層上面では，住居跡(SK4)1軒と土坑3基(SK5-7)，ピット群が検出されている。調査は5層上面までを掘り下げ，地山として検出，確認した時点で終了した。

2次調査は，中央図書館を挟んで南北に分かれ，A地点に西接した部分をB地点，北側をC地点としている。また，A地点検出の住居跡(SK4)の北・西の拡張部の調査も行われた(Fig.26)。B・C地点の調査は，同時並行して行われ，遺構などは，調査の都合上，連続番号が両地点にまたがって付けられている。そのため，今回の報告における遺構欠番は，C地点に属するものである。

B地点は，東西方向はA地点に準ずるように，連続番号としたが，A地点西壁を基準に西方向へ改めて5mメッシュのグリッドを設定し，東から西に5，6とした。したがって，A･B地点の境界である4の東西長は，5mではなく，4.249mである。また，南北方向は，A地点とは異なり，C地点を見通して，南から北へa-cとした。

3層上面からは，土坑1基(SK1)が検出された。4層上面からは，A地点の続きで，溝状遺構(SD1-3)が検出された。また，浅い落ち込み(SK2)も検出されている。5層上面では，直線状に伸びる溝状遺構(SD5-7)，浅い落ち込み(SK11)，多数のピット群を検出した。A地点の拡張部では，A地点の住居跡(SK4)や土坑(SK6)の，それぞれの続きと，ピット群が検出されている。これらの調査を完了し，5層地山を検出して，調査を終了した。

4. 層位(Fig.27-32,Tab.6･7,PL.4-8)

基本的に，A地点とB地点の土層は整合的であり，対応している。5枚の層に大別され，それぞれが内容物や若干の色調の相違で，さらに細分されている。

1層は，表土層や大学造成時の攪乱層である。2層は，中近世以降の水田層である可能性がある。3層は，時期が不明の水田層である。4層は，古墳時代後半期を中心とする遺物包含層で，最も遺物量が多い。5層は粗砂の層で地山であり，基本的に遺物を含まない。

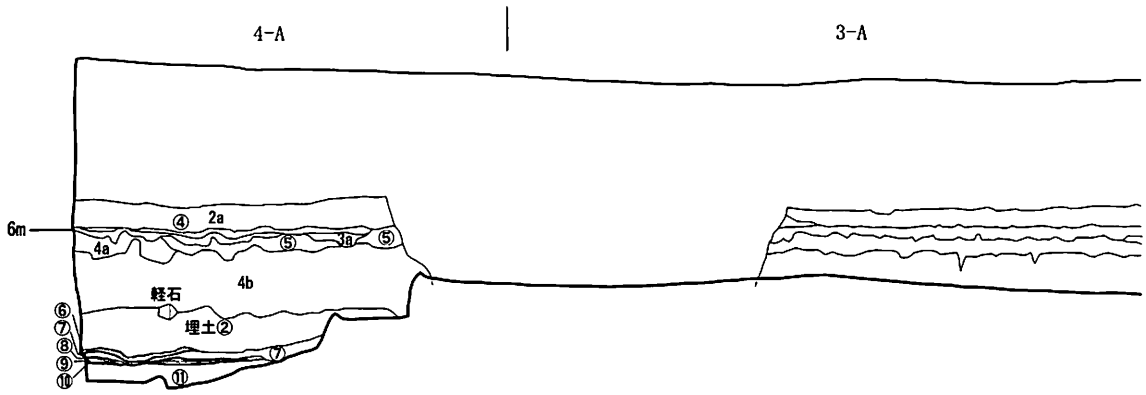


Fig.27 A 地点北壁(S=1/60)

Tab.6 A 地点基本土層

層序	色調・内容	性格など
1層		表土・客土
2a層	灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂.軽石含む.締まりよい.	遺物包含層.
2b層	灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂.軽石含む.締まりよい.	遺物包含層.
3a層	灰黄褐色(10YR6/6)シルト質砂.	遺物包含層.上面よりSK1・2検出.
3b層	明黄褐色(10YR6/8)シルト質砂.軽石含む.	遺物包含層.
3c層	にぶい黄橙色(10YR5/2)シルト質砂.	遺物包含層.
3d層	オリーブ褐色(2.5YR4/6)シルト質砂.軽石含む.明黄褐色(10YR6/8)ブロックを含む.	遺物包含層.
4a層	灰褐色(7.5YR4/2)砂質シルト.粒子が細かい.鉄分の浸透.	遺物包含層.上面よりSD1・2検出.
4b層	黒褐色(5YR3/1)砂質シルト.	遺物包含層.上面よりSK3検出
4c層	褐灰色(7.5YR4/1)粗砂混じりシルト.	遺物包含層.
5層	にぶい黄橙色(10YR7/4)粗砂.	上面よりSK4-7,ピット群検出.

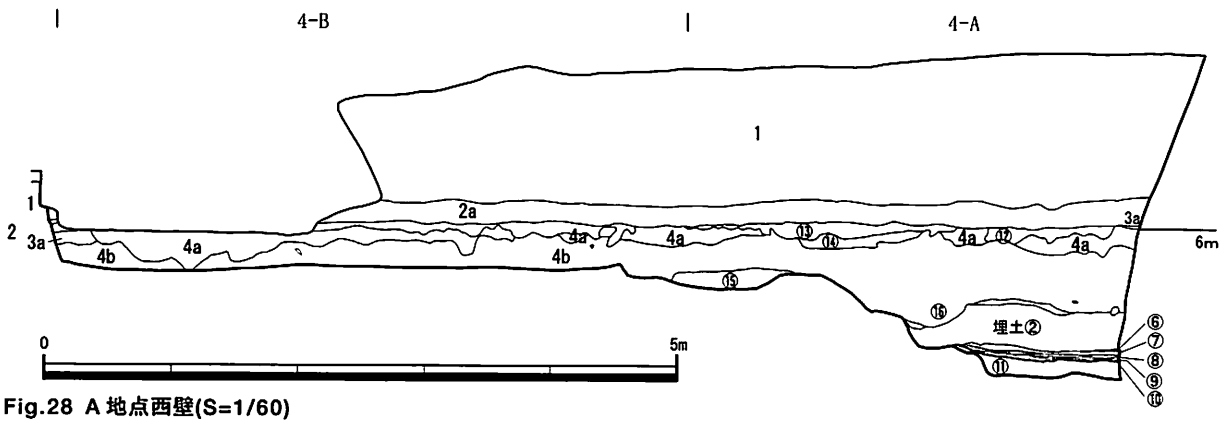


Fig.28 A 地点西壁(S=1/60)

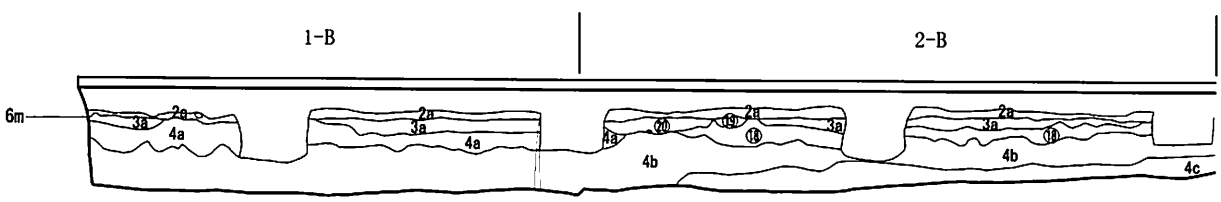
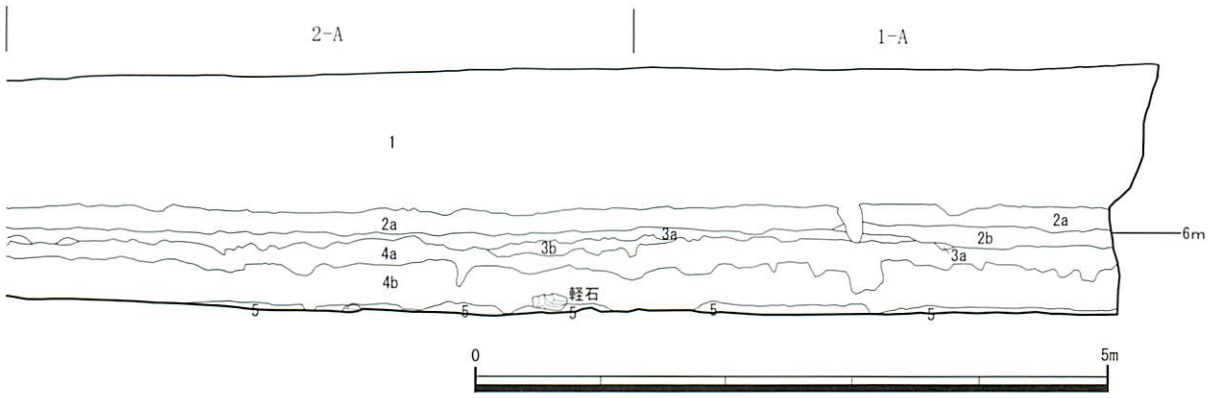


Fig.30 A 地点南壁(S=1/60)

① 明黄褐色10YR6/6. 軽石を含む. 2b層と3a層土の中間色. 3層に近い.
② 5a層土. 4層土をブロック状に含み, 3層土を基調としている.
③ にぶい褐色7.5YR5/3. 軽石含む.
④ にぶい黄橙色10YR7/4. 粗砂層. 軽石.
⑤ ⑱に類似. ⑱より砂質. 黄色味が強く, 色が濃い.
⑥ 炭の層.
⑦ 細かい白砂層を基調とした炭との混土.
⑧ 黒色7.5YR2/1, 砂混じり。炭.
⑨ 細かい白砂層を基調とした炭との混土
⑩ オリーブ褐色2.5Y3/3暗炭層.
⑪ 砂と4b層の混土. 基調は5層土.
⑫ にぶい黄褐色2.5YR6/3. シルト質砂. 軽石小粒を含む.
⑬ 浅黄色2.5YR7/3. 粗砂. 軽石粒・礫を含む.



PL.4 A 地点東壁

PL.5 A 地点北壁

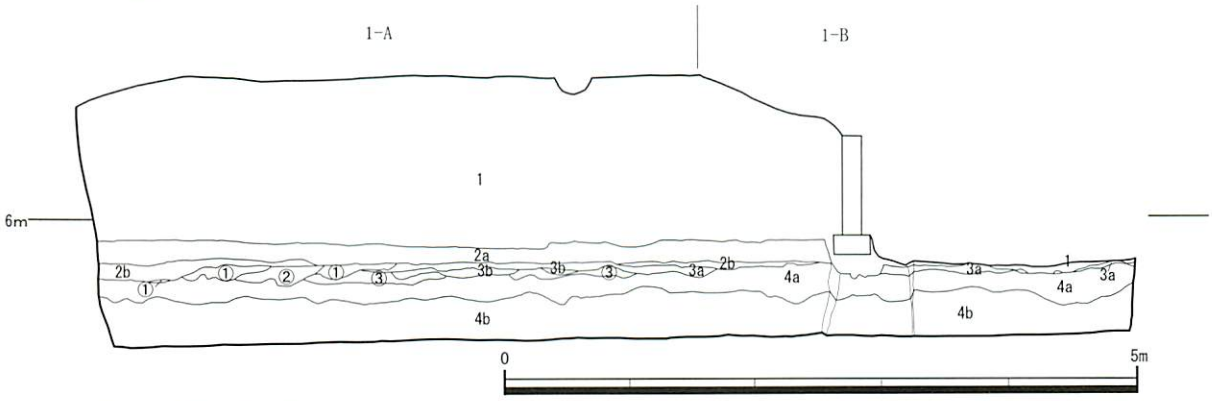
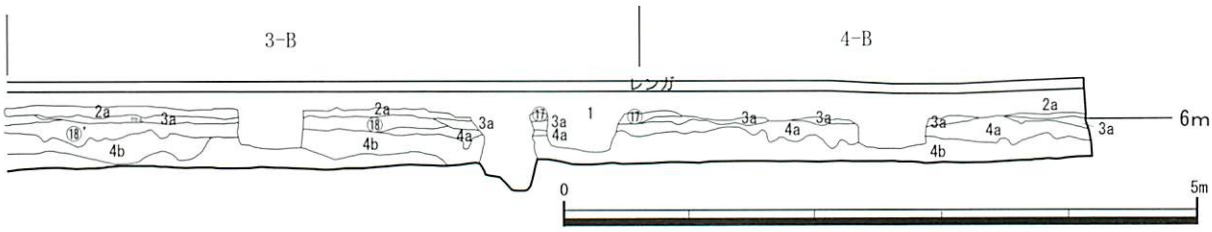


Fig.29 A 地点東壁(S=1/60)



⑭　明黄褐色2.5Y6/8．粗砂層．軽石小粒を少し含む．
⑮　黒褐色10YR3/1．シルト質砂．下部は砂質．
⑯　4b層土と砂との混土．
⑰　2層土を基調としたカクラン．3層土・5層土をブロックで含む．
⑱　オリーブ褐色2.5Y4/6を基調とする．明黄褐色10YR6/8をブロック状に含む．シルト質砂．軽石を含む．
⑱'　灰褐色7.5YR5/2を基調とするシルト質砂．東側ほど褐色を帯びる．
⑲　SD2の埋土．浅黄色2.5Y7/3粗砂を基調とする．明黄褐色2.5Y6/8粒を含む．軽石を含む．
⑳　SD2の埋土．明黄褐色2.5Y6/8粗砂を基調とする．軽石粒，2cm大の礫を多く含む．上部に，浅黄色2.5Y7/3粗砂ブロックを含む．
埋土②　黒褐色10YR3/1．シルト質砂．埋土上部より砂質．

PL.6 A 地点南壁

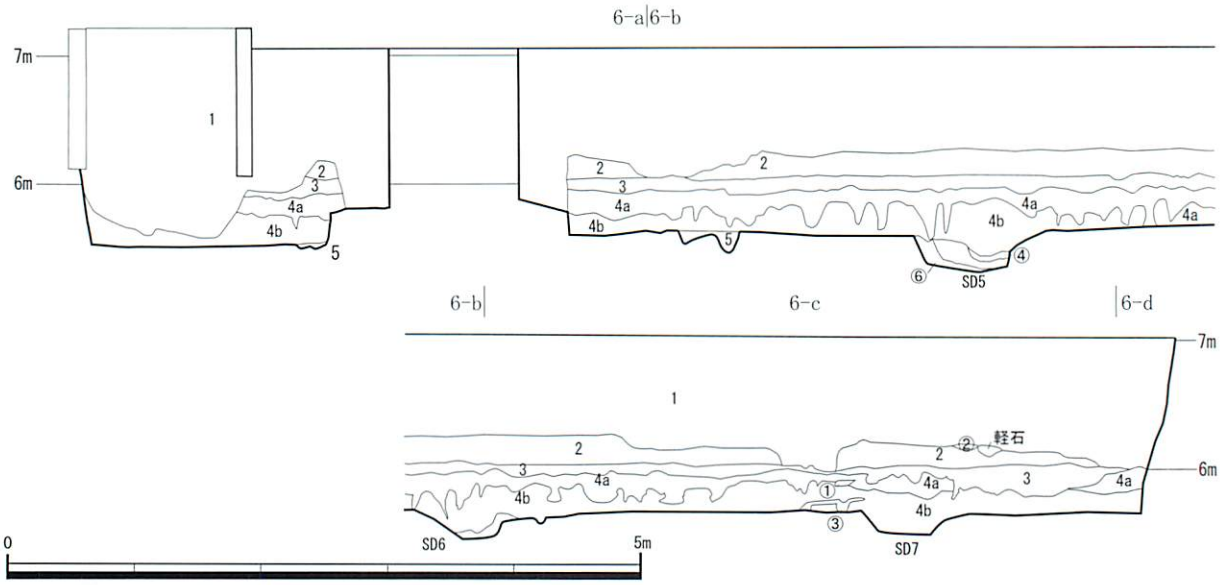


Fig.31 B地点西壁(S=1/60)

PL.7 B地点西壁

PL.8 B地点北壁

① オリーブ褐色2.5Y6/1　シルト質砂．5mm～1cm大の軽石を含む．
② 黄灰色2.5Y5/1　シルト質砂．
③ 明褐色7.5Y5/8からにぶい黄橙色10YR6/4，樹痕．
④ 褐色10YR4/4　シルト質砂．SD5埋土．
⑤ オリーブ黒7.5Y3/1　シルト質砂．SD5埋土．
⑥ にぶい黄褐色10YR4/3　シルト質砂．SD5埋土．
⑦ 明灰褐色2.5Y5/2を基調として，4a・4b層をブロック状に含む．

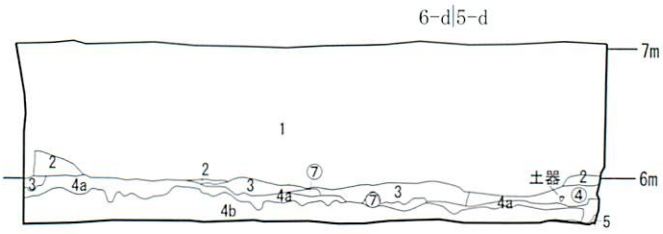


Fig.32 B地点北壁(S=1/60)

Tab.7 B地点基本土層

層序	色調・内容	性格など
1層		表土・客土
2層	黄灰色(2.5YR6/1)シルト質砂.0.5-1cm大の軽石含む.	遺物包含層.
3層	明黄褐色(10YR7/6)粗砂混じりシルト質砂.0.5-1cm大の軽石含む.	遺物包含層.上面よりSK1検出.
4a層	黒褐色(7.5YR3/1)砂質シルト.締まりよい.鉄分の浸透.	遺物包含層.上面よりSK2,SD1-3検出.
4b層	黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト.	遺物包含層.
5層	褐灰色(10YR4/1)粗砂.	A地点の(SK4)の続き,上面よりSD5-7,SK11,ピット群検出.

5. 遺構・遺物

5-1. A・B地点1層(表土・出土地不明)出土遺物 (Fig.33,Tab.8,PL.11・12)

1層出土遺物は，重機で表土層を除去した後，攪乱部分に残った遺物を中心に採集されている。また，調査時に出土し，調査地点や層位が分からなくなった遺物もここに含めた。

遺物は，弥生時代中期，古墳時代，近世の遺物が含まれ(Fig.33)，ほかにも近・現代の遺物が出土している。この一帯の遺物の包蔵状況を反映している(PL.11)。

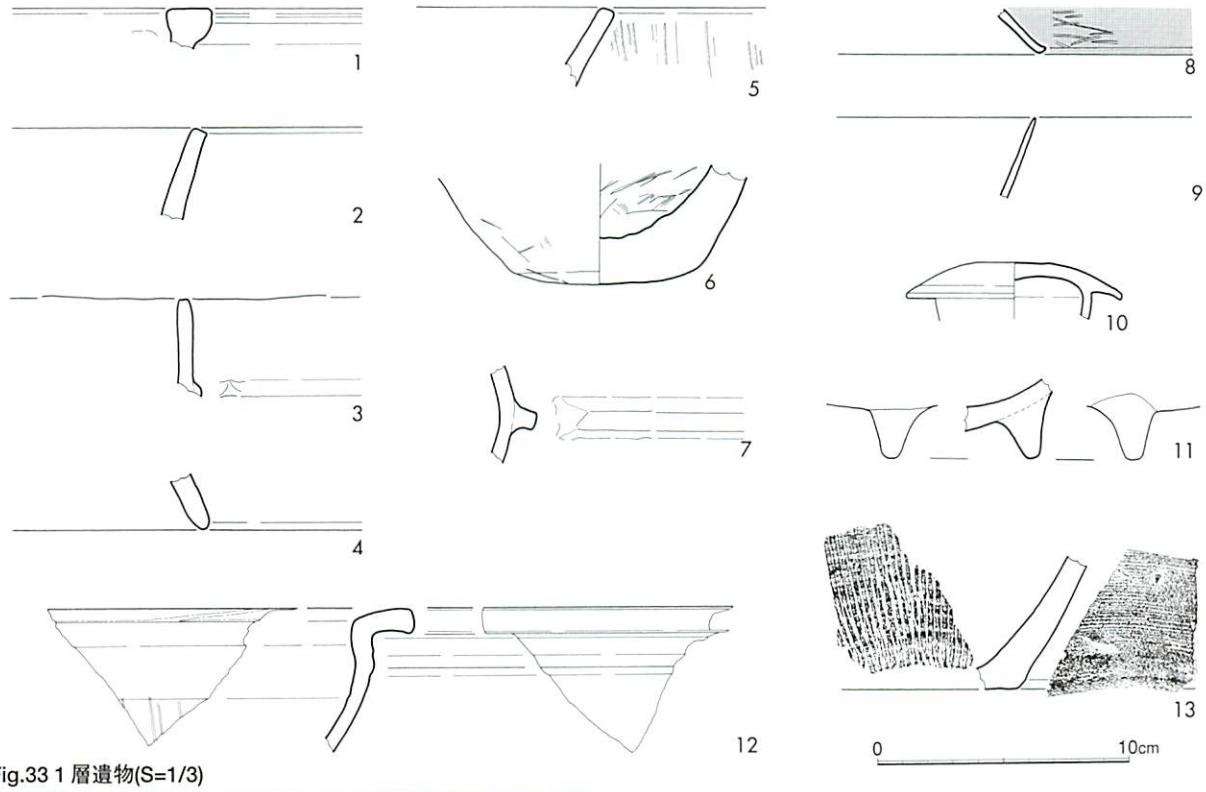
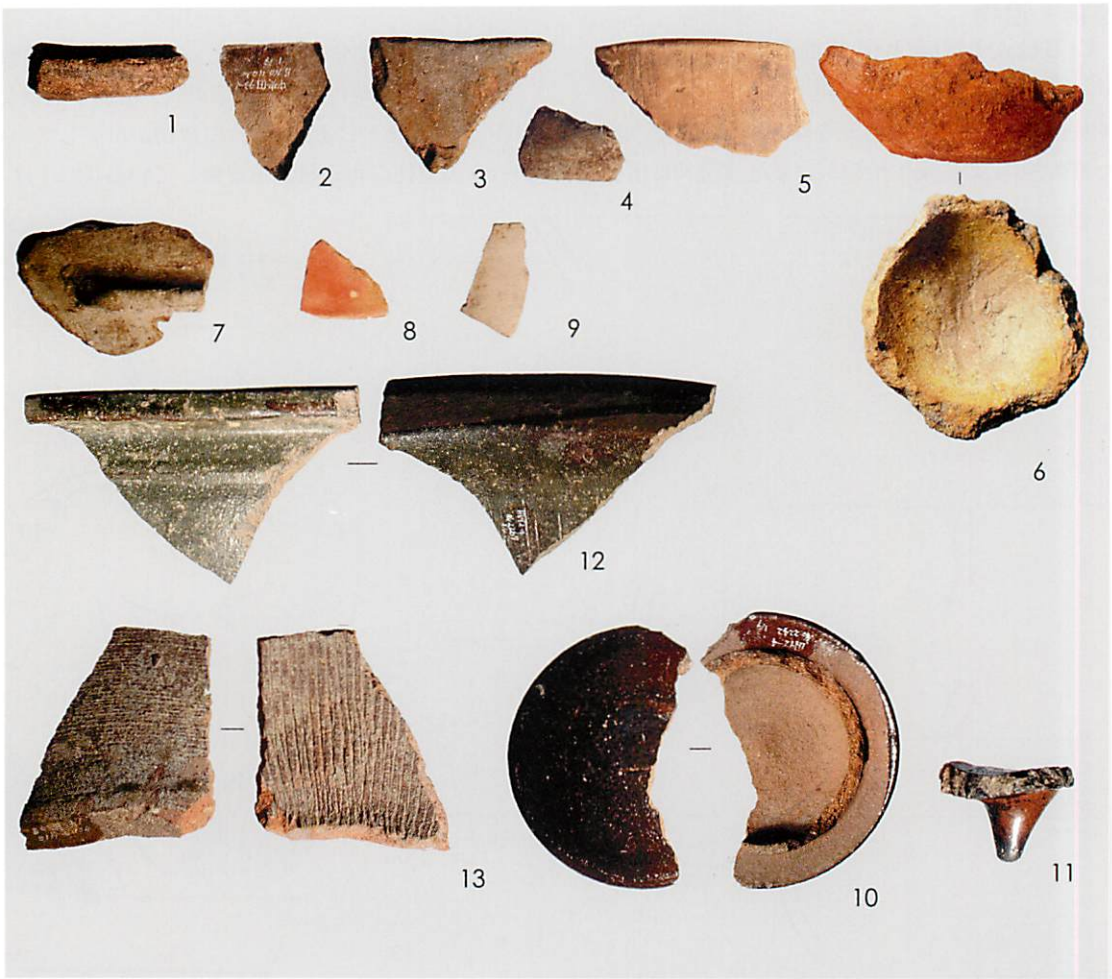


Fig.33 1層遺物(S=1/3)

PL.9 A地点表土掘削

PL.10 B地点表土掘削

PL.11 近・現代の遺物



PL.12 1 層出土遺物

Tab.8 1 層出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	砂粒の多さ	調整	備考
1 SK? A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面・器肉:にぶい橙に類似7.5YR7/4.	礫:白色粒・赤色粒. 粗砂:角閃石・石英. 砂:石英. 細砂:黒色粒・角閃石？	2	内面:ハケ(｜).	
2 1 B	古墳	甕	口縁部	内・外面:にぶい黄褐10YR5/3. 器肉:黒褐2.5Y3/2.	粗砂:白色粒. 細砂:石英・白色粒・黒色粒.	2	外面:ヨコナデ. 内面:ヨコナデ.	
3 ? ?	笹貫式	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/3. 内面・器肉:鉄分付着のため不明.	砂:黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:鉄分付着のため不明.	貼付突帯1条.
4 表採 2次調査	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/3. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/3.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	内・外面:粗いヨコナデ.	
5 1 A	古墳	壺？	口縁部	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:にぶい黄橙10YR7/4. 器肉:灰黄2.5Y7/2.	細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ハケ(｜)→ナデ(｜). 内面:丁寧なヨコナデ.	
6 1 A	弥生か 古墳	壺	底部	外面:にぶい黄橙10YR7/3. 内面:明黄橙10YR6/8. 器肉:灰黄褐10YR6/2.	礫:角閃石・石英.	4	内・外面:ハケ. 内面:ハケによる打ち込み痕多.	底径7.0cm.
7 ? A	弥生？	壺	胴部	外面:浅黄に類似2.5Y7/3. 内面:浅黄に類似2.5Y7/4. 器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/3.	粗砂:白色粒. 砂:角閃石. 細砂:黒色粒.	1	外面:ヨコナデ. 内面:剥落.	羽釜状把手つき.
8 1 A	古墳	高杯	脚部	外面:赤褐2.5YR4/6. 内面:鉄分付着のため不明. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	細砂:黒色粒(極少).	1	外面:ミガキ. 内面:鉄分付着のため不明.	外面:赤色顔料塗布.
9 表採 2次調査	東原式	坩	口縁部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR7/3. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	内・外面:ヨコナデ.	
10 1 A	薩摩焼	土瓶	蓋	釉:暗赤褐に類似5YR3/2. 光沢あり. 素地:にぶい黄褐に類似10YR5/3.	砂:黒色粒・白色粒.	3	外面:施釉. 内面:無釉.	近世. 苗代川系. 径(8.6cm).
11 1 A	薩摩焼	土瓶	脚部	釉:鉄釉(にぶい赤褐5YR4/4・黒). 不透明釉. 光沢あり. 素地:にぶい黄橙10YR6/3.	砂:黒色粒・白色粒.	4	内・外面とも施釉.	近世. 苗代川系.
12 1 A	薩摩焼	擂鉢	口縁部	内・外面:灰10Y4/1. 素地:灰褐5YR4/2.	砂:白色粒. 細砂:透明粒.	1	内・外面とも施釉.ただし口縁上面は釉が拭き取られる(拭き残し部分が線状に残る).	18世紀. 苗代川系.
13 1 B	薩摩焼	擂鉢	底部	釉:暗褐7.5YR3/3. 素地:橙2.5YR6/6.	礫:白色粒. 砂:白色粒・黒色粒.	3	外面:ハケ(—). 底部まで釉垂れ.	近世. 苗代川系.

5-2. A・B地点2層出土遺物(Fig.34-36,Tab.9-11,PL.13-15)

2層以下は，プライマリーな層であり，現代の大規模な攪乱は受けていない。A・B地点における2層出土の遺物は，弥生時代-古墳時代の土器小破片や，須恵器，ほかに中世の中国青磁・白磁，備前焼擂鉢，近世以降の薩摩焼，肥前磁器などが認められる。また，土錘や，古銭の出土もあった(Tab.38)。

遺物の出土量からすれば，近世代のものが多く，2層の形成時期は，この時期に近いと考えられる。しかし，青磁などの中世陶磁器も出土していることから，近隣に中世の遺物包含層や生活域が存在する可能性もある。

2層は，土壌プラント・オパール分析によれば，最もイネの含有量が高く，水田であった可能性が高いが，ヨシなどが検出されていないため，水田のような湿潤な環境にあったかは不明な部分もある(付編2参照)。

Tab.9 古銭

No.	層		銭径	孔径	銭厚	重量	備考
19	2a	永暦通寶	24mm / 24mm	6mm / 6mm	1mm	2.40g	初鋳1647年清朝初期．背面：無文．

Tab.10 石器

大学構内遺跡において，古墳時代後半期を中心とする集落跡でもときおり黒曜石の破片や剥片が出土することがある。帰属時期は不明である。

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
25	2b	竜ヶ水産	2.35	1.95	1.1	4.32

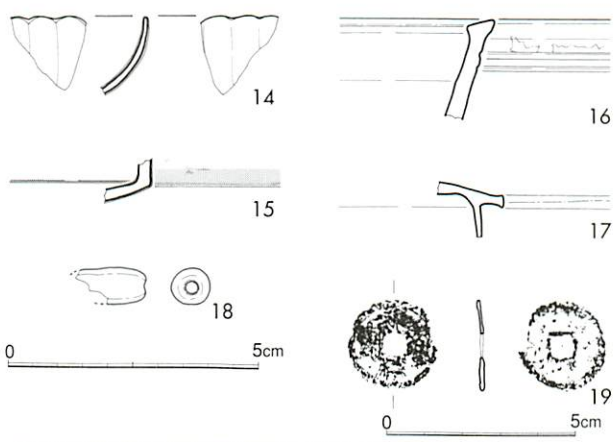


Fig.34 A地点2a層出土遺物(S=1/3)，(19)はS=1/2

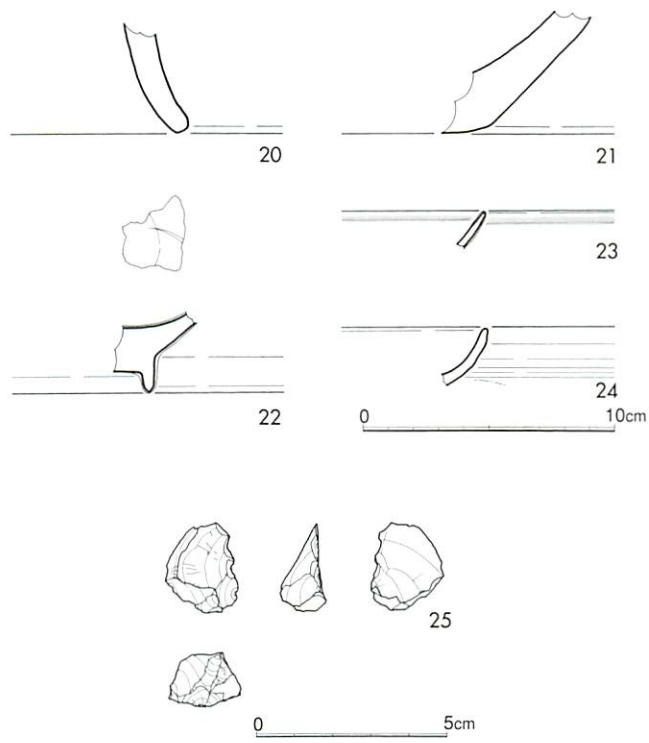
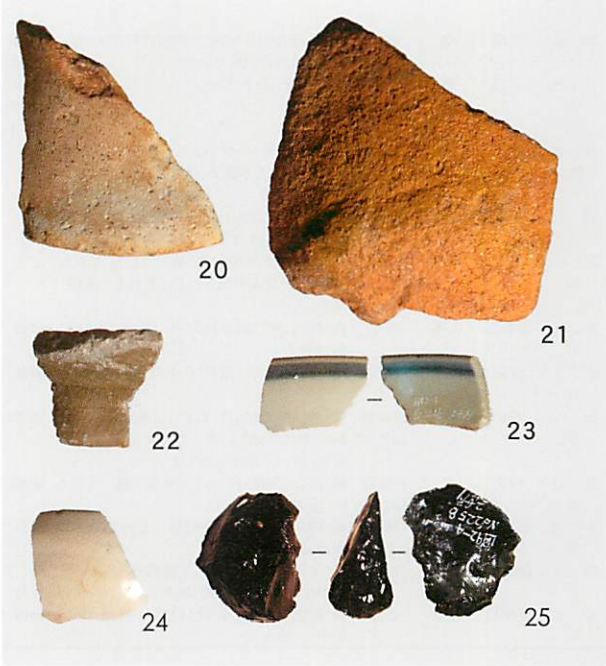


Fig.35 A地点2b層出土遺物(S=1/3)，(25)はS=1/2

PL.13 A地点2a層出土遺物



PL.14 A地点2b層出土遺物

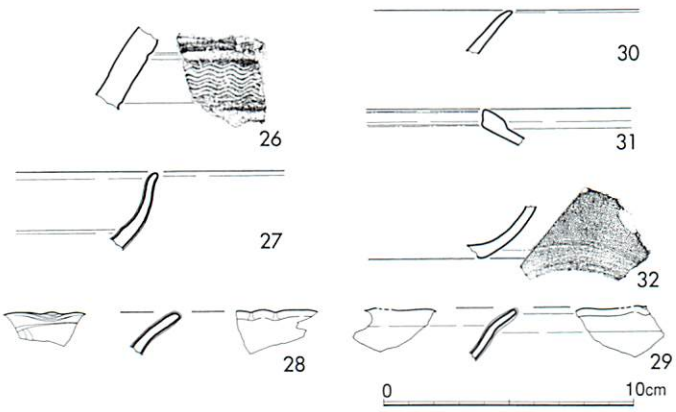
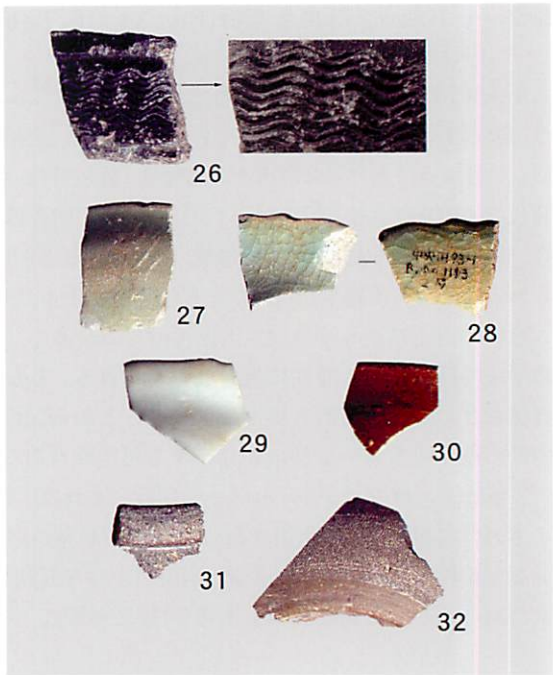


Fig.36 B 地点 2 層出土遺物(S=1/3)



26 は，須恵器の大甕の頸部破片である．小破片のために，時期は不明．突帯下位に横位の櫛描波状文を施す．

PL.15 B 地点 2 層出土遺物

Tab.11 A・B 地点 2 層出土遺物観察

No. 地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
14 A	2a	青磁	皿？	口縁部(稜花)	釉:不透明(風化か？). 明緑灰に類似10GY7/1. 光沢少ない. 素地:白色.		1	内・外面とも施釉.	近世. 肥前系.
15 A	2a	染付	筒碗	胴部	釉:透明釉. 光沢あり. 全体に細かい貫入が認められる. 素地:灰白2.5Y8/1.		1	内・面とも施釉. 外面:文様あり. 内面:屈曲部に線状の文様.	18世紀末～19世紀初. 肥前系.
16 A	2a	薩摩焼	鉢	口縁部	釉:黒に類似5Y2/1. 若干光沢あり. 素地:灰褐に類似7.5YR4/2.	砂:黒色粒. 細砂:白色粒.	1	内・外面とも施釉. ただし口縁上面は釉が拭き取られる. 外面:無釉部位あり. 2条の凹線.	近世. 苗代川系.
17 A	2a	薩摩焼	土瓶	蓋	釉:黒10YR2/1. 光沢あり. 不透明釉. 素地:赤10R5/6.		2	外面のみ施釉(口縁端部上半まで).	近世. 苗代川系.
18 A	2a	土錘			内・外面・器肉:にぶい黄橙10YR7/4.	砂:角閃石. 細砂:黒色粒・白色粒・透明粒.	7		直径:14.2mm. 中心孔:4.5mm. 一部欠損.
20 A	2b	古墳	甕	脚台	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	砂:角閃石・黒雲母・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	内・外面とも丁寧なナデ.	
21 A	2b	古墳	壺	底部	鉄分付着のため不明.	粗砂:白色粒・石英. 砂:白色粒・黒色粒・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	5	鉄分付着のため不明.	
22 A	2b	青磁	碗	脚部	透明釉:灰オリーブ5Y5/3.. 光沢あり. 全面に細かい貫入が認められる. 素地:灰白に類似2.5Y8/2.		1	内外面とも施釉.	中世. 中国産.
23 A	2b	染付	皿？	口縁部	釉:灰白2.5GY8/1. 不透明釉. 光沢あり. 素地:灰白5Y8/1.		1	内・外面とも施釉. 口縁端部に暗青灰色5BG4/1のライン(内・外面とも).	肥前系.
24 A	2b	白薩摩？	皿？	口縁部	釉:透明釉が非常に薄く施釉される. 光沢あり. 細かい貫入が全面に認められる. 素地:灰白2.5Y8/2.		1	下端部で一部素地が露胎.	
26 B	2	須恵器	大甕	頸部	内・外面:灰に類似10Y4/1. 器肉:灰に類似10Y6/1.	細砂:黒色粒.	1	外面:ヨコナデ. 内面:剥落が著しい.	櫛描波状文.
27 B	2	青磁	椀？	口縁部	釉:オリーブ灰に類似5GY6/1. 素地:灰白に類似5Y7/1.	細砂:黒色粒・白色粒.	1	内面:僅かに貫入が認められる. 内・外面とも施釉.	中世. 中国産.
28 B	2	青磁	皿？	口縁部(輪花？)	釉:明緑灰に類似7.5GY7/1. 透明釉. 光沢あり. 全体に細かい貫入が認められる. 素地:灰白に類似7.5Y7/1.	細砂:黒色粒.	1	内・外面とも施釉.	中世. 中国産.内面:文様あり(草花？).
29 B	2	白磁	皿	口縁部(輪花？)	釉:灰白に類似10Y8/1. 不透明釉. 光沢あり. 素地:灰白N8/0.	細砂:黒色粒.	1	内・外面とも施釉.	中世. 中国産.
30 B	2	薩摩焼	皿	口縁部	釉:褐10YR4/4. 不透明釉. 光沢少ない. 素地:灰10Y6/1.	細砂:黒色粒・白色粒.	1	内・外面とも施釉.	近世. 加治木・姶良系.
31 B	2	薩摩焼	土瓶	口縁部	釉:オリーブ黒5Y3/1. 不透明釉. あまり光沢がない. 素地:赤褐10R4/4.	砂:白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	1	口縁内面:ヨコナデ. 内・外面とも施釉.	近世. 苗代川系.
32 B	2	薩摩焼	急須	底部	釉:鮫肌. 光沢あり. 灰5Y5/1. 素地:灰オリーブ5Y4/2.	細砂:黒色粒・白色粒.	1	内・外面とも施釉.	19世紀. 龍門司.

5-3. A・B 地点 3 層上面検出遺構(Fig.37-40,Tab.12,PL.16-23)

3層上面検出遺構は，A地点において，土坑2基 (SK1・2)，B地点において，土坑1基(SK1)が確認されている。

A 地点 SK1 は，検出面からの深さが 9-10cm，埋土は，2b 層土で，灰黄色 2.5Y6/2 シルト質砂。パミスを含む。壁面の様子から(Fig.29;A地点東壁参照)，遺構ではなく，自然の層の落ち込みである可能性が高い。

A 地点 SK2 は，推定径約 0.6-1.0m の楕円形で，深さ 9.5-10cm を計る。埋土は，2b 層土で，灰黄色 2.5Y6/2 シルト質砂。パミスを含む。(Fig.39)。

B 地点 SK1 は，推定径約 0.93-1.0m の楕円形で，深さ 13-15cm である。埋土は，黄灰色 2.5Y6/1 シルト質砂 0.5-1.0cm 大のパミスを含む (Fig.40)。

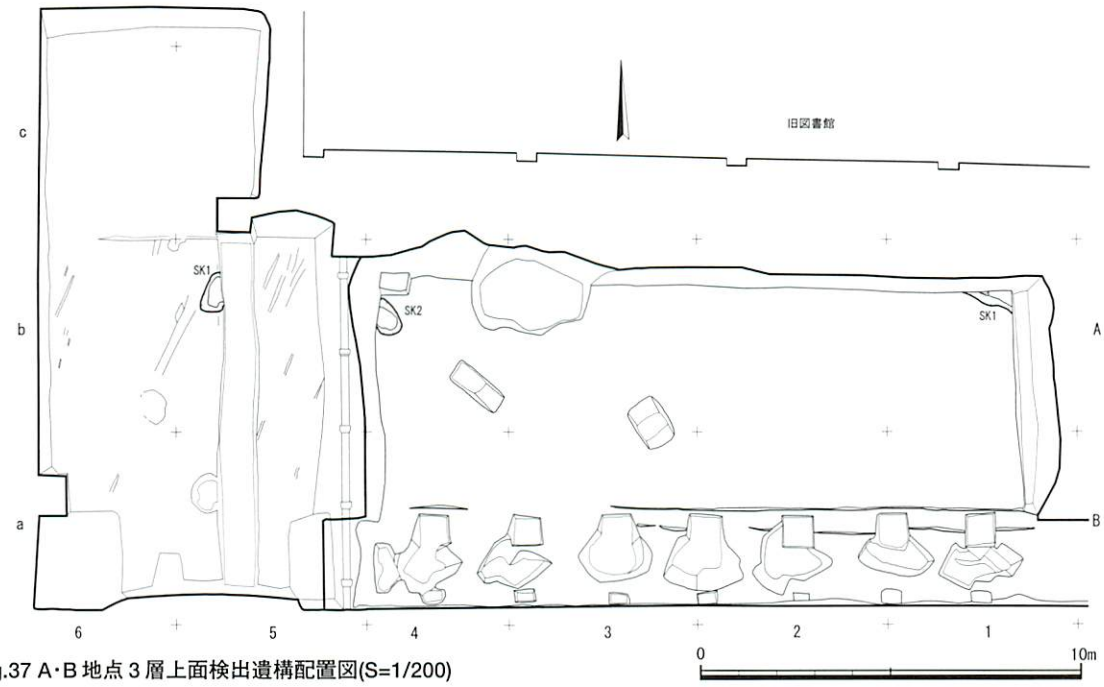


Fig.37 A・B 地点 3 層上面検出遺構配置図(S=1/200)

PL.16 A 地点 SK1 検出状況

PL.17 A 地点 SK1 完掘状況

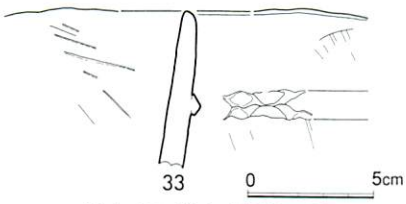


Fig.38 A 地点 SK1 出土土器(S=1/3)

PL.18 A 地点 SK1 出土遺物

典型的な笹貫式甕である.突帯貼り付けの際につまんだ指頭圧痕が，突帯上に明瞭に残る.

Tab.12 A 地点 SK1 出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
33 SK1 A	笹貫式	甕	口縁部	外面:褐10YR4/6. 内面:橙7.5YR6/6. 器肉:灰白2.5Y8/2.	礫:白色粒. 粗砂・角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ハケ(｜). 内面:ハケの打ち込み痕あり.	絡縄突帯1条.

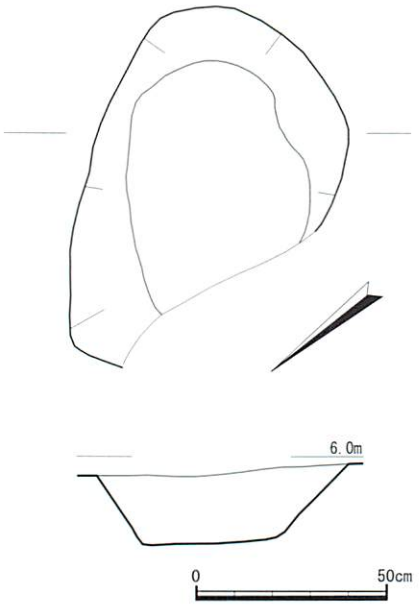


Fig.39 A 地点 SK2(S=1/20)

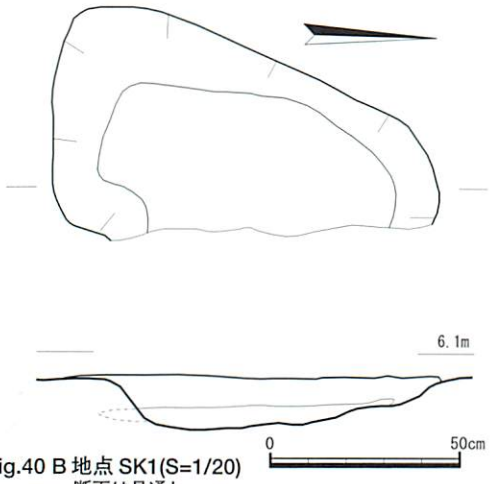


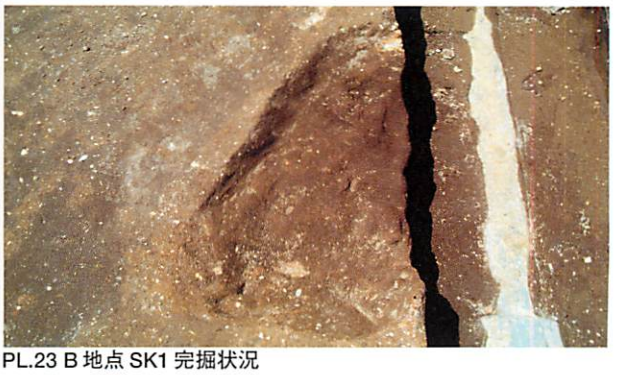
Fig.40 B 地点 SK1(S=1/20)
断面は見通し.

PL.19 作業風景 1

PL.20 作業風景 2

PL.21 B 地点 SK1 断面
断面の形状も不整形であり，浅く，底面に凹凸がみられる．このことも自然な落ち込みか，樹根の可能性があると考えられる．

PL.22 B 地点 SK1 検出状況



PL.23 B 地点 SK1 完掘状況

5-4. A・B 地点 3 層出土遺物(Fig.41・42,Tab.13, PL.24・25)

3 層出土遺物は，古墳時代後半期の遺物が中心に，わずかに 1 点，薩摩焼(苗代川系)の羽釜資料が含まれている(Tab.38)。この資料は，2 層形成段階における，何らかの落ち込みによるものであると考えられる。

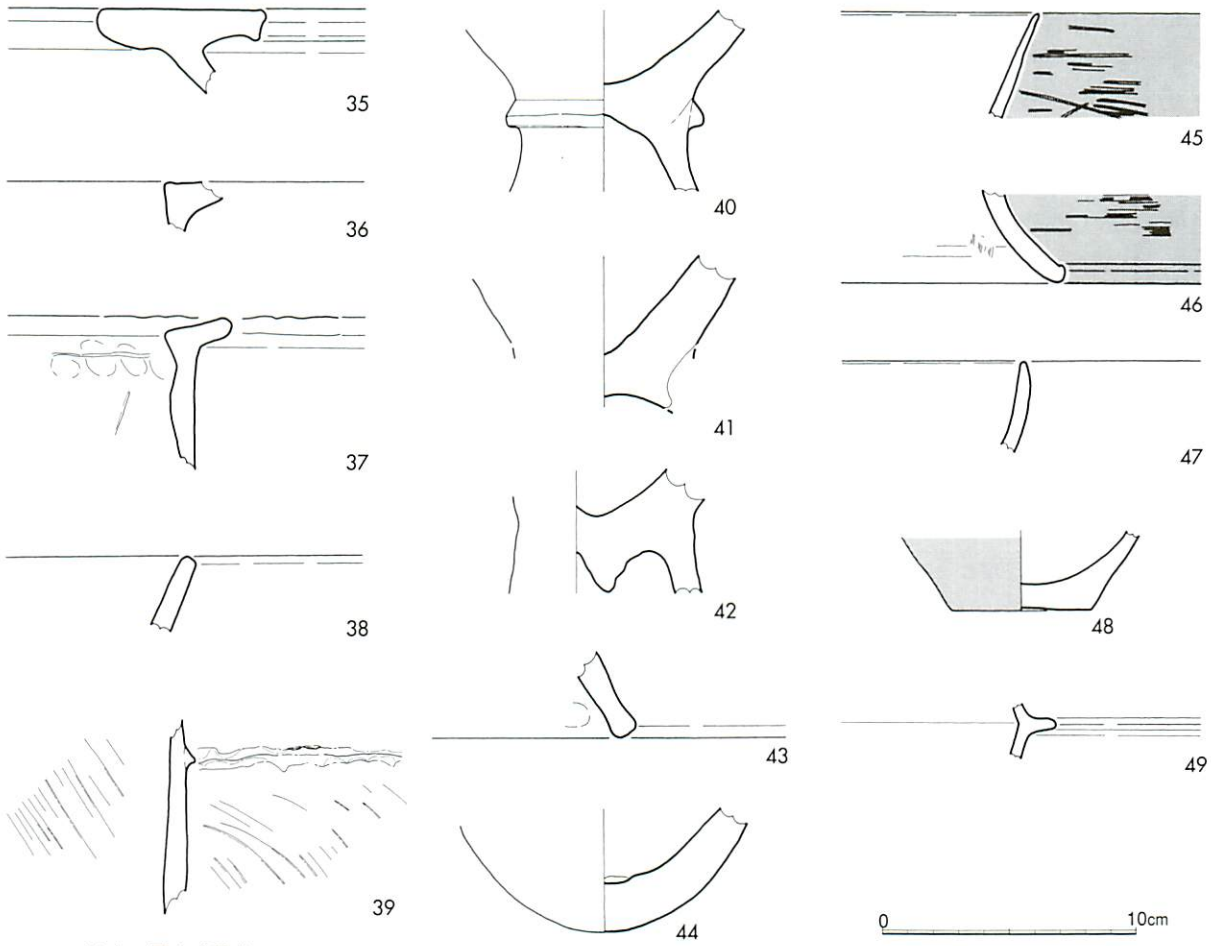
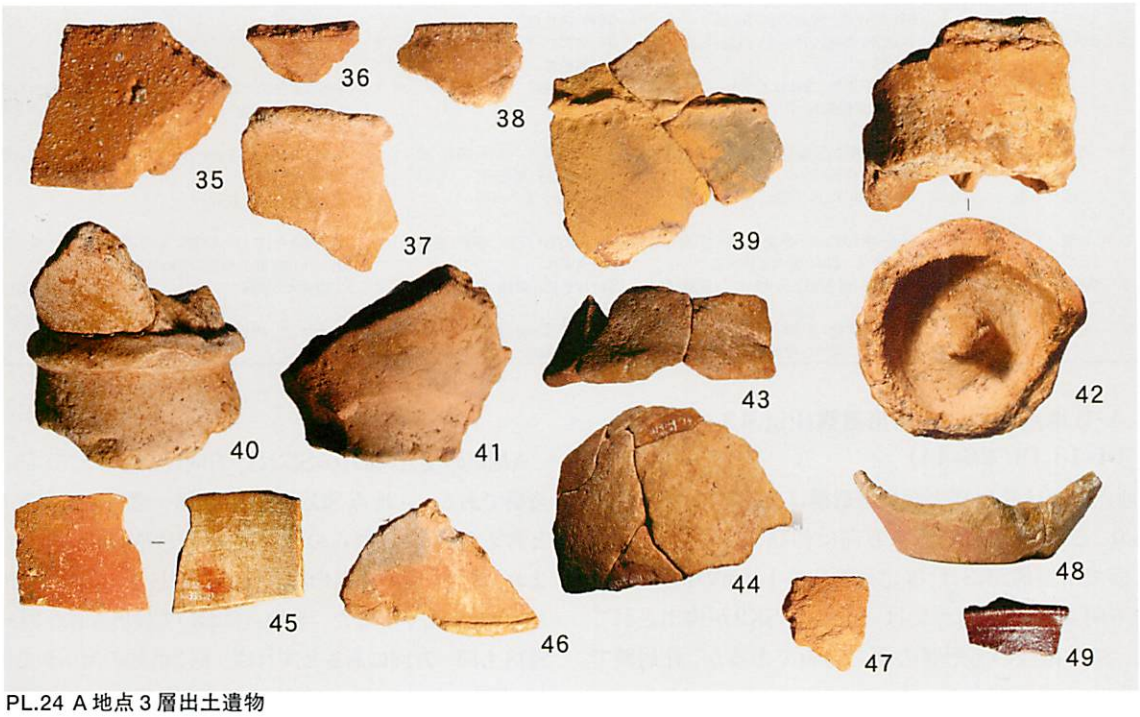


Fig.41 A 地点 3 層出土遺物(S=1/3)



PL.24 A 地点 3 層出土遺物

35は，甕棺の口縁部資料であるが，近年，鹿児島県内での出土例が増加してきている。口縁部上部平坦面の長さは，約6.5cmで，さほど大きな甕ではない。

36・37は，弥生時代中期に属すると考えられるが，つくりが雑である。

38-43，45-48・50は，古墳時代のもので，甕(38-43・50)，鉢(77)，高坏(46)，坩(48)などがある。

42の脚部内面の突起は，いわゆる「舌型」[3]に属する資料で，やや低い。古墳時代後半期に散見されるものである。41は全形が不明であるが，立ち上がりのしっかりとしたとした厚みから，甕であると判断した。40の脚部の接合部に突帯を巡らせて加飾するものも，多くはないが，散見されるものである。

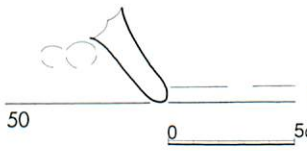


Fig.42 B地点3b層出土土器 (S=1/3)

PL.25　B地点3b層土器

Tab.13 A・B地点3層出土遺物観察

No.	層	地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
35	3	A	須玖式	甕棺	口縁部	外面:橙に類似5YR6/6. 内面・器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/3.	礫・粗砂:石英. 砂:石英・雲母. 細砂:雲母・透明粒.	5	口唇部(内外面)ヨコナデ. 全体に剥落が著しい.	搬入品.
36	3	A	弥生	甕	口縁部	鉄分付着・摩滅のため不明.	礫:黒曜石・石英. 粗砂・砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	5	鉄分付着・摩滅のため不明.	
37	3	A	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:黒色粒・白色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	3	外面:ハケの打ち込み痕. 摩滅. 内面: ユビオサエ. 摩滅.	接合痕あり.
38	3	A	古墳	甕	口縁部	内・外面:にぶい橙7.5YR6/4. 器肉:にぶい黄橙10YR7/4.	粗砂:白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	2	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ(—＼).	
39	3	A	古墳	甕	胴部	内外面:鉄分付着のため不明. 器肉:にぶい黄橙10YR6/3.	砂:黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	内外・面:粗いハケ(＼).	
40	3	A	古墳	甕	脚台付近	内外面:浅黄橙10YR8/4. 器肉:浅黄橙7.5YR8/4.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	4	外面:ヨコナデ・ナデ(—). 内面:粗いナデ.	接合痕あり. 三角突帯1条.
41	3	A	古墳	甕	底部	外面:明黄褐10YR6/6. 内面:明黄褐10YR6/8. 器肉:鉄分付着のため不明.	礫:石英・白色粒・灰色粒. 粗砂・砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ナデ. 内面:摩滅.	
42	3	A	古墳	甕	底部	外面:黄橙10YR8/6. 内面:灰黄橙10YR6/2. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:石英. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	6	外面:ナデ. 内底面:ハケ→ナデ.	
43	3	A	古墳	甕	脚台付近	外面:浅黄橙10YR8/3. 内面:明黄橙に類似10YR7/6. 器肉:橙5YR6/6.	粗砂:石英. 砂:黒色粒・石英. 細砂:黒色粒.	4	外面:摩滅. 内面:ヨコナデ.	
44	3	A	弥生か古墳	壺	底部	外面:明黄褐10YR6/6. 内面・器肉:黄褐10YR5/6.	砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	2	内面:ユビオサエ.	
45	3	A	古墳	高杯か鉢	口縁部	外面:明赤褐に類似2.5YR5/6. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:にぶい黄2.5Y6/3.	細砂:黒色粒.	1	外面:ミガキ(ただし鉄分付着のため不明瞭). 内面:ヨコナデ.	外面:赤色顔料塗布. 内面:顔料が指頭状に残る.
46	3	A	古墳	高杯	脚部	外面:黄褐10YR5/6. 内面:黄褐10YR5/8. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:角閃石. 砂:角閃石・灰色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ハケ(—). 内面:ナデ(｜)→ヨコナデ.	外面:赤色顔料塗布.
47	3	A	古墳	鉢	口縁部	鉄分付着のため不明.	鉄分付着のため不明.	2	鉄分付着のため不明.	
48	3	A	古墳	坩	底部	外面:赤10R5/6. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:淡黄2.5Y8/3.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ミガキ(鉄分の付着により不明瞭). 内面:鉄分付着のため不明.	外面:赤色顔料塗布. 底径(5.6cm)
49	3	A	薩摩焼	羽釜	鍔	内・外面:暗赤褐2.5YR3/3. 素地:橙2.5YR6/6.	砂:白色粒. 細砂:白色粒・黒色粒.	2	内・外面とも施釉.	19世紀以降. 苗代川系.
50	3b	B	古墳	甕	脚台	外面:浅黄橙7.5YR8/4. 内面:鉄分付着のため不明. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:石英. 砂:角閃石・石英・灰色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ナデ. 内面:ナデ・ユビオサエ.	

5-5.A・B地点4層上面検出遺構(Fig.43-50,Tab.14-18,PL.26-41)

A地点における4a層上面検出遺構は，SD1・2，SD1a・1bがあり，これらは北西-南東方向に伸びている。また，4b層上面検出遺構SK3は，推定径約0.9-1.1mの楕円形で，性格不明である。B地点では，SD1-3，SK2が検出されており，SK2は浅い方形状の落ち込みであるが，住居跡であるという確証がなかった。

A地点のSD1=SD1b=SD2は，方向性から考えて，同一の遺構である。A地点SD2=SD1aも同一遺構に属するものと考えられる。これらの埋土には，粗砂や細砂が多量に含まれ，また，肩の平面形状も凹凸が著しく，人為的なものとは考えにくい。また，B地点において検出されたSD1やSD3も同一方向にあるとすれば，約5m幅の河川があったか，湿地における浅い自然流路の可能性が高い。断面形状か

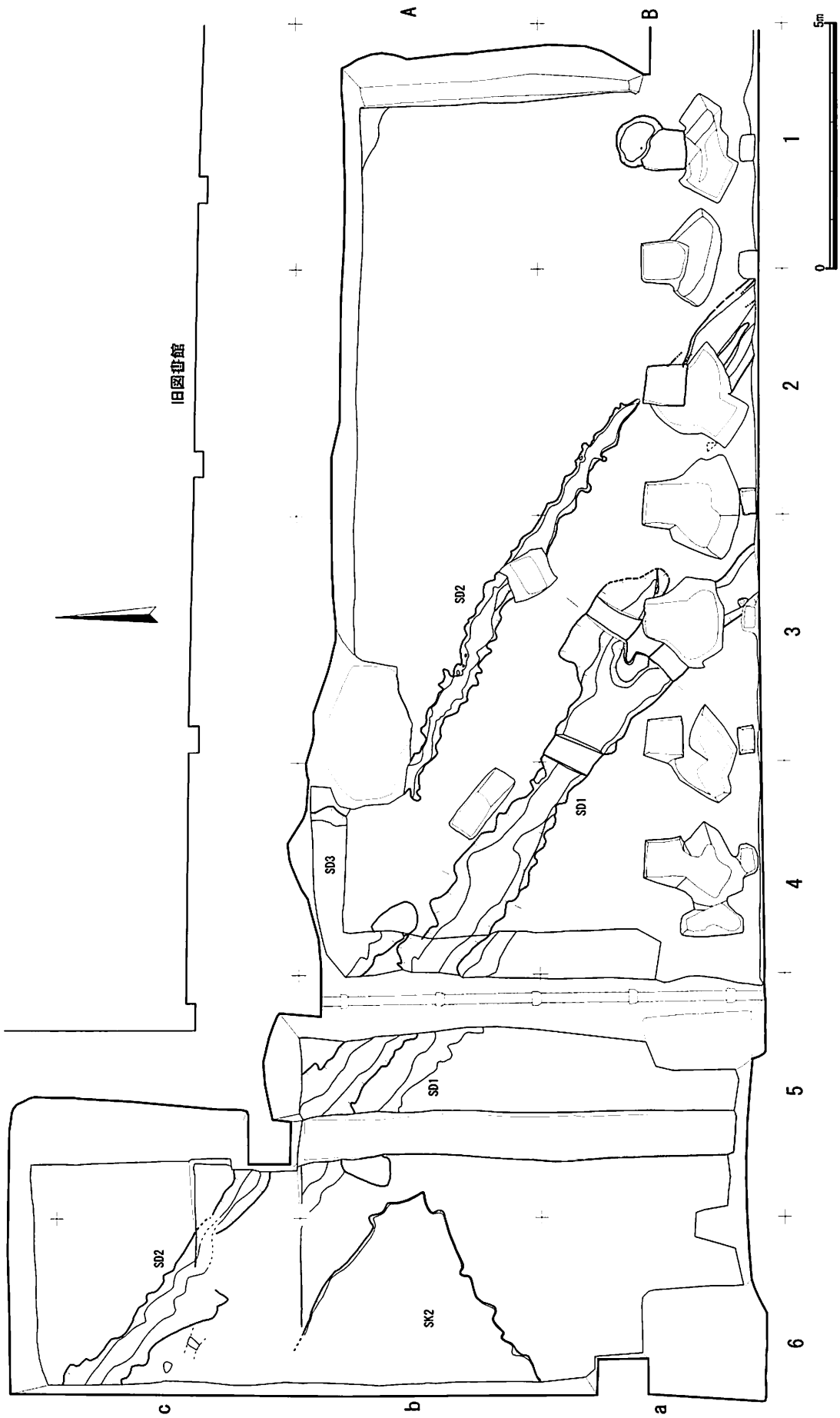


Fig.43　A・B 地点 4 層上面検出遺構(S=1/120)

らみると(PL.28)，2 層土の堆積時に，削平されたように，上部がなくなっている。しかし，付編 2 にあるように，3 層の土壌プラント・オパール定量分析では，かなりの量でイネ・ヨシが検出されており，水田の可能性がある。しかし，その周辺には他の遺構は認められていない。

PL.26 A 地点 SD1 検出南側

PL.27 A 地点 SD1 完掘

PL.28 A 地点 SD1 断面

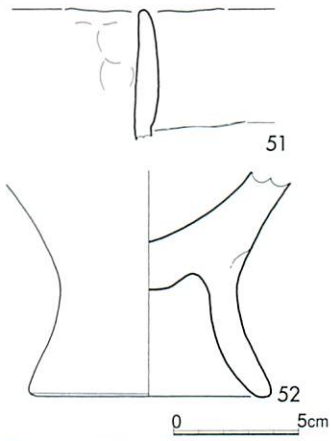


Fig.44 A 地点 SD1 出土土器(S=1/3)

PL.29 A 地点 SD1 出土土器

Tab.14 A 地点 SD1 出土土器観察

No. 地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
51	SD1 A	古墳	甕	口縁部	鉄分付着のため不明.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ナデ. 内面:ナデ・ユビオサエ.	貼付突帯の接合痕あり.
52	SD1 A	古墳	甕	脚台	外面:明黄褐10YR7/6. 内面:黒褐2.5Y 3/2. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	粗砂・砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	内・外面:ナデ.	底径(9.0cm).

PL.30 A 地点 SD2 検出

PL.31 A 地点 SD2 完掘

PL.32 A 地点 SD2 断面

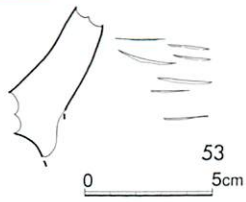


Fig.45 A 地点 SD2 出土土器 (S=1/3)

PL.33 A 地点 SD2 出土土器

Tab.15 A 地点 SD2 出土土器観察

No. 地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
53	SD2 A	弥生か古墳	甕	底部	外面:明黄褐10YR6/6. 内面:明黄褐10YR 6/8. 器肉:鉄分付着のため不明.	礫・粗砂:灰色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	4	内・外面とも剥落. 外面:ハケの打ち込み痕あり.	

PL.34 B地点SD1・2検出状況

B地点SD2において，作業台石らしき石器の破損品が出土している(54)。片面に磨面があり，片面は自然面のままで，加工痕らしきものは見当たらない。

出土状況からは，時期判断が困難であるが，遺跡の性格から，弥生時代あるいは古墳時代に属するものが，後世の流路による削平であらわれたものとみなしたい。

PL.35 B地点SD2 完掘

PL.36 B地点SD2出土石器

Tab.16 B地点SD2出土石器観察

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
54	SD2	鉄石安山岩	25.1	11.8	4.8	1350	作業台

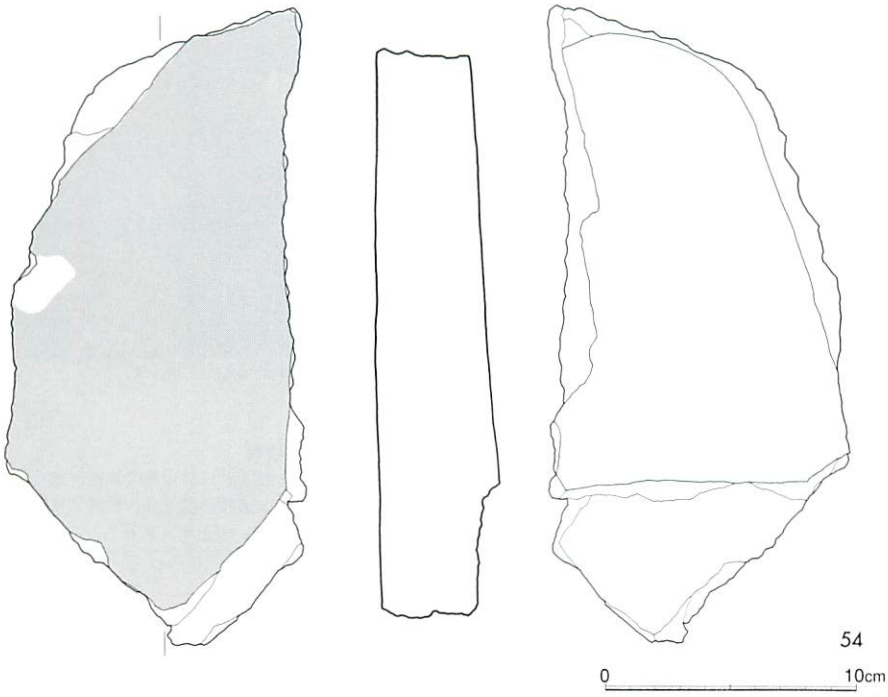


Fig.46 B地点SD2出石器(S=1/3)

PL.37 B 地点 SD3 完掘状況

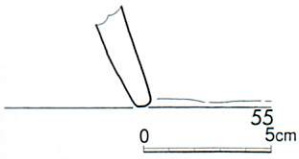


Fig.47 B 地点 SD3 出土遺物(S=1/3)

PL.38 B 地点 SD3 出土遺物

Tab.17 B 地点 SD3 出土土器観察

No.	層	地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
55	SD3	B	古墳	甕	脚台	内・外面・器肉:橙7.5YR6/6.	粗砂:石英. 砂:角閃石・黒色粒・白色粒.	1	内・外面:ヨコナデ.	

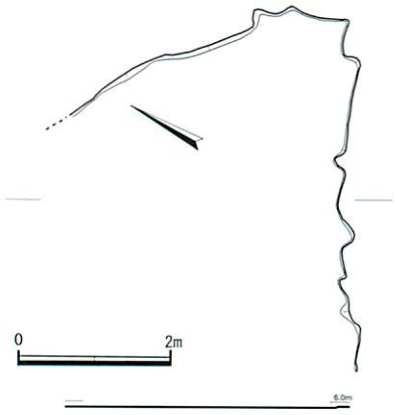


Fig.48 B 地点 SK2 (S=1/100)
深さ 2-3cm 程度しかなく，土層の落ち込みである可能性が高い．

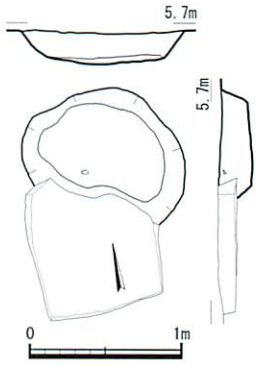
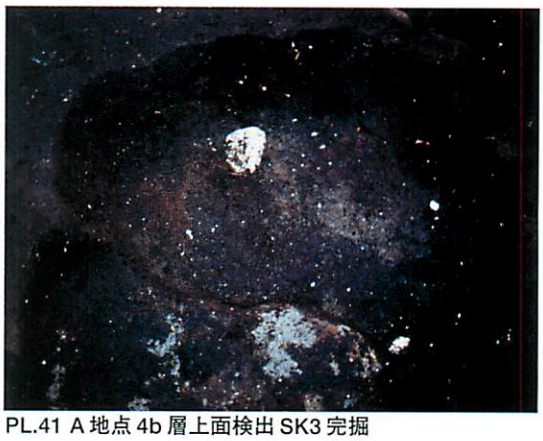


Fig.50 A 地点 4b 層上面検出 SK3(S=1/50)

PL.39 B 地点 SK2 完掘



PL.41 A 地点 4b 層上面検出 SK3 完掘

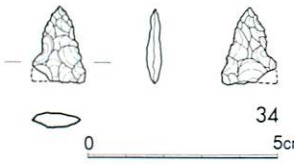
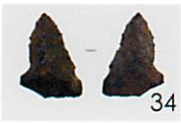


Fig.49 B 地点 SK2 出土石鏃 (S=1/2)



PL.40 B 地点 SK2 出土石鏃

Tab.18 B 地点 SK2 出土石鏃観察

長さ2cm程度の石鏃であり，技法的に縁辺部の剥離が粗く，大雑把である．本調査区の出土遺物の状況から判断すれば，弥生時代中期ごろの遺物ではないかと考えられる．

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
34	SK2	ホルンフェルス化した頁岩	2	1.5	0.41	0.85

5-6.A・B地点4層出土遺物(Fig.51-56,Tab.19-28, PL.42-49)

4層は，A・B地点において，最も遺物の出土量の多い層である。出土遺物は5層上面で検出される遺構の時期に近いものと判断されるが，遺物に弥生時代中期-古墳時代後半期という時期幅がある。

弥生時代の遺物も少なくない。弥生時代中期前半新段階の入来II式土器は，小破片が多いものの，口唇部を平坦にし，凹部を形成する特徴と，口縁部上端が水平もしくはわずかに上下に傾く特徴から，比較的容易に認定される(56・57・59，81・84・117-126)。また，口縁部上端がやや上傾していることから，入来II式よりも，やや後出すると考えられる一群があり(58・82・83・127)，そのほかにも中九州系の黒髪式系統土器(85)や，北部九州の須玖式系統の土器片も出土している(89)。また，系統不明の資料(60・86)も存在する。

特筆すべきは，入来II式段階の大甕(120・121・125)と，

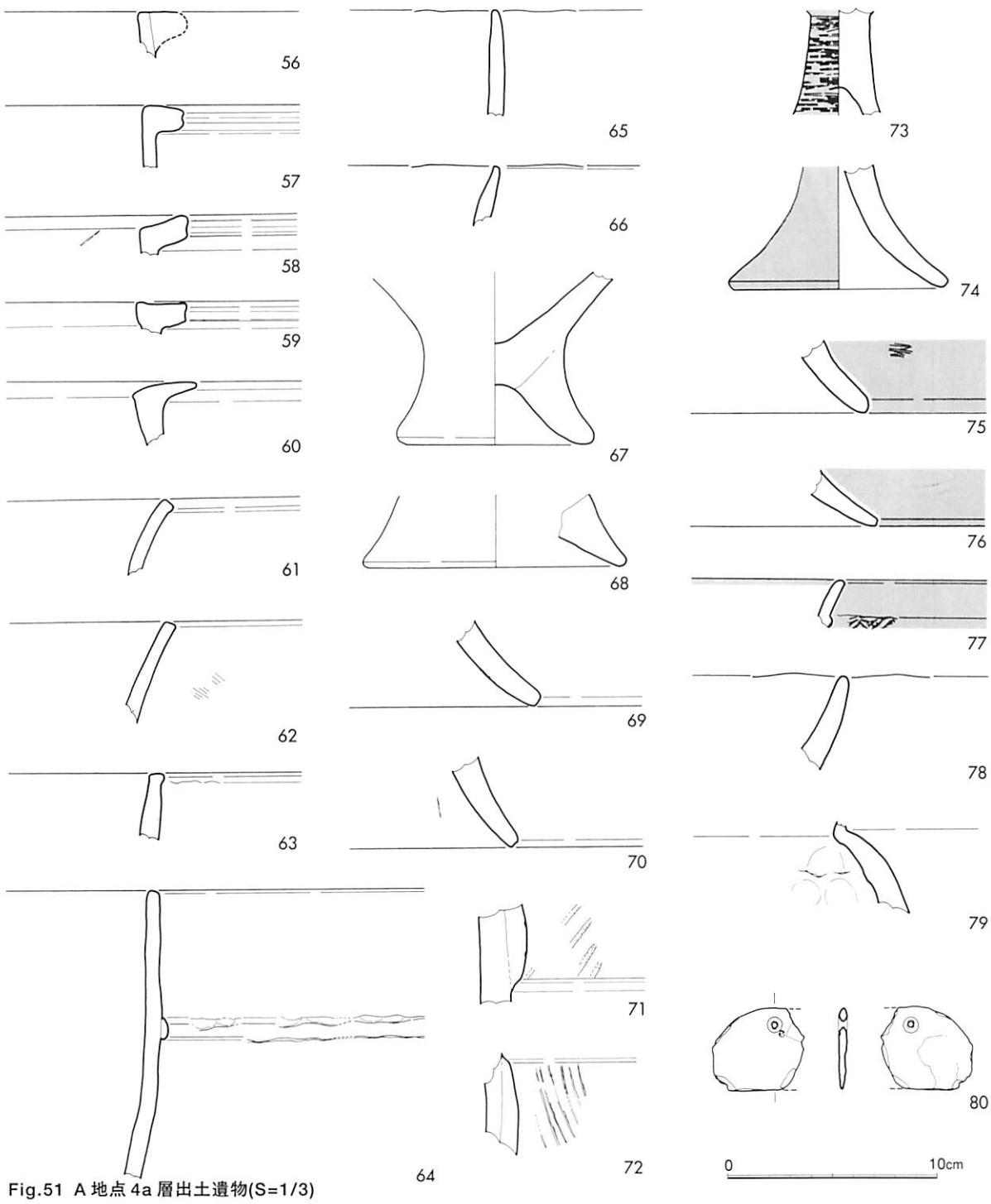


Fig.51 A地点4a層出土遺物(S=1/3)

PL.42 A地点4a層出土遺物

一の宮式段階の甕(127)の出土であろう。前者は，大粒の雲母を胎土に混入しており，鹿児島湾沿岸部の主要な胎土ではない。大隅半島や指宿地域，甑島地域，大隅諸島地域に顕著な胎土である。ほかにも(56·58·81·117·123·124·129)などは，大粒の雲母を混入しており，日常的な地域間交流の一端をあらわしている可能性が高い。教育学部キャンパスにあたる郡元団地M·N-4·5区(サークル棟建設地)の調査では，山ノ口式土器が多量に出土しているが，その大半に雲母を混入する[4]。

後者の一の宮式甕は，「絡縄突帯」·「中実脚台」·「口縁部の内面への張り出し」·「黒褐色」·「粗造」などで，特徴付けられる土器であるが[5]，その系譜など不明な部分が多い。近年では，北麓遺跡において，入来II式段階から絡縄突帯·黒褐色·粗造などの特徴を持つことが知られており[6]，少なくとも鹿児島市域では，このような特徴は，弥生時代中期中葉ごろから現れていることが分かってきている。本遺跡出土資料は，口縁部の屈曲部が短いことや，内面への突出がないことなどから，型式学的には，典型的な一の宮式甕よりもやや古手であり，入来II式よりは，後出であろうと考えられる。

Tab.19 A地点4a層出土土器

No. 地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
56 A	4a	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい赤褐5YR5/4. 内面:鉄分付着のため不明. 器肉:明赤褐2.5YR5/6.	礫:石英. 粗砂:黒雲母・角閃石・石英・白色粒. 砂:黒雲母・角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	5	外面:剥落. 内面:鉄分付着のため不明.	接合痕あり.
57 A	4a	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:明褐7.5YR5/6. 器肉:橙7.5YR6/6.	粗砂:角閃石・石英・黒色粒. 砂:角閃石・白色粒・赤色粒.	7	摩滅のため不明.	
58 A	4a	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:浅黄2.5Y7/3. 器肉:灰5Y4/1.	礫:白色粒. 粗砂:白色粒・黒雲母. 砂:黒雲母・黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	5	外面:ヨコナデ. 内面:ヘラ状工具による調整痕.	
59 A	4a	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:灰褐7.5YR4/2. 内面:にぶい黄褐10YR5/3. 器肉:鉄分付着のため不明.	礫:灰色粒. 粗砂:灰色粒・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面・口唇部:ヨコナデ.	
60 A	4a	弥生	甕か鉢	口縁部	外面:にぶい赤褐5YR4/3. 内面・器肉:鉄分付着のため不明.	礫:赤色粒. 粗砂:白色粒・灰色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	内・外面:ヨコナデ.	
61 A	4a	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/4. 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器肉:鉄分付着のため不明.	粗砂:白色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒.	2	内・外面・口唇部:ヨコナデ.	
62 A	4a	古墳	甕	口縁部	外面:灰黄褐に類似10YR5/2. 内面:明黄褐10YR6/6. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂・砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ハケ(—). 剥落. 内面:ヨコナデ・ユビオサエ.	
63 A	4a	笹貫式	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/4. 内面:浅黄に類似2.5Y7/3. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:石英. 砂:角閃石・石英 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:胎土が外面側にかぶる. 内面:ハケ(—)→ナデ(—).	
64 A	4a	古墳	甕	口縁部～胴部上半	外面:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:灰オリーブ5Y5/2. 器肉:淡黄2.5Y8/4.	粗砂:角閃石. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:鉄分付着・摩滅のため不明. 内面:丁寧なナデ.	貼付突帯1条. ススの付着.
65 A	4a	笹貫式	甕	口縁部	外面:鉄分付着のため不明. 内面:灰黄に類似2.5Y7/2. 器肉:灰白2.5Y8/2.	砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:鉄分付着のため不明. 内面:丁寧なナデ・ユビオサエ.	
66 A	4a	古墳	甕?	口縁部	外面:灰5Y6/1. 内面:鉄分付着のため不明. 器肉:灰白10YR8/1.	砂・細砂:黒色粒.	2	外面:ヨコナデ. 内面:鉄分付着のため不明.	
67 A	4a	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/3. 器肉:にぶい橙7.5YR7/4.	礫:灰色粒. 粗砂:石英・白色粒・灰色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:透明粒.	4	外面:ナデ(—). 明瞭に痕が残る. 内面:非常に丁寧なナデ.	接合痕あり. 底径(8.8cm).
68 A	4a	古墳	甕	脚台	内・外面:灰白10YR8/2. 器肉:灰5Y5/1.	細砂:黒色粒.	2	内・外面:鉄分付着・摩滅のため不明.	接合部で剥落. 底径(12.2cm).
69 A	4a	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面:淡黄に類似2.5Y8/4. 器肉:灰白に類似2.5Y8/2.	礫:白色粒・黒色粒. 粗砂:石英. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	2	外面:ナデ(—\). 摩滅. 内面:丁寧なナデ.	
70 A	4	古墳	甕	脚台	外面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器肉:灰5Y5/1.	砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ナデ(|)・端部はヨコナデ. 内面:ハケ(—)・ヨコナデ. ハケの打ち込み痕あり.	
71 A	4a	笹貫式	壺	胴部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/4. 内面・器肉:鉄分付着のため不明.	粗砂:石英・白色粒. 砂:石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	6	外面:ヨコナデ. 内面:鉄分付着のため不明.	幅広突帯にハケによる刺突文(／).接合痕あり.
72 A	4a	笹貫式	壺	胴部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:灰に類似5Y4/1.	砂:黒色粒・白色粒	4	外面:ヨコナデ. 内面:剥落.	幅広突帯にヘラによる沈線(\).接合痕あり.
73 A	4a	古墳	高杯	脚部	外面:明赤褐に類似2.5YR5/6. 器肉:灰黄2.5Y6/2.	細砂:透明粒.	1	外面:ミガキ(—).	外面:赤色顔料塗布.
74 A	4a	古墳	高杯	脚部	外面:赤10R4/8. 内面・器肉:鉄分付着のため不明.	砂:黒色粒. 細砂:透明粒.	1	鉄分付着のため不明.	外面:赤色顔料塗布. 底径(9.9cm).
75 A	4a	古墳	高杯?	脚部	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4. 内面:にぶい赤褐5YR5/3. 器肉:黄灰2.5Y5/1.	粗砂:黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	2	外面:粗いミガキ. 内面:ナデ(—).	外面:赤色顔料塗布.
76 A	?	古墳	高杯	脚部	内・外面:黄褐10YR5/6. 赤色顔料:灰赤2.5Y4/2. 器肉:鉄分付着のため不明.	砂:角閃石・石英. 細砂:白色粒・透明粒.	2	外面:ミガキ.	外面:赤色顔料塗布.
77 A	4a	古墳	鉢か高杯	口縁部	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4. 内面:淡黄2.5Y8/3. 器肉:灰白10YR8/2.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ミガキ(—). 内面:丁寧なナデ.	刻目突帯1条(／). 外面:赤色顔料塗布.
78 A	4a	古墳	坩	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面・器肉:鉄分付着のため不明.	粗砂:白色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	内・外面:ナデ(—). 内面にハケの打ち込み痕あり.	
79 A	4a	古墳	坩	胴部上半	外面:にぶい橙7.5YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:鉄分付着のため不明.	粗砂:石英. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ナデ. 内面:粗いナデ・ユビオサエ. 粘土の貼付痕あり.	

Tab.20 A地点4a層出土石包丁

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
80	4a	ホルンフェルス化した頁岩	4	4.4	0.4	13.6	孔径:0.25cm. 半欠.

弥生時代後期に属する資料の存在はないが,弥生時代終末期ごろの特徴を備える土器片は認められる(87・88)。

B地点4b層では,弥生土器が比較的まとまって出土しており,弥生時代包含層の存在を窺わせる。ここでは,弥生時代終末期-古墳時代前期に属する中津野式の台付鉢(131)や,古式土師器系土器(132)も出土している。台付鉢(131)は,胎土に黒雲母の混入がみられる。古式土師器系土器(132)は,底部形態は不明であるが,口縁部や球胴形状の特徴から,布留式並行ごろの時期が与えられるものである。そのなかでも,口縁部の傾きや口唇部のつくりから,古墳時代前半期に位置づけられるものではないかと推定されるが,布留式土器を忠実に模したものではないため,判断が難しい。器壁が成川式土器様式群と比べて薄く,口縁部外面に暗文などを有する特徴から,

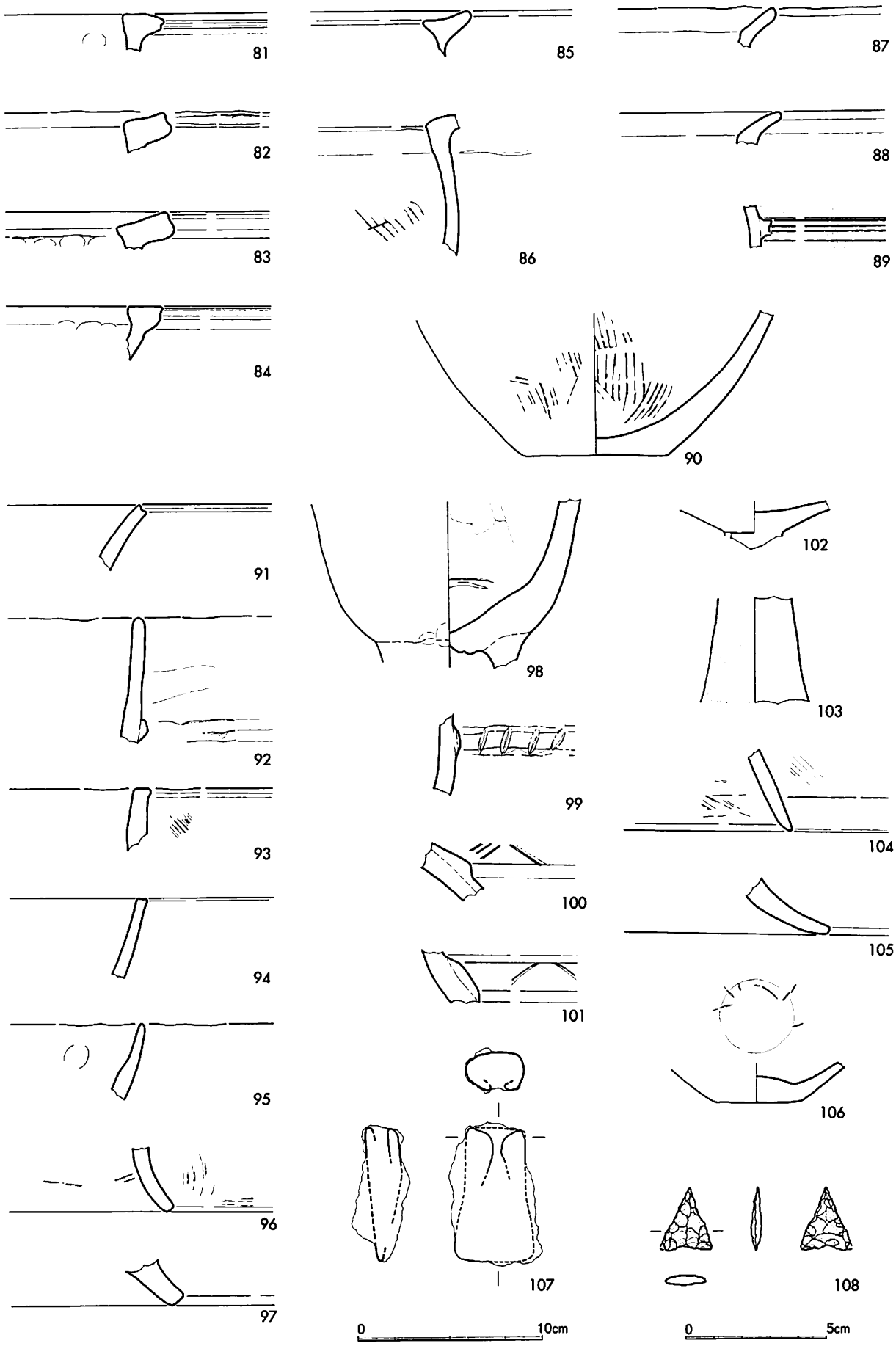
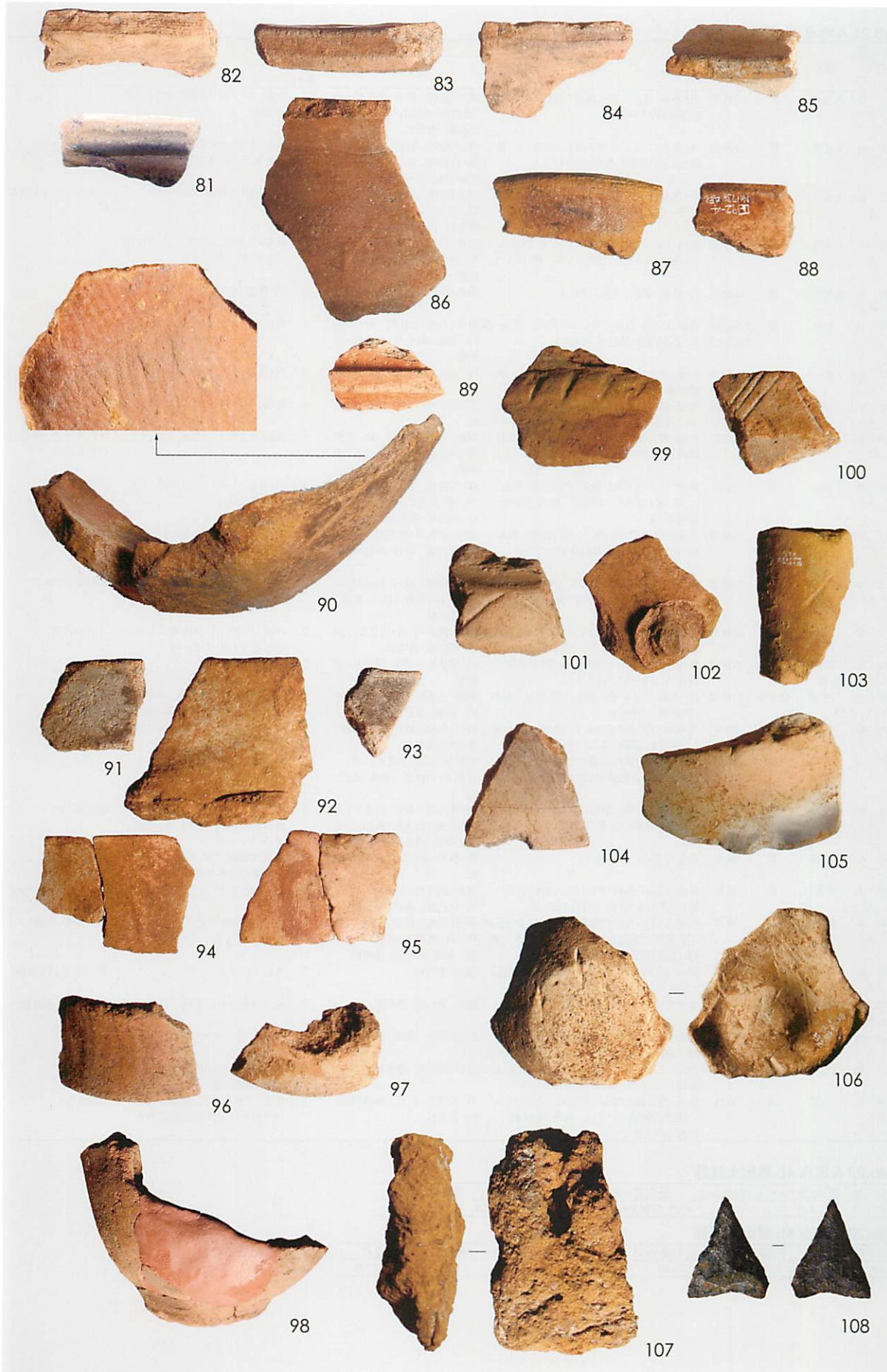


Fig.52 A地点4b層出土土器(S=1/3), (108)はS=1/2



PL.43 A 地点 4b 層出土遺物

Tab.21 A地点4b層出土遺物

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
81 4b A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:にぶい褐に類似7.5YR5/4. 器肉:にぶい橙7.5YR7/4.	礫:灰色粒. 粗砂:白色粒. 砂:黒雲母・角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ・ユビオサエ.	
82 4b A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/3.	礫:灰色粒. 粗砂:角閃石・石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ナデ・ユビオサエ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ. 口唇部:ヨコナデ.	
83 4b A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:にぶい褐に類似7.5YR5/4. 器肉:にぶい橙に類似7.5YR7/3.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	内・外面・口唇部:ヨコナデ.	内面側に突出部を貼付.
84 4b A	入来Ⅱ式	甕か鉢	口縁部	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:にぶい橙7.5YR7/4. 器肉:にぶい橙5YR7/3.	粗砂:白色粒. 砂:石英・黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	外面・口唇部:ヨコナデ.内面:ユビオサエ.胎土がかぶる.	
85 4b A	黒髪式系	甕	口縁部	内・外面・器肉:淡黄2.5Y8/3.	粗砂・砂:石英. 細砂:透明粒.	2	内・外面:ヨコナデ.	
86 4b A	弥生	甕	口縁部～胴部上半	外面:にぶい黄橙に類似10YR5/3. 内面・器肉:にぶい褐に類似7.5YR5/4.	砂:石英・白色粒. 砂:灰色粒. 細砂:黒色粒・白色粒・透明粒.	2	外面:ヨコナデ. 内面:ハケ(＼)・ヨコナデ. ハケの打ち込み痕.	
87 4b A	弥生	甕	口縁部	内面:オリーブ黒7.5Y3/1. 外面・器肉:鉄分付着のため不明.	砂:石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	内・外面:ヨコナデ.	口縁部のゆがみが著しい.
88 4b A	弥生	甕か鉢	口縁部	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:灰5Y4/1.	砂:石英・灰色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:丁寧なナデ.	
89 4b A	須玖式	壺	胴部	外面:明赤褐2.5YR5/6. 内面:橙5YR6/6. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:石英・黒雲母. 砂:黒雲母・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ.	M字状突帯. 外面:赤色顔料塗布.
90 4b A	弥生	壺	底部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/4. 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器肉:にぶい橙5YR7/4.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:灰色粒・白色粒. 細砂:白色粒・黒色粒.	2	内・外面:ハケ(｜)→ナデ. ただし調整具は異なる.	底径(7.6cm).
91 4b A	弥生か古墳 A	甕	口縁部	外面:灰5Y6/1. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	粗砂:赤色粒・黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ナデ. 剥落が著しい. 内面:ナデ. 口唇部:ヨコナデ	
92 4b A	笹貫式	甕	口縁部	外面:浅黄に類似2.5Y7/3. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/3. 器肉:浅黄橙7.5YR8/4.	礫:白色粒. 粗砂:白色粒・灰色粒. 砂:石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ナデ・ユビオサエ(—). 内面:ナデ・ハケの打ち込み痕(—).	貼付突帯1条.
93 4b A	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/3. 内面:浅黄に類似2.5Y7/3. 器肉:灰白10YR8/2.	砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ハケ(＼). 外面側に胎土がかぶる. 内面:ナデ(—).	ススの付着.
94 4b A	弥生か古墳	壺か鉢	口縁部	外面:橙7.5YR6/6. 内面:浅黄2.5Y7/3. 器肉:にぶい橙7.5YR7/4.	砂:黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	内・外面:ヨコナデ.	
95 4b A	古墳	甕か鉢	口縁部	内・外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器肉:浅黄橙7.5YR8/6.	粗砂:白色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:摩滅のため不明. 内面:ユビオサエ. 鉄分付着・摩滅が著しい.	
96 4b A	古墳	甕	脚台	外面:にぶい褐7.5YR5/4. 内面:にぶい橙7.5YR6/4. 器肉:にぶい橙7.5YR7/4.	礫:白色粒. 砂:石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ナデ(｜)・端部はヨコナデ. 内面:ナデ.	
97 4b A	古墳	甕	脚部	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:灰色粒・黒色粒. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒.	3	内・外面:ヨコナデ.	
98 4b A	古墳	甕	底部付近	外面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 内面:橙に類似7.5YR7/6. 器肉:灰白に類似10YR8/2.	礫:灰色粒. 粗砂:灰色粒・白色粒. 砂:白色粒・角閃石・石英. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	外面:ハケ(｜)少(—)→ナデ(｜). 剥落あり. 内面:ハケ(｜)→粗いナデ(—)・ケズリ.	接合痕あり.
99 4b A	古墳	壺	胴部	鉄分付着のため不明.	砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒.	2	外面:摩滅のため不明. 内面:鉄分付着のため不明.	刻目突帯(／).
100 4b A	笹貫式	壺	肩部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい橙7.5YR6/4. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:白色粒・赤色粒. 砂:石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	3	内・外面:ナデ.	幅広突帯. 3条一組の沈線(／＼).
101 4b A	笹貫式	壺	肩部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/3. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/2.	礫:灰色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・黒色粒・灰色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	内・外面:ヨコナデ.	幅広突帯. 沈線(／＼).
102 4b A	古墳?	高杯	杯部	外面:にぶい褐7.5YR5/4. 内面:灰に類似7.5Y4/1. 器肉:鉄分付着のため不明.	細砂:透明粒.	1	外面:ヨコナデ.	脚が接合部で欠落.
103 4b A	古墳	高杯	脚部	鉄分付着のため不明.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	鉄分付着のため不明.	外面:赤色顔料塗布.
104 4b A	弥生か古墳	高杯	脚部	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面:暗灰黄に類似2.5Y5/2. 器肉:灰黄2.5Y6/2.	砂:角閃石. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ(—)→ヨコナデ. 内面:ヨコナデ.	
105 4b A	古墳	高杯	脚部	外面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 内面:浅黄橙7.5YR8/3. 器肉:灰白10YR8/2.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ.内・外面とも摩滅が著しい.	
106 4b A	古墳	坩	底部	外面:浅黄橙に類似10YR8/3. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:暗灰黄に類似2.5Y5/2.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:丁寧なナデ. 摩滅.内底面:ハケ打ち込み痕が明瞭に残る.	底径4.5cm.

Tab.22 A地点4b層出土鉄器

No.	層	最大長(cm)	刃部幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
107	4b	7.0	4.5	不明. 袋部で約1.8cm.	110.39	完形品. 錆膨れが著しい.

Tab.23 A地点4b層出土石器

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
108	4b	ホルンフェルス化した頁岩	2.05	1.8	0.4	0.95	一部欠損.

PL.44 A 地点 4b 層出土鉄斧 X 線写真
(鹿児島県立埋蔵文化財センター提供)
X 線写真でも錆膨れの著しい様子が分かる．ソケット部は密着せず，離れている．

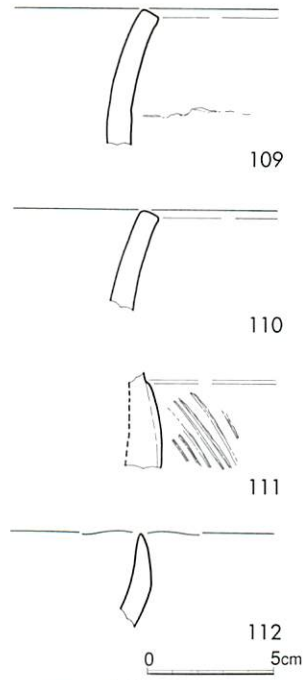


Fig.53 B 地点 4 層出土土器
(S=1/3)

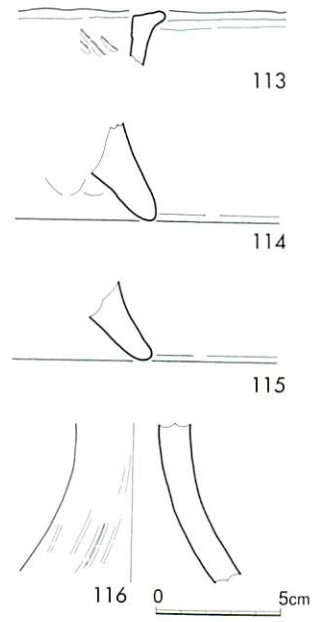


Fig.54 B 地点 4a 層出土土器(S=1/3)

PL.45 B 地点 4 層出土土器

PL.46 B 地点 4a 層出土土器

Tab.24 B 地点 4・4a 層出土土器

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	砂粒の多さ	調整	備考
109 4 B	古墳	甕	口縁部	外面:浅黄に類似2.5Y7/3. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	礫:赤色粒. 粗砂:角閃石・石英. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:透明粒.	2	外面:ヨコナデ・丁寧なナデ. 内面:ヨコナデ・丁寧なナデ.口唇部:ヨコナデ.	
110 4 B	古墳	甕	口縁部	外面:淡黄2.5Y8/3. 内面:浅黄2.5Y7/3. 器肉:にぶい黄2.5Y6/3.	礫:石英・黒雲母・白色粒. 粗砂:石英・黒雲母・黒色粒. 砂・細砂:黒雲母・黒色粒.	5	内・外面:剥落のため不明.	
111 4 B	笹貫式	壺	胴部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒. 砂:石英・白色粒・赤色粒. 細砂:白色粒・黒色粒・透明粒.	4	外面:幅広突帯. 内面:剥落.	幅広突帯にヘラ状工具による刺突文(＼).
112 4 B	古墳	鉢	口縁部	内・外面:にぶい黄2.5Y6/3. 器肉:淡黄2.5Y8/3.	砂:角閃石・石英. 細砂:透明粒.	2	外面:丁寧なナデ. 内面:粗いナデ.	
113 4a B	弥生	鉢か甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:赤色粒・黒色粒・白色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ナデ. 内面:ヘラ状工具の粗い調整痕.	
114 4a B	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面・器肉:鉄分付着のため不明.	粗砂:石英・黒色粒・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	4	外面:ヨコナデ.	接合部で剥落.
115 4a B	古墳	甕	脚台	外面:明黄褐に類似10YR6/6. 内面:明黄褐に類似10YR7/6. 器肉:浅黄橙に類似10YR8/3.	粗砂:黒色粒. 砂:石英・黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ナデ(—).	接合部で剥落.
116 4a B	古墳	高杯	脚部	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/3. 内面・器肉:浅黄橙に類似10YR8/3.	礫・粗砂:石英. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	3	外面:ハケ(＼)→ミガキ(｜). 内面:ナデ(｜).	

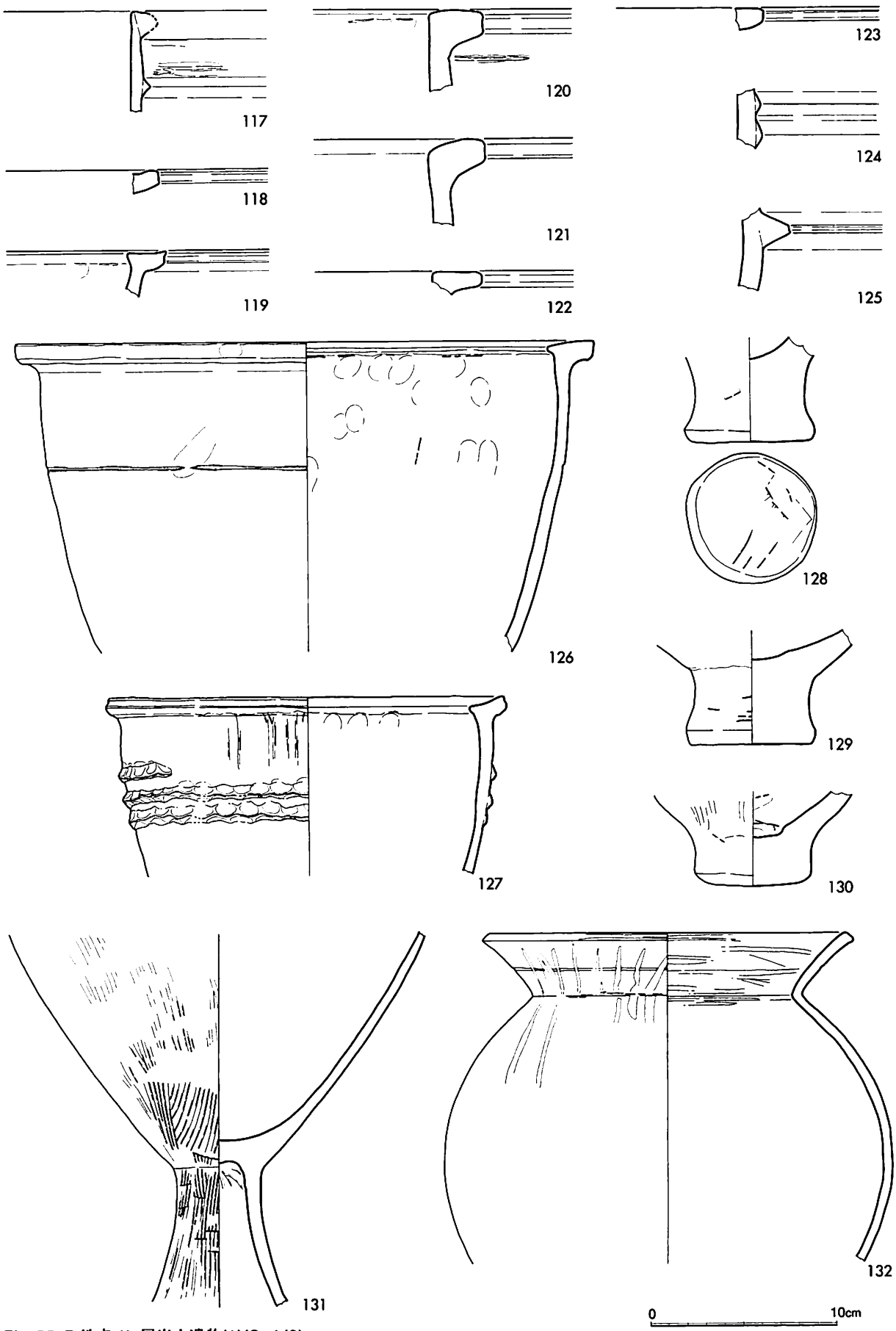


Fig.55 B地点4b層出土遺物(1)(S=1/3)

PL.47 B 地点 4b 層遺物(1)

搬入品であると判断される。しかし，産地不明である。

古墳時代の在地土器である成川式土器は，甕，壷，鉢，高坏，坩などがあり，甕は，大まかに，前半期と後半期の特徴を持つものとに分けられる。

すなわち，前半期：口唇部を平坦に面取りし，直状に開くもの，緩やかに開くもの(61・62・91・93・94・109・110・134・135)と，後半期：口唇部断面形状が，舌状に丸みを帯び，直状になるものや，やや内弯気味になるものなどである。これらは突帯や口縁部に指頭圧痕を明瞭に残し，粗雑な感を受けるものである(64・65・66・92・95・138・139・140)。しかし，笹貫式を中心とする成川式後半期の甕などは，個体差と捉えられる変異の幅が大きく，小破片でそれと確実に判断するのは難しい。

壷は，幅広突帯の大きさや施文などで分類される。突帯幅は，約1-5cm間であり，5cm幅の突帯はやや少なめである。突帯上の施文は，ヘラ状工具による斜位の沈線文(71・72・99・111)，ハの字の沈線文(100・101)などがあり，竹管工具による刺突文などは今回得られていない。

鉢は，認定できるものは少なく，時期の判断できないものである。高坏もまた，時期の判断が難しい。鉢と高坏の区別は，口縁部小破片の場合，困難な場合が多い。

坩も全形が窺える資料が少なく，口縁部資料もほとんどないが，(106)の底部資料などは，平底であることから，古墳時代後半期である可能性が高い。

また，時期不明の土器(152)も出土している。一応，口縁部として図化したものの，その確証がない。幅0.8cm前後の半裁竹管状工具か叉状工具で，2本を対にした沈線文を縦位に施している。

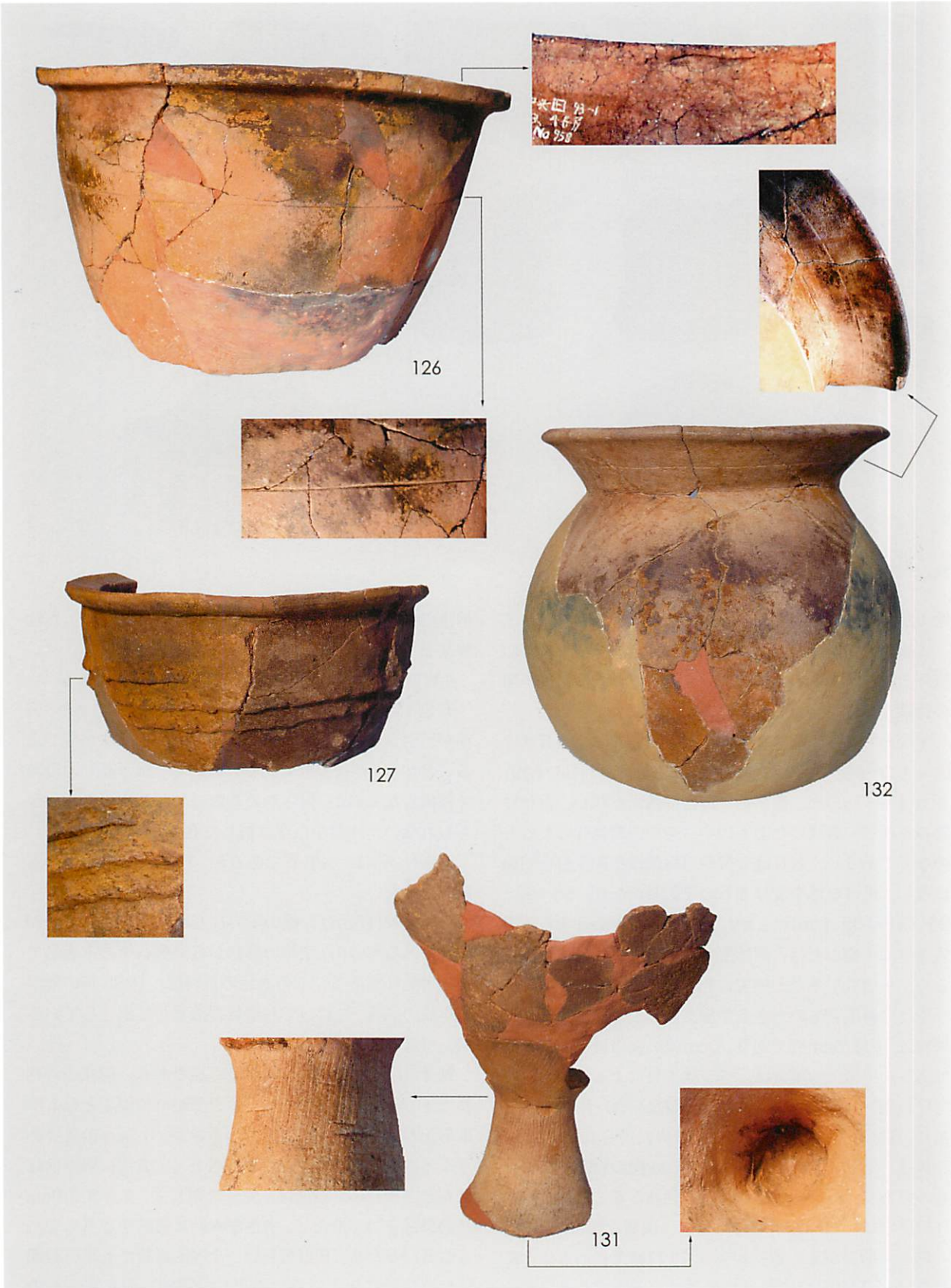
4層出土石器は，石包丁，石鏃と石材剥片がある。

石包丁(80)は，薄手・小型の直刃資料である。また，刃部が刃引きされ，刃縁は残っていない。薄手・小型であることから，かなり使い込まれたのち，砥ぎ直しの段階で破損したものか，何らかの垂飾品に再利用したものかもしれない。片面から空け損じた孔も認められる。

石鏃(108)は，頁岩製であるが，B地点SK2出土のものと大差ない。

石材剥片(153)は，図の下方にした部分に，剥離面が顕著であるものの，全体の形状から磨製石鏃の未製品である可能性もある。この赤色の頁岩は，1983年の理学部車庫の調査[7]においても磨製石鏃として出土しているが，帰属時期は断定できない。

鉄斧(107)は，袋状鉄斧の完形品である。現状から判断できる範囲で所見を記すと，刃部がやや幅広となる平面形かバチ形のもので，刃部の厚みが，0.5cm前後であろうと推定されるが，錆膨れが著しく，表面の観察はほとんどできない。袋部は，完全に閉じず，1.3×2.0cm径の袋部をつくりだし，小さな木柄に装着するものであることが分かる。類似資料は，全国的に見ても早い時期には弥生時代後半ごろに出現し全国的に分布するものの，古墳時代の後期ごろには型式変化するようである[8]。これから考えると，本遺跡の遺物量から推定される古地の中心時期とは異なることになる。



PL.48 B 地点 4b 層出土遺物(1)

Tab.25 B 地点 4b 層出土遺物(1)

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
117 4b B	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい褐7.5YR5/4. 内面・器肉:にぶい橙に類似7.5YR6/4.	礫:石英・白色粒. 粗砂:石英・黒雲母. 砂:角閃石・黒雲母・白色粒. 細砂:黒雲母.	5	外面:ヨコナデ・ナデ(—). 内面:丁寧なナデ.	三角突帯1条.
118 4b B	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐10YR5/4. 器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/4.	礫:白色粒. 粗砂:黒色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面・口唇部:ヨコナデ.	口縁部上面が若干くぼむ.
119 4b B	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:褐灰に類似10YR4/1. 内面:にぶい黄褐に類似10YR5/3. 器肉:にぶい黄橙10YR7/3.	粗砂:灰色粒. 砂:角閃石・石英・赤色粒. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ(｜)→ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ. 口唇部:ヨコナデ.	
120 4b B	入来Ⅱ式	大甕	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:橙に類似7.5YR7/6. 器肉:暗灰黄2.5Y 4/2.	礫:石英・黒雲母・白色粒・灰色粒. 粗砂:石英・黒雲母・白色粒. 砂:石英・黒雲母・白色粒・黒色粒. 細砂:黒雲母・白色粒	5	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	内面側に若干胎土が突出する.
121 4b B	弥生	大甕	口縁部	外面:橙7.5YR6/6. 内面:にぶい黄に類似2.5Y6/4. 器肉内:黄灰に類似2.5Y5/1. 器肉外:灰黄に類似2.5Y7/2.	礫:石英・白色粒・灰色粒. 粗砂:角閃石・石英・黒雲母・白色粒. 砂:石英・黒色粒・白色粒 細砂:黒雲母?・白色粒・黒色粒	5	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	
122 4b B	弥生	甕	口縁部	内・外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:角閃石・石英・白色粒・赤色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:白色粒・黒色粒.	2	外面:ヨコナデ.	
123 4b B	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:欠損. 器肉:にぶい黄に類似2.5Y6/3.	礫:石英・黒雲母. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:黒雲母・黒色粒.	4	外面・口唇部:ヨコナデ.	
124 4b B	弥生	甕	胴部	外面:にぶい黄褐に類似10YR4/3. 内面:にぶい黄褐に類似10YR6/3. 器肉:鉄分付着のため不明.	礫:石英・黒雲母・灰色粒. 粗砂:黒雲母・白色粒. 砂:角閃石・黒雲母・白色粒. 細砂:黒雲母・黒色粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ.	三角突帯2条.
125 4b B	弥生	大甕	胴部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:橙に類似7.5YR7/6. 器肉:灰黄2.5Y7/2.	礫:石英・黒色粒. 粗砂:石英・黒雲母・白色粒・黒色粒. 砂:角閃石・黒雲母・白色粒. 細砂:黒雲母?・白色粒.	5	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ(＼).	M字状突帯1条.
126 4b B	弥生	甕	口縁部～胴部	外面:にぶい赤褐5YR5/4. 内面:灰黄褐に類似10YR4/2. 器肉:にぶい黄橙10YR 7/3.	礫:灰色粒. 粗砂:角閃石・石英・灰色粒・白色粒. 砂:石英・角閃石・白色粒. 細砂:白色粒・黒色粒・透明粒.	3	外面:口縁部:ヨコナデ・ユビオサエ. 胴部…ハケ(｜)・ユビオサエ. 内面:口縁部…ハケの打ち込み痕・ヨコナデ・ユビオサエ. 胴部…ハケ(＼)・ユビオサエ・ナデ.	外面胴部上位に1条の沈線.ススの付着. 口径(31.4cm).
127 4b B	一の宮式(古)?	甕	口縁部～胴部	外面:にぶい褐に類似7.5YR5/3. 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器肉:浅黄橙7.5YR8/3.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ(｜). 内面:口縁部…ユビオサエ・ヨコナデ. 胴部:ハケ(｜)・ナデ.	絡縄突帯2～3条. ススの付着. 口径(21.3cm).
128 4b B	弥生	甕	脚台	外面:にぶい黄に類似2.5Y6/3. 内面:暗灰黄に類似2.5Y5/2. 器肉:橙5YR6/6.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ハケ(｜)(／)→ナデ. 剥落が著しい. 底面:ハケ→ケズリ.	白色粉末の付着範囲が認められる. 底径6.0cm.
129 4b B	弥生	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/3. 器肉:にぶい黄褐に類似10YR5/4.	礫:黒雲母・白色粒. 粗砂:黒雲母・石英・白色粒. 砂:黒雲母・白色粒. 細砂:黒雲母・黒色粒.	5	外面:ハケ(—)(｜)→ナデ. ハケの打ち込み痕. 内面:ハケの打ち込み痕・ナデ.	黒雲母が目立つ. 底径6.5cm.
130 4b B	弥生	壺	底部	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/3.	礫:黒色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	4	外面:ハケ(—)→ナデ(—)(｜)→ミガキ. 内面:ハケ(—).	底径(4.5cm).
131 4b B	中津野式	台付鉢	胴部下半～脚部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:灰黄褐10YR5/2. 器肉:にぶい黄橙10YR7/4.	粗砂:雲母. 砂:石英・雲母・白色粒・黒色粒. 細砂:白色粒・黒色粒.	5	外面:ハケ(＼)(｜). 内面:摩滅が著しい. 脚部内面:ヘラ状工具による粗い整形痕・ナデ.	
132 4b B	古式土師器系	甕	口縁部～胴部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい黄橙10YR7/3. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ミガキ(—). 横沈線1条.内面:ミガキ(—).口唇部:ヨコナデ.	ススの付着.

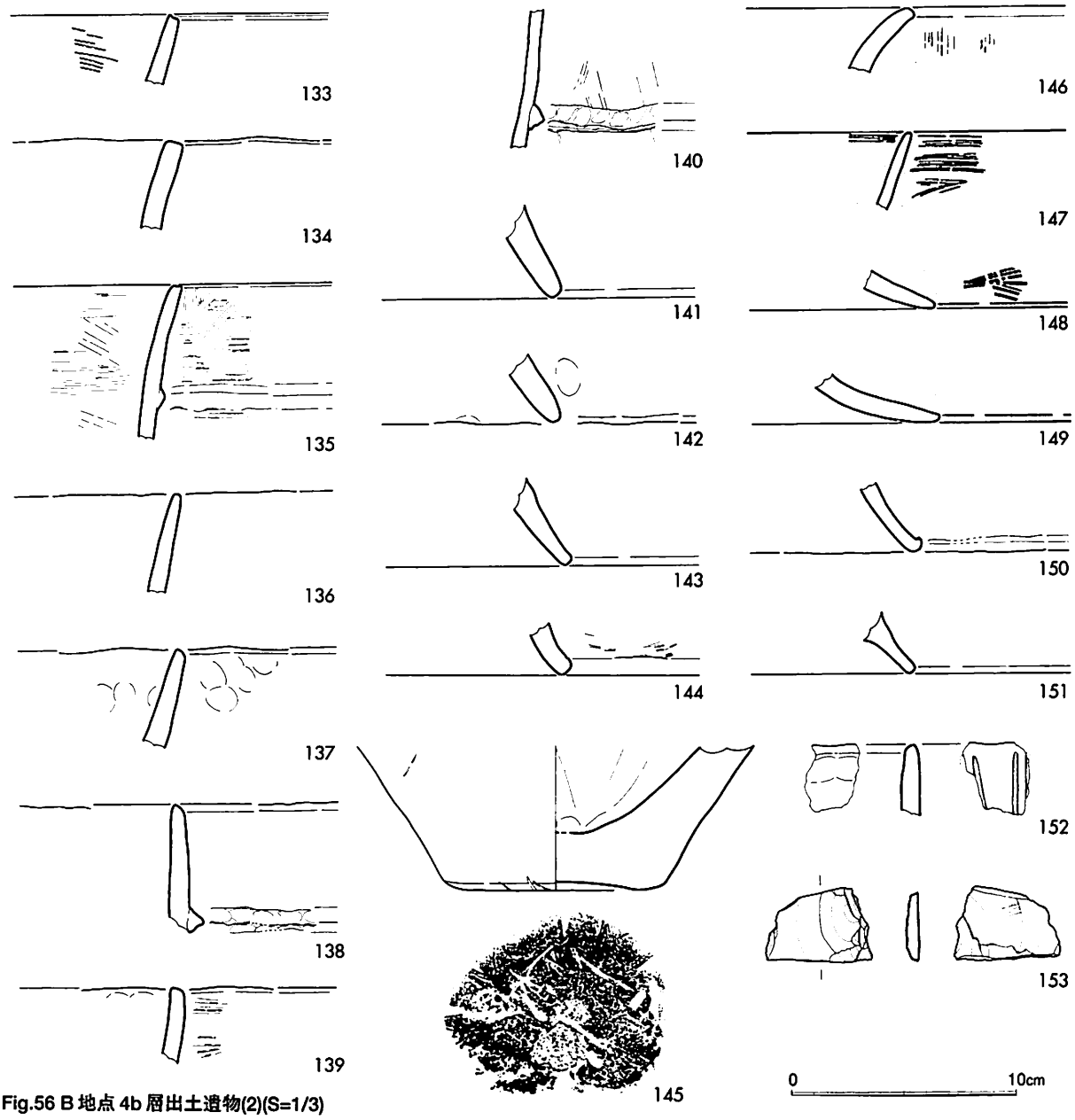


Fig.56 B地点4b層出土遺物(2)(S=1/3)

Tab.26 B地点4b層出土遺物(2)

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	砂粒の多さ	調整	備考
133 4b B	弥生か古墳	甕	口縁部	内・外面・器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/4.	粗砂:角閃石・石英. 砂:角閃石. 細砂:透明粒.	3	外面:ナデ.内面:ハケ(—)→ナデ. 口唇部:ヨコナデ	
134 4b B	古墳	甕	口縁部	外面:暗灰黄2.5Y4/2. 内面:灰黄に類似2.5Y7/2. 器肉:灰白2.5Y8/2.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ナデ(—)(＼). 内面:ナデ(—).	
135 4b B	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 器肉:にぶい黄橙10YR7/4.	礫:石英. 粗砂:石英・黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:角閃石・黒色粒.	3	外面:ヨコナデ →(｜)→(／). 内面:ハケ(＼)→ヨコナデ.	三角突帯1条. ススの付着.
136 4b B	古墳	甕	口縁部	鉄分付着のため不明.	粗砂:角閃石・石英・灰色粒. 砂:黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ナデ. 内面:ナデ.	
137 4b B	古墳	甕	口縁部	内・外面:浅黄橙10YR8/4に赤く彩色か?(外面:橙5YR6/6. 内面:明赤褐5YR5/6.) 器肉:浅黄橙10YR8/4.	礫:白色粒. 粗砂:角閃石. 砂:黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ユビオサエ・ナデ(＼). 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	
138 4b B	笹貫式	甕	口縁部	外面:灰オリーブ5Y5/2. 内面:灰オリーブ5Y6/2. 器肉:灰白2.5Y7/1.	粗砂:石英・黒色粒・白色粒. 砂:石英. 細砂:透明粒.	2	外面:ハケ(＼)→ナデ. 内面:ナデ.	絡縄突帯1条.
139 4b B	古墳	鉢か甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:浅黄橙に類似10YR8/4. 器肉:浅黄橙7.5YR8/6.	砂:角閃石・赤色粒・白色粒. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ(—)→ナデ. 内面:ナデ.	
140 4b B	古墳	甕	胴部	外面:灰に類似5Y4/1. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:黄灰2.5Y5/1.	粗砂:石英・黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ハケ(｜)→ナデ. 内面:ハケ(＼)→ナデ.	絡縄突帯1条.

PL.49 B地点4b層出土遺物(2)

Tab.27 B地点4b層出土遺物(2)

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	砂粒の多さ	調整	備考
141 4b B	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR 8/4.	礫:灰色粒. 粗砂:角閃石・石英・灰色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:摩滅により不明. 内面:ハケ(—)・ナデ.	
142 4b B	古墳	甕	脚台	外面:灰黄2.5Y7/2. 内面:にぶい黄橙10 YR7/4. 器肉:橙5YR7/6.	粗砂:角閃石・石英・白色粒・灰色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	内・外面:ナデ(—).	
143 4b B	古墳	甕	脚台	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:明黄褐に類似10YR7/6. 器肉:浅黄橙10YR 8/3.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ(—)(／).	
144 4b B	古墳	甕	脚台	内・外面:にぶい黄橙10YR7/4. 器肉:灰白10YR8/2.	礫:灰色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	3	外面:ハケ(—)→ナデ. 内面:ナデ.	
145 4b B	古墳	壺	底部	外面:明赤褐2.5YR5/6. 内面:橙に類似7.5YR6/6. 器肉:明赤褐2.5YR5/6.	礫:灰色粒. 粗砂:白色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:板状工具による調整(｜)→ナデ(｜). 内面:ヘラ状工具による調整(｜)→ナデ(｜)・ユビオサエ.	底面:製作時の敷物(?)の圧痕あり. 僅かに上げ底.中央部をくぼませる.底径(8.0cm)
146 4b B	古墳	壺	口縁部	外面:浅黄橙に類似10YR8/4. 内面・器肉内:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 器肉外:灰白10YR8/2.	礫:軽石・石英. 粗砂:角閃石・石英. 砂:角閃石・石英・赤色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ハケ(｜)→ヨコナデ. 内面:ナデ.	
147 4b B	古墳	高杯?	口縁部	外面:明赤褐2.5Y5/6. 内面:明赤褐に類似2.5YR5/6. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ミガキ(—)→ナデ. 内面:ナデ(＼)→(—).	内・外面:赤色顔料塗布.
148 4b B	古墳	高杯	脚部	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4. 内面:浅黄橙に類似10YR8/4. 器肉:浅黄橙に類似10 YR8/3.	粗砂:黒色粒・白色粒. 砂:黒色粒・赤色粒. 細砂:透明粒.	2	外面:ミガキ. 内面:ナデ(—＼).	外面:赤色顔料塗布. 内面に指頭状に顔料がつく.
149 4b B	古墳	高杯	脚部	外面:橙に類似2.5YR6/6. 内面:浅黄橙10YR8/3. 器肉:淡黄に類似2.5Y8/3.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ミガキ(?)	外面:赤色顔料塗布.
150 4b B	古墳	高杯	脚部	外面:オリーブ黒5Y3/1(スス付着による色調か?). 内面:にぶい橙に類似7.5YR 6/4. 器肉:にぶい赤褐5YR5/4.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:鉄分付着のため不明. 接地部外面が盛り上がる. 内面:ヨコナデ.	
151 4b B	古墳	鉢	脚台	外面:橙5YR7/6. 内面:橙7.5YR7/6. 器肉:にぶい橙5YR7/4.	砂:角閃石. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	内・外面:ヨコナデ.	
152 4b B	?		口縁部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:灰黄2.5Y6/2.	礫:石英・赤色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	5	内・外面:ナデ.	外面:縦沈線. 2条で1対?

Tab.28 B地点4b層出土石器

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
153	4b	紫赤色頁岩	3.3	4.8	0.6	10.55	剥片

5-7.A・B地点5層上面検出遺構(Fig.57-68,Tab.29-35,PL.50-82)

A・B地点における5層上面検出遺構は，住居跡1基(SK4)，土坑4基(A地点SK5-7，B地点SK11)，溝状遺構3基(B地点SD5-7)，多数のピット群がある。

住居跡(SK4)(Fig.58)

A地点の住居跡SK4は，平面全体の形状が，突出部のある円形住居である。住居全体の推定径は，約5.5-6m，深さ0.5-1.0mを計る。南東方向に突出した掘り込みがあり，深さが約0.4-0.45m程度ある。いわゆる「柄鏡型住居」と呼称されるものである。この突出部は，一般的に，住居入口と考えられており，それを評価するならば，南東方向に入口を持つ住居であった可能性がある。

竪穴内部のピットの分布は，西側に偏っており，小ピット群の深さは，P-aが5-12.2cm，bが2.2-7.3cm，c:7.7-12.7cm，d:3.6-6.3cm，e:11.8-15.1cm，f:8.9-17.3cm，g:6-10.3cmとなっており，深さから判断すると，どれも浅く，主柱である可能性は低い。しかし，いわゆるベッド状遺構上にあるピット(P-α:22-35cm・β:8.9-29cm)がやや深く，ピット底面の平面形状から，数度の建直しをあらわす主柱の可能性がある。これは，住居全形が不明であるので確言できないものの，対照的に北側未調査部分にも存在する可能性があり，その場合，計4本の主柱となる。支柱は判然としないが，竪穴外検出ピットのうち，PA112・113などは，25cm前後で比較的深く(Tab.34)，配置からは，入口の庇を支える柱穴と考える。その場合，PA115と対になっている可能性がある。

住居内中央部には，屋内地床炉らしきものがあり，炭が分布している。この炉は，住居が廃棄されるまでに，少なくとも3度のつくり直しを行っていると考えられ，厚さ1-2cm程度の3枚の炭層が確認できる。炭の分布は，北壁に向かって薄くなり，拡張部(第2次調査)の北壁には炭1はほとんど確認されない。

また，床面の土器片などは，その特徴から，古墳時代後半期の壺と考えられ(165)，この住居跡の帰属時期が大雑把には推定できる。炭を基準に床のつくり直しを見ると，炭2(床2)の段階に，中央炉付近に，赤色顔料の薄い分布も確認されている。これは分析の結果，ベンガラであることが分かった(Fig.59, PL.55)。ベンガラは，南部九州の古墳時代後半期の高坏や坩に多用されており，住居内で塗布作業を行っていた可能性もある。

竪穴は，最初，中央部付近を最も凹面状に深く掘り下げ，堀具痕を残したまま凹凸に粗く掘り込む。その上に，10- 25cm程度の厚さに土を充填してフラットにし，床面としている。

竪穴外壁に沿って，いわゆる「ベッド状遺構」といわれる段が形成されている。その段は，幅0.5-1.0m，高さ約20cm前後である。

そのほかに，竪穴内壁の段隅部分と貼り床隅部に「壁溝」が巡っており，内壁に板壁などをたてて，住居内を保護していたと推定される。これは，地山に深く掘り込んだものだけが認定されているので，検出面からの深さは極めて浅く，1-4cm程度が残存しているに過ぎない。段上の住居土壁に接するものは，住居内部への雨などの浸入から防御するものとして考えられるが，段下の貼り床の板壁は，何の機能を果たしていたのか定かではない。

住居内出土遺物は，弥生時代-古墳時代のものまであるが，先述したように床面にあるものは，古墳時代後半期土器である。遺物の接合状況からは，竪穴内部の埋土のみで接合し，わずかに4b層遺物との接合関係がみられる程度である。これは，住居廃棄の際に，一気に埋め戻された結果ではないかと考える。

SK5・6(土坑)

SK5・6は，検出面で観察すると，平面形は不整形であり，底面は凹凸が著しく，掘り具痕を示していると考えられる。深さ10-20cm前後でかなり浅い。このSK5・6は，それ自体が独立して機能していたとは考えにくく，住居跡とは切り合っていない状況から推して，住居竪穴の存在を意識してつくられたものであろうと考えられる。また，住居の入口付近の東西側に存在し，住居跡を全周するわけではない。

上屋構造を考えれば，SK4の住居掘り込みの突出部分(入口)を覆い隠すような屋根の存在でなければならないから，SK5・6は，屋根に隠れている部分になる。また，屋根との接地部分は，空間として広い場所ではなく，日常的に使用する空間ではないと考えられる。

SK4における壁溝の存在や，SK5・6が屋根に隠れている可能性，そして遺物の接合状況などから，検出はされていないものの，周堤の存在を想定したい。周堤は直裁的に考えれば，竪穴掘削段階において多量にでる廃土そのものでつくられ，竪穴を外周するものと考えられるが，SK5・6は土堤製作の際にわずかに足りない土を追加するために掘られた穴か，あるいは，住居廃棄の埋め戻す際，周堤だけでは足りない土を掘った結果ではないだろうか。仮に土塁が想定できるならば，入口のピット(PA111-115)の存在から，周堤は入口を開けた馬蹄形のものであると考えられる。

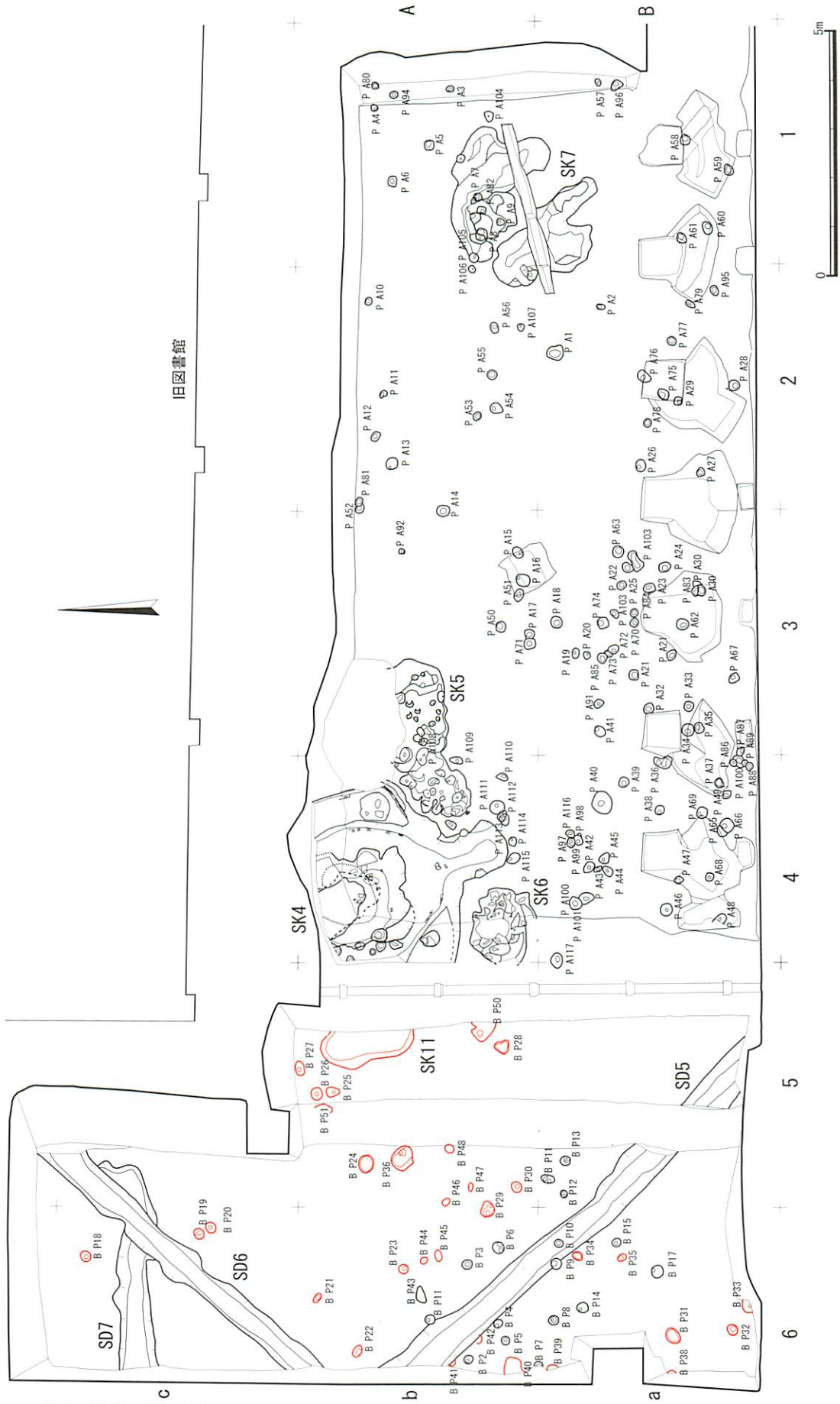


Fig.57 A・B 地点 5 層上面検出遺構(S=1/120)

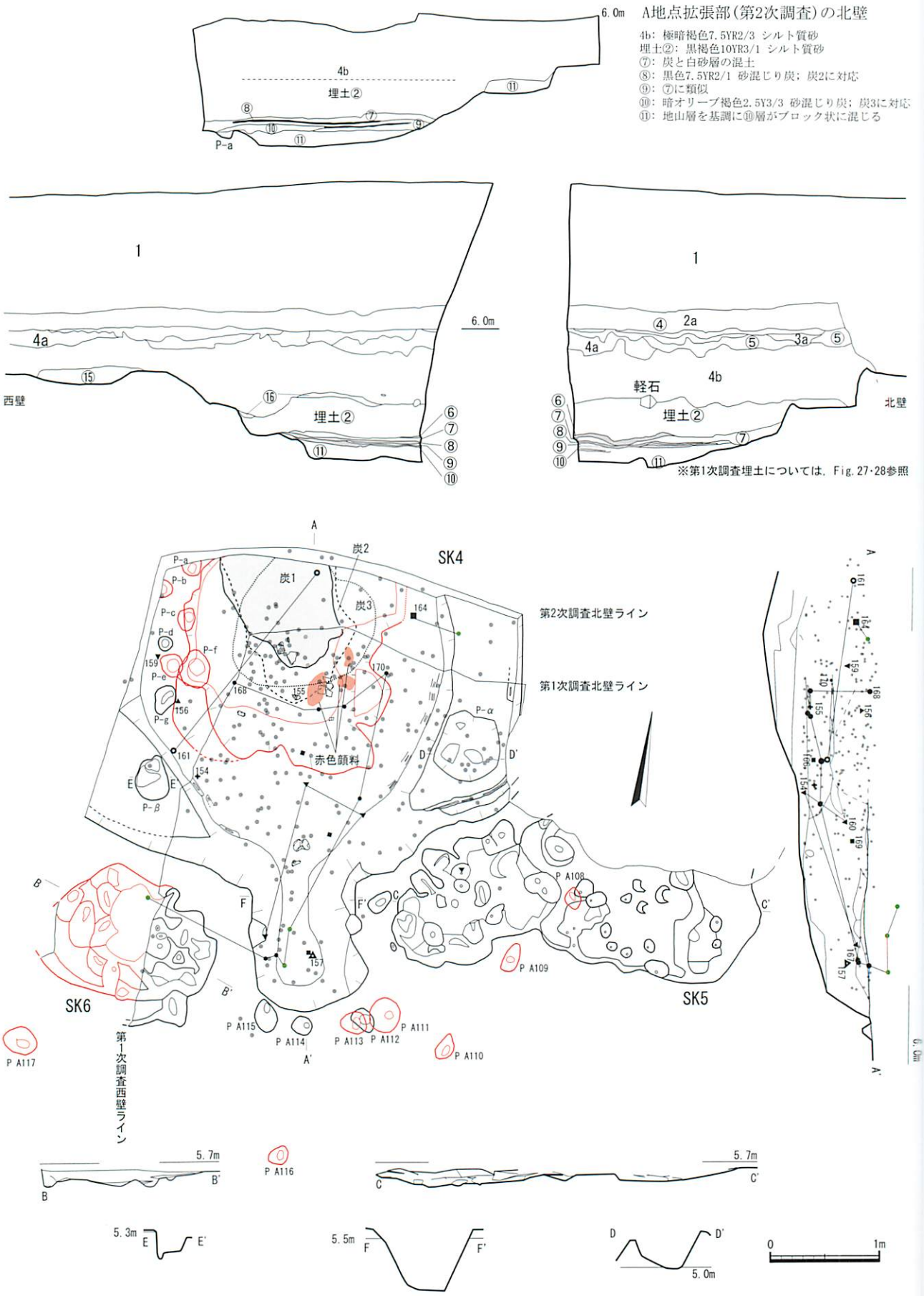


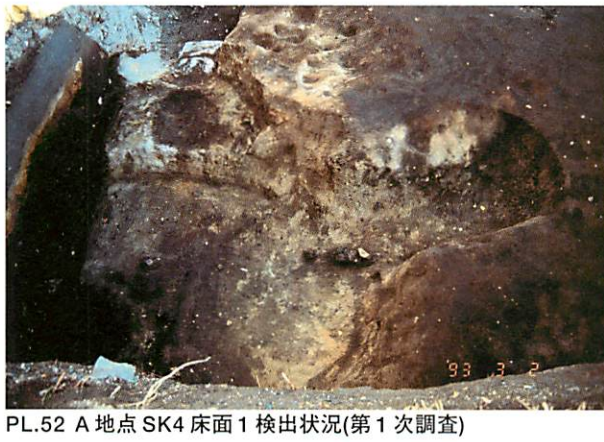
Fig.58 A 地点 SK4-6(S=1/50)

遺構: 黒色ラインは５層上面検出，赤色ラインは住居の掘り込みラインと，より下位のレベルより検出されたもの．

遺物: 黒;遺構出土，赤;2･3 層出土，緑;4･5 層出土．■;古墳時代在地系土器，□;古墳時代外来系土器，▼;弥生時代在地系土器，△;弥生時代外来系土器，●;弥生時代か古墳時代土器，•;その他無文胴部など，十;石器

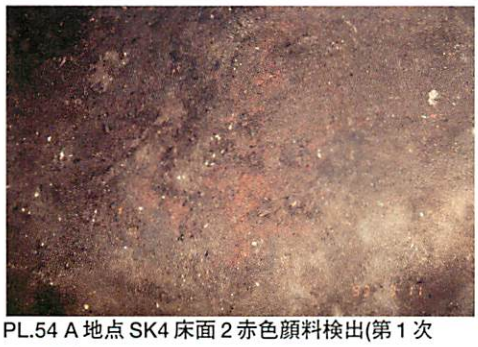
PL.50 A 地点 SK4・5・6 検出状況(第 1 次調査)

PL.51 A 地点 SK4・5・6 掘り下げ状況(第 1 次調査)



PL.52 A 地点 SK4 床面 1 検出状況(第 1 次調査)

PL.53 A 地点 SK4 床面 2 検出状況(第 1 次調査)



PL.54 A 地点 SK4 床面 2 赤色顔料検出(第 1 次調査)

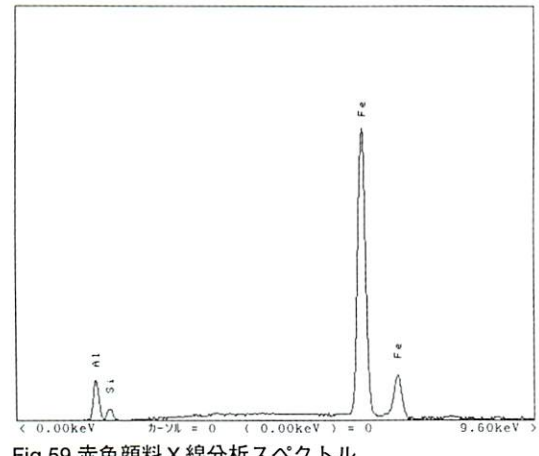
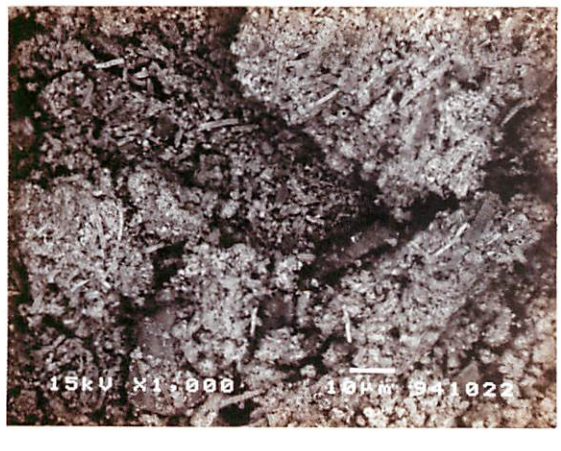


Fig.59 赤色顔料 X 線分析スペクトル
(鹿児島県立埋蔵文化財センター提供)
JEOL JED-2001
試料名:KADAI MAIBUN 2220
経過時間:121.34 秒
有効時間:100.00 秒
測定日:94 年 10 月 22 日
測定時刻:12 時 03 分 06 秒
フルスケール:8K



PL.55 赤色顔料電子顕微鏡写真　(鹿児島県立埋蔵文化財センター提供)
この赤色顔料は，酸化第二鉄(Fe_2O_3)のいわゆる「ベンガラ」である．鉄細菌由来のパイプ状粒子構造が見られる．

PL.56 A 地点 SK4 床面検出壁溝(第 1 次調査)

PL.57 A 地点 SK4 床面遺物出土状況(第 1 次調査)

PL.58 SK4 北壁観察による炉のつくり直し(第 1 次調査)

当時の炉の大きさは現状では判然としないため，炭の分布範囲から，中心部などを推定するほかない.SK4では最も炭の厚い部分を炉の中心と捉えている.また，SK4には，鹿児島大学構内遺跡郡元団地の古墳時代後半期に顕著な埋設土器が残されていない.あるいは元来なかったのかもしれない.

PL.59 A 地点 SK4 炉完掘(第 1 次調査)

PL.60 A 地点 SK4 掘床検出時の工具痕(第 1 次調査)

PL.61 A 地点 SK4 完掘(第 1 次調査)

PL.62 A 地点 SK4 完掘(第 1 次調査)

PL.63 A 地点 SK4 拡張部(第 2 次調査)

PL.64 A 地点 SK4 拡張部床面検出(第 2 次調査)

PL.65 A 地点 SK4 拡張部完掘(第 2 次調査)

PL.66 A 地点 SK4 西壁(第 2 次調査)

PL.67 A 地点 SK4 北壁(第 2 次調査)

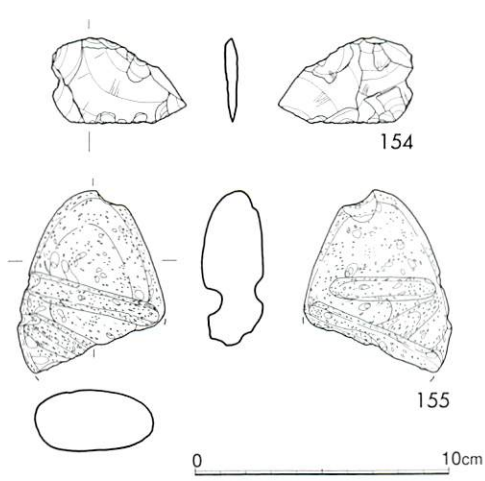


Fig.60 SK4 出土石器(S=1/3)

PL.68 SK4 出土石器

Tab.29 SK4 出土石器観察

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
154	SK4(埋土2)	紫赤色頁岩	5.6	3.4	0.6	10.87	図下部に剥離が認められる

Tab.30 SK4 出土軽石製品観察

No.	層	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
155	92-4 SK4	7.1	5.8	2.4	16.38	楕円形. 下半部欠損. 表・裏面に2条の凹部をつくる.

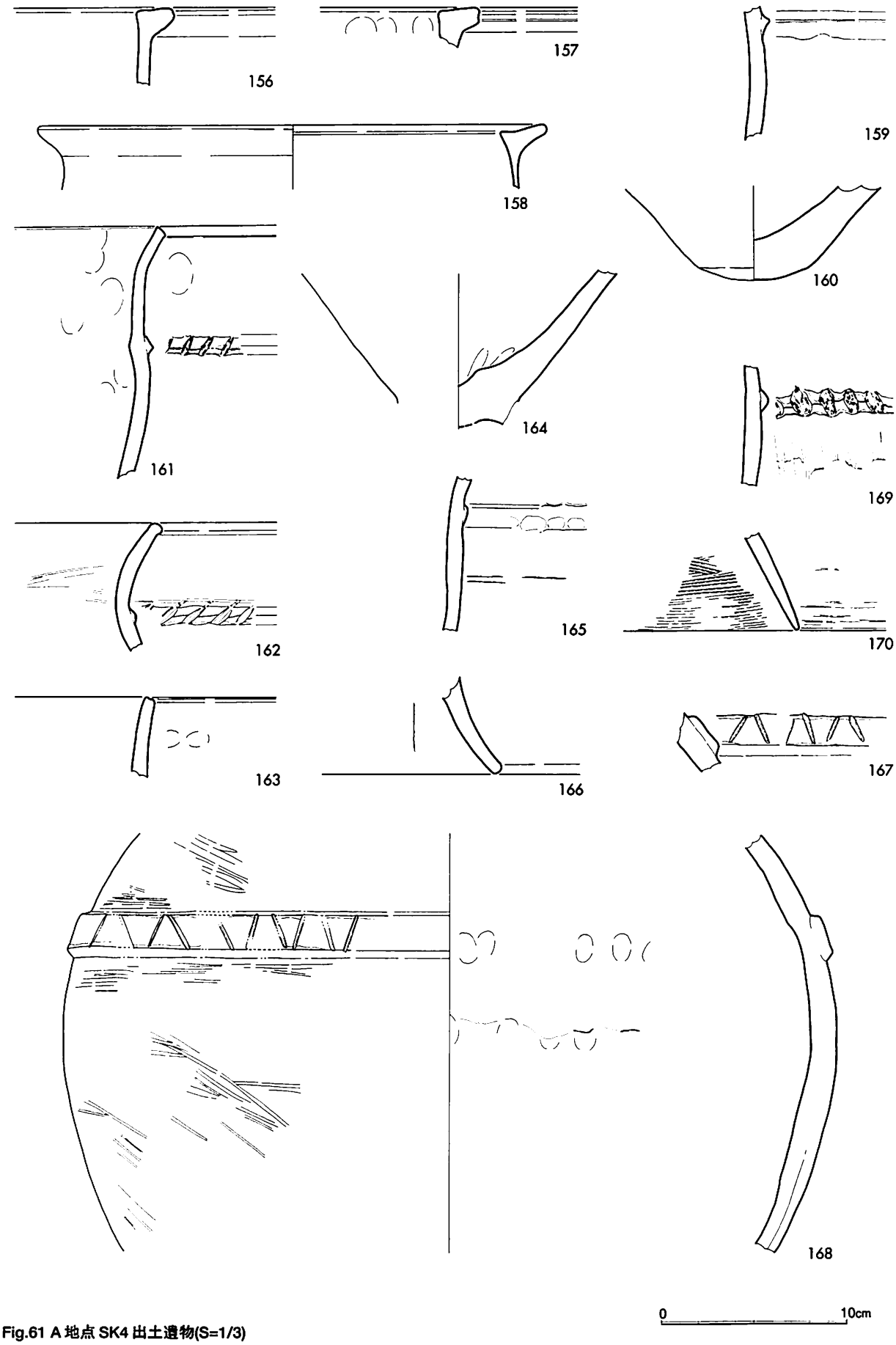
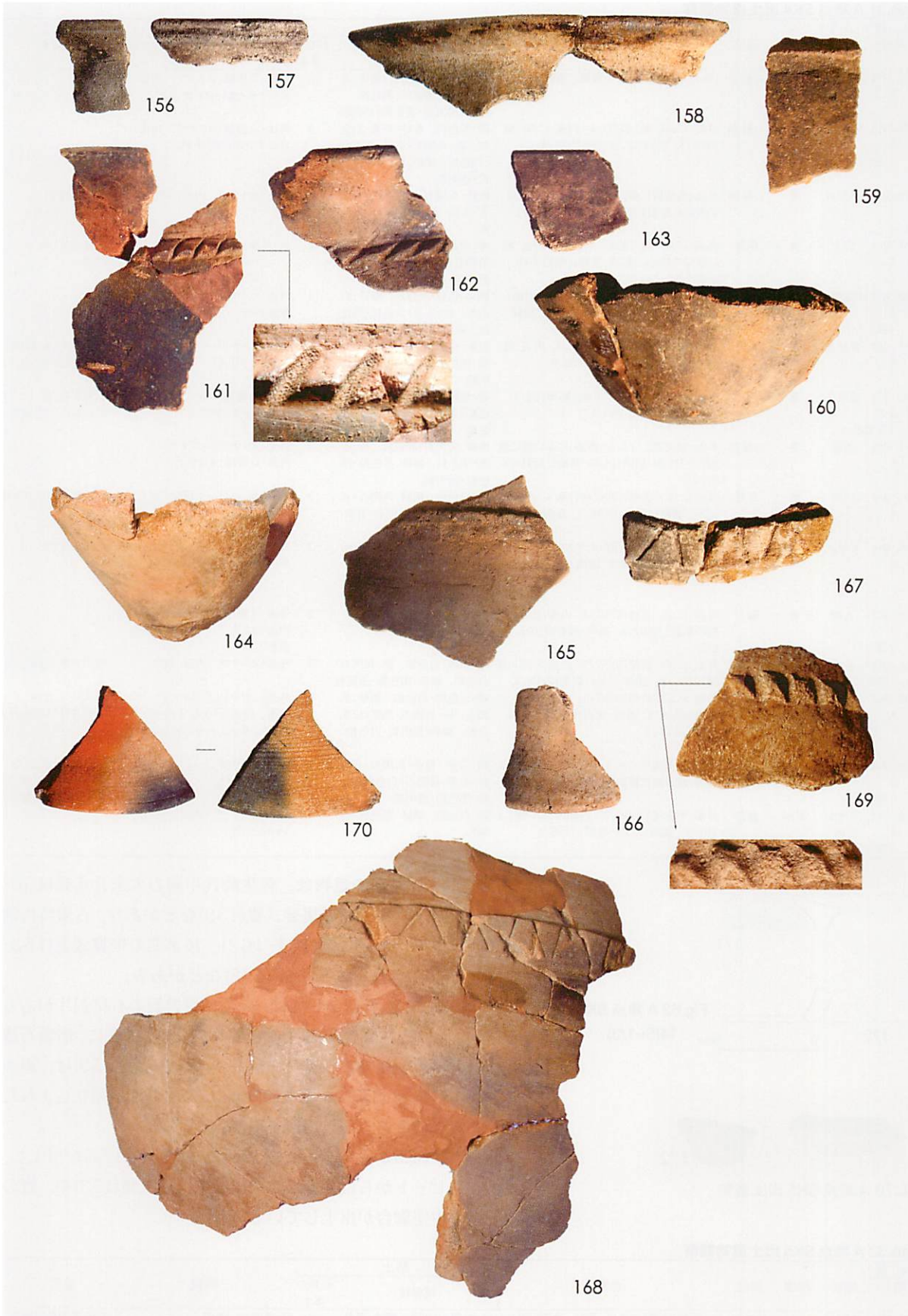


Fig.61 A地点SK4出土遺物(S=1/3)



PL.69 A 地点 SK4 出土遺物

Tab.31 A地点SK4出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	砂粒の多さ	調整	備考
156 SK4 A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面・器肉:にぶい黄褐に類似10YR5/3.	礫:黒雲母・赤色粒. 粗砂:黒雲母. 砂:黒雲母・黒色粒. 細砂:黒雲母・黒色粒・白色粒.	3	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ヨコナデ・浅いユビオサエ.	
157 SK4 A (埋土1)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい褐7.5YR5/3. 内面:にぶい橙5YR6/4. 器肉:にぶい橙7.5YR7/4.	礫:黒色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英・黒雲母・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒・透明粒.	4	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	
158 SK4 A	黒髪式	甕	口縁部	外面:浅黄橙に類似10YR8/3. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:灰5Y4/1.	粗砂:角閃石・石英. 砂:角閃石・石英・赤色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	ススの付着. 口径(27.4cm).
159 SK4 A	弥生	甕	胴部	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:橙に類似5YR6/6. 器肉:黄橙に類似10YR8/6.	礫:赤色粒. 粗砂:石英. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	内・外面:ナデ(—).	三角突帯1条. ススの付着.
160 SK4 A (埋土1・2)	中津野式	壺	底部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/3. 内面:摩滅のため不明. 器肉:にぶい橙に類似7.5YR7/4.	礫:白色粒・灰色粒. 粗砂:白色粒. 砂:石英・白色粒・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ハケ(僅か). 内・外面とも摩滅が著しい.	
161 SK4 A	東原式	甕	胴部	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:橙5YR6/6. 器肉:橙に類似5YR6/6.	粗砂:白色粒・赤色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ヨコナデ・ナデ. 内面:ヨコナデ・ナデ(／).	三角突帯1条. 刻目(／)中に布目圧痕. ススの付着.
162 SK4 A (埋土2)	東原式	甕	口縁部	外面:明赤褐5YR5/6. 内面:褐10YR4/4. 器肉:にぶい褐7.5YR5/4.	礫:黒色粒. 粗砂:角閃石・白色粒・赤色粒. 細砂:石英・白色粒.	3	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ハケ(—)→ヨコナデ	三角突帯1条. ハケによる刻目(／)を施す.
163 SK4 A	古墳	甕	口縁部	外面:暗灰黄2.5Y4/2. 内面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 器肉:にぶい黄橙に類似10YR7/4.	粗砂:角閃石・赤色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:赤色粒・黒色粒・透明粒.	3	外面:ヨコナデ・ユビオサエ. 内面・口唇部:ヨコナデ.	
164 SK4 A	古墳	甕	底部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/3. 器肉:橙7.5YR7/6.	礫:白色粒. 粗砂:角閃石・石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	内・外面:ハケ→丁寧なナデ(—). 内面底部にユビオサエ.	接合部で脚台が欠落.
165 SK4 A	東原式	甕	胴部	外面:にぶい褐7.5YR5/4. スス付着. 内面:浅黄に類似2.5Y7/3. 器肉:にぶい黄橙10YR7/4.	礫:灰色粒・赤色粒. 粗砂:石英・灰色粒・白色粒・赤色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ナデ(—). 内面:ナデ. 内・外面:ハケの打ち込み痕あり.	絡縄突帯1条.
166 SK4 A (埋土2)	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	砂:角閃石. 細砂:黒色粒.	2	外面:丁寧なナデ(＼)・ヨコナデ. 内面:ヨコナデ. ハケの打ち込み痕あり.	
167 SK4 A (埋土1)	古墳	壺	肩部	外面:にぶい黄橙10YR7/3. 内面:にぶい黄褐10YR5/3. 器肉:にぶい黄橙10YR6/3.	礫・粗砂:白色粒. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ヨコナデ. 内面:剥落.	幅広突帯.沈線(／＼).
168 SK4 A	笹貫式	壺	胴部	外面:にぶい黄褐10YR5/3. 内面:にぶい黄橙10YR6/3. 器肉:灰白10YR8/2・にぶい橙7.5YR7/4.	礫:灰色粒・白色粒. 粗砂:角閃石. 砂:角閃石・黒雲母・黒色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	外面:ミガキ(＼)・ヨコナデ. スス付着. 内面:ハケ(／)・ナデ(＼)・ユビオサエ. ハケの打ち込み痕あり.	幅広突帯.沈線(／＼). 胴最大径(42.0cm).
169 SK4 A (埋土1)	古墳	壺	胴部	外面:浅黄橙10YR8/4. 内面:灰黄2.5Y6/2. 器肉:浅黄橙に類似10YR8/3.	礫:石英. 粗砂:角閃石・石英. 砂:石英・角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ヨコナデ(—)(｜). 内面:ナデ(—)(／).	三角突帯1条.刻目(＼)中に布目圧痕. 刻目は上下2方向から施す.
170 SK4 A (埋土2)	弥生か古墳	高杯	脚部	外面:明赤褐2.5YR5/6. 内面:にぶい褐7.5YR5/4. 器肉:にぶい黄橙10YR6/3.	砂:白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ヨコナデ. 内面:ハケ(—)→ヨコナデ.	

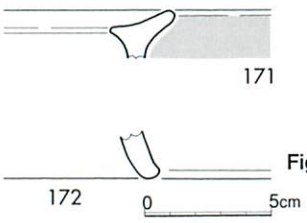


Fig.62 A地点SK5出土遺物(S=1/3)

PL.70 A地点SK5出土遺物

SK4内の遺物は，弥生時代中期の入来Ⅱ式甕(156・157)，中九州系黒髪式甕(158)などがあり，古墳時代前半期の東原式甕(161・162)，後半期の笹貫式甕(163・165)，笹貫式壺(167・168)などがある。

また，石器としては，赤色の頁岩製の石材剥片があるが，これは4b層出土類似資料(153)と同様に，磨製石鏃の未製品である可能性がある。軽石製品(155)は，両面に幅1cm前後，深さ約0.4-0.6cmの溝が掘り込まれたものであるが，用途不明である。

SK5からは，黒髪式(171)と中空脚台(172)が出土し，ピットからは，古墳時代後半期笹貫式甕(173)や，甕の中空脚台が出土している(174)。

Tab.32 A地点SK5出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	砂粒の多さ	調整	備考
171 SK5 A	黒髪式	甕	口縁部	内・外面:淡黄2.5Y8/3. 器肉:黄灰2.5Y4/1.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・赤色粒.	4	内・外面:ヨコナデ.	外面:赤色顔料塗布.
172 SK5 A	弥生か古墳	甕	脚台	外面:橙7.5YR6/6. 内面・器肉:にぶい黄褐10YR5/4.	粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ(｜)・端部はヨコナデ. 内面:ハケ(—)→ヨコナデ.	

土坑(SK7)

SK7は，平面形が馬蹄形状の凹地で，埋土が円形に巡っている。検出面からの深さは，10-30cmで比較的浅い。埋土は，中央部から外周部というように，変化しており，外周部に向かって下層になる。しかし，中央部にも地山の黄色砂層が上がり，土層の逆転現象がみられる。このような形状と埋土の土坑は，風倒木の可能性が考えられる。風倒木の場合，倒木の根側が，土層が大きく逆転していることが考えられるから，倒木方向は，南東方向であることが推定できる。

遺物の出土は，ほとんどない。

PL.71 SK7断面

PL.72 A地点SK7検出(一部既掘)

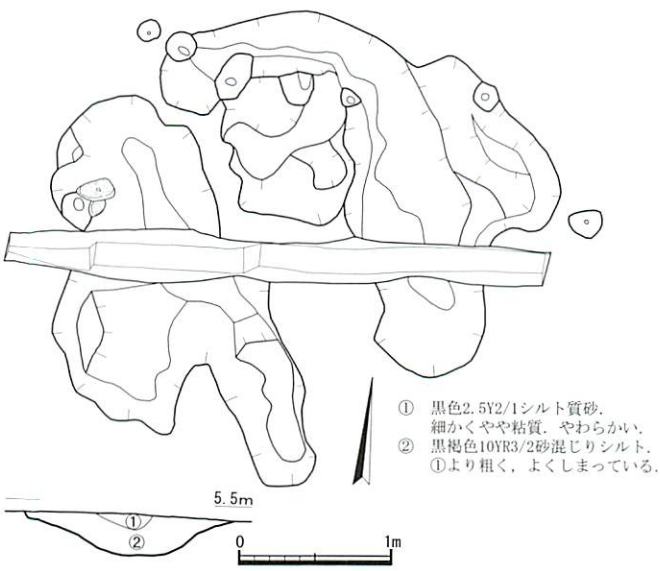


Fig.63 A地点SK7(S=1/50)

PL.73 A地点SK7
完掘

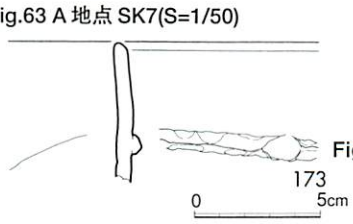
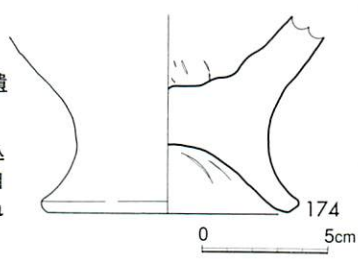


Fig.64 A地点ピット18出土遺物(S=1/3)

PL.74 A地点ピット18出土遺物

Fig.65 A地点ピット68出土遺物(S=1/3)

内底面に打ち込み痕とよぶ刷毛目の始点が観察される．



PL.75 A地点ピット68出土遺物

Tab.33 A地点ピット出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	砂粒の多さ	調整	備考
173 Pit18 A	笹貫式	甕	口縁部	内・外面:浅黄橙10YR8/3．器肉:灰白10YR7/1．	粗砂:角閃石．砂:角閃石・石英．細砂:黒色粒・透明粒．	4	内・外面:ナデ(—)．	絡縄突帯1条．
174 Pit68 A	古墳	甕	脚台	外面・内面:橙7.5YR6/6．器肉:浅黄橙10YR8/3	粗砂・砂:角閃石・石英・白色粒 細砂:黒色粒・白色粒．	4	外面:工具によるナデ(—)．内面:ハケ・ハケの打ち込み痕あり．	底径(9.6cm)．

Tab.34 A･B 地点ピット深さ一覧

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	検出レベル(cm)	最深レベル(cm)	深さ (cm)
A-1	35	26	537.7	520.2	17.5
A-2	18	12	529.6	514.5	15.1
A-3	18	14	540.9	529.5	11.4
A-4	14		537.2	525.2	12
A-5	24	22	542.3	528.4	13.9
A-6	20	16	536.4	509.6	26.8
A-7	16	14	541.9	513.6	28.3
A-8	25	22	542.5	518.9	23.6
A-9	18	14	547.7	535	12.7
A-10	16	13	540.2	533.6	6.6
A-11	18	12	545.9	536	9.9
A-12	20	17	547.5	533.2	14.3
A-13	27	24	551.2	530.9	20.3
A-14	28	24	557.7	526.5	31.2
A-15	28	20	562.4	536	26.4
A-16	31	25	563.2	542.2	21
A-17	22	24	564.8	539.9	24.9
A-18	24		562.7	541	21.7
A-19	24	16	564.6	556	8.6
A-20	14		565.2	553.5	11.7
A-21	24		564.9	553.8	11.1
A-22	20	18			
A-23	26	21	567.2	557.8	9.4
A-24	24	20	564.1	542.7	21.4
A-25	28	22	578.7	553.6	25.1
A-26	26	22	556	543.7	12.3
A-27	20	18	555.9	548.2	7.7
A-28	24		549.5	529.4	20.1
A-29	19	18	551.6	528.5	23.1
A-30	22	19	565.6	552.2	13.4
A-31	24	18	563.2	552.4	10.8
A-32	24	21	566.3	550	16.3
A-33	21		563.8	550.1	13.7
A-34	24		563.4	536.8	26.6
A-35	22		564.1	543.9	20.2
A-36	38	28	566.7	542.5	24.2
A-37	20		567.6	556.9	10.7
A-38	21		568.6	546.9	21.7
A-39	23		565.8	543.8	22
A-40	50	42	566.1	553.3	12.8
A-41	24	19	569	548.7	20.3
A-42	26	20	566.4	556.5	9.9
A-43	16	15	566	556.4	9.6
A-44	24	20	566.6	561.1	5.5
A-45	24	22	565.9	540.8	25.1
A-46	28	26	569.6	545.2	24.4
A-47	18	16	570.1	548.6	21.5
A-48	24+α	22	567	550	17
A-49	20	16	568.4	554.6	13.8
A-50	24		560.6	537.5	23.1
A-51	26	18	561.4	543.4	18
A-52	22	19	551.2	533.4	17.8
A-53	21	16	545.7	531.3	14.4
A-54	28	24	545	517.7	27.3
A-55	20		542.8	528.8	14
A-56	22	15	542.9	520.7	22.2
A-57	16		544	535.2	8.8
A-58	24	22	541.3	516.9	24.4
A-59	24	18	542.4	527.4	15
A-60	28	20	545.5	533.5	12
A-61	24	16	541.9	524	17.9
A-62	26	22	558.4	545.5	12.9
A-63	24	24	562.9	543.4	19.5
A-64	24	20	563.4	551.2	12.2
A-65	24		565.2	541.9	23.3
A-66	30		566	529.2	36.8
A-67	24	22	564.3	559.3	5
A-68	16		557.2	548.8	8.4
A-69	24	18	568.3	550.5	17.8
A-70	20		564	556	8
A-72	24	16	564.5	557.6	6.9
A-73	16		563.7	554.8	8.9
A-74	28	24	563.3	535.9	27.4
A-75	28	22	549.4	531.7	17.7
A-76	30	24	549	533.9	15.1
A-77	22	16	545.5	535.8	9.7
A-78	17		550.5	536	14.5
A-79	24	12	546.4	531.8	14.6
A-80	15		535.1	511.2	23.9
A-81	22	16	550.8	543.3	7.5
A-82	18	14	540.1	528.2	11.9
A-83	22		563.5	553.4	10.1
A-84	20	14	565.2	545.8	19.4
A-85	22	20	563.8	553.4	10.4
A-86	16		566.9	559.2	7.7
A-87	20	16	566.4	555.4	11
A-88	14		566.3	555.2	11.1
A-89	14		565.5	555.7	9.8
A-90	30	24	565.8	561.2	4.6
A-91	20	14			
A-92	14		555.4	539.7	15.7
A-93	17	14	542.8	526.8	16
A-94	18	16	536.5	523.2	13.3
A-95	22	18	536	548	-12
A-96	24	22	542.3	518	24.3
A-97	22	18	566.3	556.7	9.6
A-98	24	16	565.2	556.9	8.3
A-99	6+α				
A-100	26	24	564	543.8	20.2
A-101	28+α	22	565.3	558	7.3
A-103	42	18	563.1	553.7	9.4
A-104	24	19	540.6	528.1	12.5
A-105	19		538.5	525.6	12.9
A-106	15		540.2	535	5.2
A-107	14	12	542.8	526.8	16
A-108	22	13	553.2	546.5	6.7
A-109	26	14	558.7	545.4	13.3
A-110	24	16	562.4	544.8	17.6
A-111	32	27	561.7	541.6	20.1
A-112	24	15	565.7	538.9	26.8
A-113	24	21	562.1	537.5	24.6
A-114	19.5	17	566.2	557.3	8.9
A-115	29.5	20.5	565.7	544.3	21.4
A-116	18	17	558.6	550.1	8.5
A-117	25	19	566.5	548.8	17.7
B-1	26	20	565.9	551	14.9
B-2	15		563.5	552.8	10.7
B-3	21	18	564.8	552.2	12.6
B-4	23	18	562	540.6	21.4
B-5	18	14	562.7	547.9	14.8
B-6	28	23	563.3	532.3	31
B-7	20	18+α	564	546.9	17.1
B-8	16		563.3	549	14.3
B-9	28	23	562.6	531.2	31.4
B-10	23	20	564.2	533.5	30.7
B-11	24	17	566.2	543	23.2
B-12	19	14	565.7	548.5	17.2
B-13	23	16	565.7	547.6	18.1
B-14	25	21	560.4	540	20.4
B-15	18		563.5	542.8	20.7
B-16	18		565.4	540.6	24.8
B-17	27	23	560.6	546.7	13.9
B-18	24	20	568	553.4	14.6
B-19	22	16	566.9	558.8	8.1
B-20	24	18	566.2	555.1	11.1
B-21	24	12	566.2	552.7	13.5
B-22	26	18	564	543.5	20.5
B-23	18		564.4	555.5	8.9
B-24	40	32	564.6	556.5	8.1
B-25	28	18	563.7	554.5	9.2
B-26	26	20	564.5	560	4.5
B-27	28	16	566.2	538.4	27.8
B-28	30		563.4	557.4	6
B-29	34	30	562.5	539.3	23.2
B-30	22	20	562.2	542.9	19.3
B-31	38	28	554.6	543.9	10.7
B-32	24	21	554.5	543.9	10.6
B-33	40	20+α	554	543.4	10.6
B-34	21	16	558.9	556	2.9
B-35	20	13	560.5	549.8	10.7
B-36	68	44	563.9	543.9	20
B-38	14+α	-	554.5	-	-
B-39	24+α	8+α	561.7	549.5	12.2
B-40	50+α	36+α	559.5	531.8	27.7
B-41	16	12+α	561.4	535.6	25.8
B-42	14+α	-	560.3	554.2	6.1
B-43	32	18	564.2	543.6	20.6
B-44	16	14	563.8	551.2	12.6
B-45	24	14	562.6	540.1	22.5
B-46	18	10	563	541.7	21.3
B-47	16	10	562.6	553.6	9
B-48	19	16	565.3	545	20.3
B-50	40+α	48	559.6	537.3	22.3
B-51	32+α	-	566	-	-

B地点には,3条の溝状遺構(SK5-7)と土坑1基(SK11),そして，多数のピット群が確認できる。

溝状遺構(SD5-7)

溝状遺構は全て直線的に伸びている。SD5は，北西-南東方向で，検出された長さは約8.5m，検出面からの深さ20-25cmである。SD6は，北東-南西方向で，長さ約6.7m，深さ20-25cm,SD7は,東西方向で,長さ約4.2m･深さ10-20cmで,SD6に切られる関係にある。

これらの溝の断面形状はU字形であり，共通している。また，検出幅も50-80cm間にあって類似しており,ある程度の同時性を推し量ることができる。埋土は単純であり，埋土の上部は4b層，下部は，地山5層の黄色粗砂層と4b層土の混土である。3条ともに特に著しい傾斜もなく,水流の痕跡も認められない。SD6からは(Fig.68),古墳時代前半期の特徴をもつ甕口縁部(175)と，古墳時代後半期の高坏(177)，古墳時代の壺が出土しており(176)，帰属時期は判然としない。溝内遺物はほとんどが小破片のみであり,遺物が意図的に廃棄されているような様子も認められない。

これらの特徴から，この3条の溝状遺構は,何らかの区画溝であると考える。しかし，住居などを囲うなどといった状況も判断できず,ピット群との有機的関係性も分からない。

土坑(SK11)

検出面から判断して，推定径約0.9-2.0cmの長楕円形状を呈した土坑である。性格は不明であるが,A･B地点全体の遺構配置状況(Fig.57)からみると，A地点住居跡(SK4)に伴うと考えられるSK5･6の配置と，住居跡に近いという関連性があるようにも見受けられる。埋土は，4b層土に類似しており，黒褐色5YR2/2のシルト質砂である。

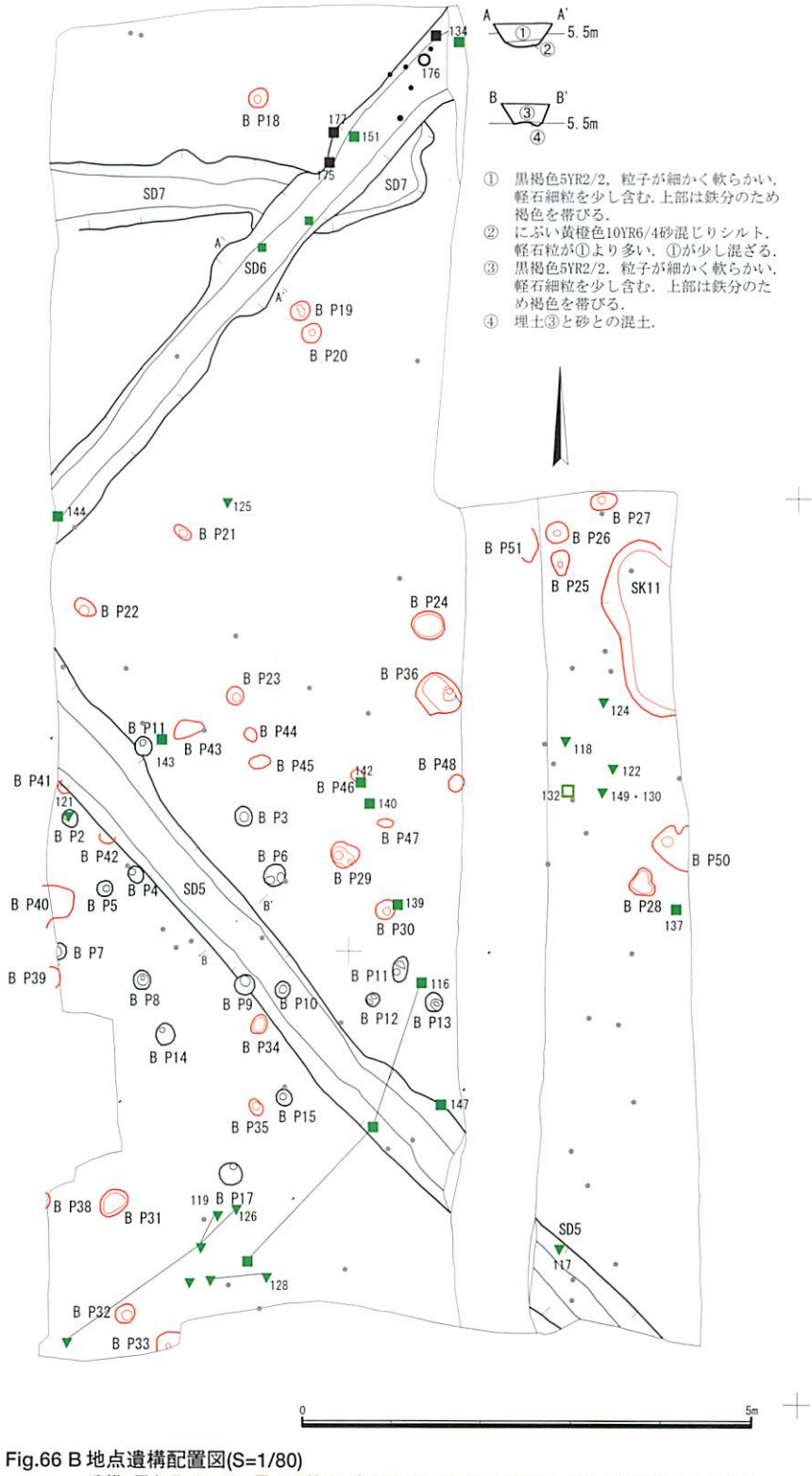


Fig.66 B地点遺構配置図(S=1/80)

遺構: 黒色ラインは5層上面検出,赤色ラインはより下位のレベルより検出されたもの.

遺物: 黒;遺構出土,赤;2･3層出土,緑;4･5層出土.

■;古墳時代在地系土器,□;古墳時代外来系,▼;弥生時代在地系,△;弥生時代外来系,●;弥生時代か古墳時代土器,•;その他無文胴部など,十;石器

PL.76 B 地点 SD5 検出

PL.77 B 地点 SD5 断面

PL.78 B 地点 SD5 完掘

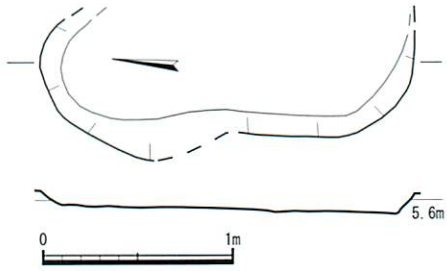


Fig.67 B 地点 SK11 断面(S=1/40)

PL.79 B 地点 SD6 完掘

PL.80 B 地点 SD5･6･7 完掘

PL.81 B 地点 SD7 完掘

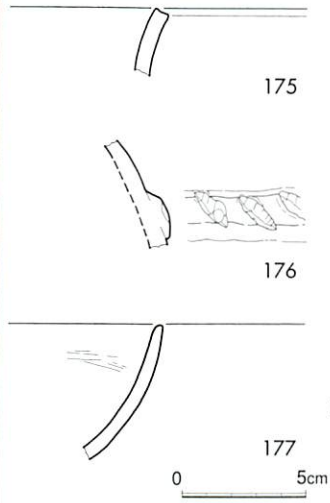


Fig.68 B 地点 SD6 出土遺物(S=1/3)

PL.82 B 地点 SD6 出土遺物

Tab.35 B 地点 SD6 出土土器観察

No.	層	地点	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
175	SD6 B	古墳 (埋土1)		甕	口縁部	外面:暗灰黄2.5Y5/2. 内面:にぶい黄橙10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:赤色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	内・外面・口唇部:ヨコナデ.	
176	SD6 B	古墳		壺	胴部	外面:にぶい黄褐10yr5/4. 内面:明褐7.5YR5/6. 器肉:にぶい橙7.5YR7/4.	礫:石英. 粗砂:角閃石・石英・白色粒・赤色粒. 砂:石英・黒色粒.	3	外面:ヨコナデ. 内面:剥落.	幅広突帯1条. ハケによる刻目(＼).
177	SD6 B	古墳		高杯	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面・器肉:浅黄橙に類似10YR8/4.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ヨコナデ・ナデ(＼). 内面:ヨコナデ・細かいハケ(／)→ナデ.	

5-8.A・B 地点 5 層出土遺物(Fig.69・70,Tab.36・37, PL.83・84)

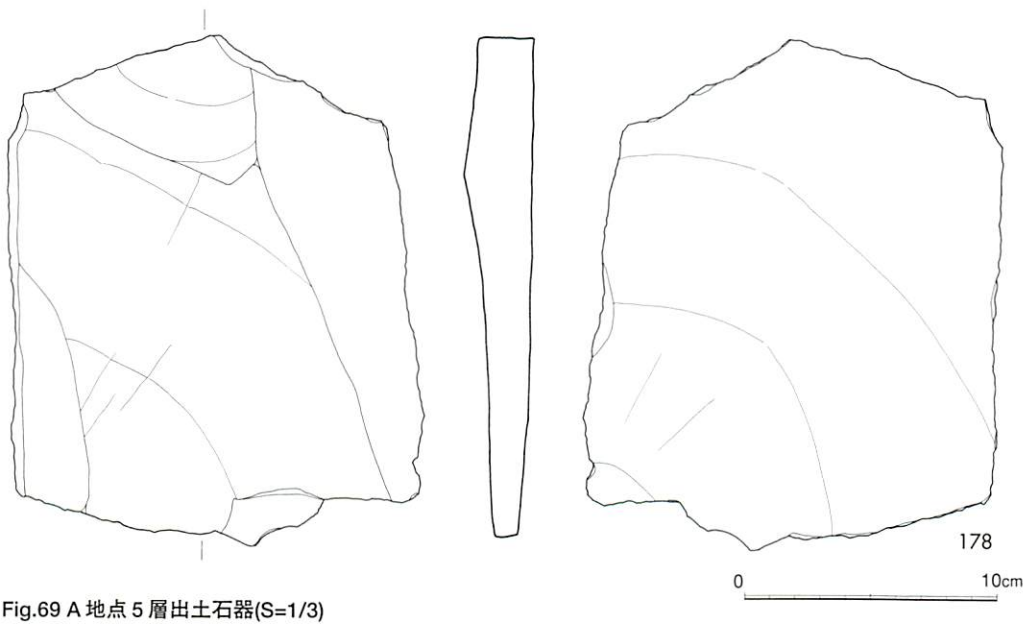


Fig.69 A 地点 5 層出土石器(S=1/3)

Tab.36 A 地点 5 層出土石器観察

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
178	5	輝石安山岩	19.6	15.7	2.7	1085	両側面と上面に剥離面あり.

5 層出土遺物はわずかであり, 4b 層からの落ち込みや紛れ込みによるものと考えられる。

(178)は, A地点出土の, 輝石安山岩製の石材と考えられる資料である。裏面の左下端に打点をもつ。

(179)は, 口唇部を面取りするという, 古墳時代前半期ごろの特徴をもつ甕口縁部である。

PL.83 A地点5層
出土石器

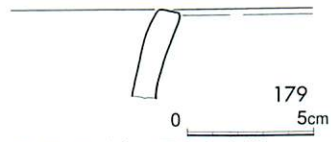


Fig.70 B 地点 5 層出土土器
(S=1/3)
口唇部を面取りするといった古墳時代前半期の特徴をもつ.

PL.84 B 地点 5 層
出土土器

Tab.37 B 地点 5 層出土土器

No. 地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
179	5 B	古墳	甕	口縁部	外面:黄褐に類似2.5Y5/3. 内面:にぶい黄 2.5Y6/3. 器肉:橙7.5YR7/6.	粗砂・砂:石英. 細砂:透明粒.	2	内・外面・口唇部:ヨコナデ.	

6. まとめ

A・B地点の調査では，5層上面において，住居跡１基と，溝状遺構３条，性格不明土坑１基，多数のピット群が検出された。これらの有機的関係性は，明らかにできなかった。また，正確な時期の判断が困難であるが，出土遺物の量的な把握から(Tab.38)，古墳時代後半期ごろの時期が推定された。しかし，遺構内や4層包含層中に弥生土器や古墳時代前期ごろの遺物が混じるため，近隣には，それらの良好な包含層の存在も推定される。4a-3b層は，タケなどが検出されており，キビなどの検出もあるとされる。この時期の稲作は，畑作が想定されている(付編２参照)。

また，正確な時期を判断することはできないが，4層上面において，溝状遺構３条と性格不明土坑２基が検出されている。これらの溝は，粗砂や小礫を含み，水の流れていた様子が，埋土から確認される。また，平面形態の凹凸もまた，それを支持するものである。しかし，これが人工的なものであるか，自然のものであるかは，遺構そのものの形態からは判断できなかった。これらを覆う3a層は，土壌プラント・オパール分析によって，多量のイネが検出されており，また，ヨシの検出から，湿潤な環境が復元され，水田の可能性が示唆されている(付編２参照)。３層土と溝状遺構の埋土は異なるが，水田へと取水する溝の存在も否定できない。

２層土は，中近世ごろの時期が与えられるが，プラント・オパール分析によれば，イネの検出が最も多い。

遺物は，古墳時代後半期を中心とし，この地点がその時期の活動が主となっている様子をうかがい知ることができる。ほかにも，弥生時代中期，弥生時代終末期～古墳時代前半期ごろの遺物の出土もみられる。

弥生時代中期

この時期の遺構は確認されていない。古墳時代後半期の遺物が中心となる4層に混在している状態である。大きくは，弥生時代中期前半（新）と中期後半（古）の二時期に分けられそうである。入来Ⅱ式段階の土器は，甕，大甕，小型甕などがある。壷は出土していない。いわゆる「一の宮式」と呼ばれる甕も確認されており，この口縁部に類するものも少なくない。土器胎土の肉眼観察によると，大甕などには大粒の黒雲母が混入しており，他地域からの持ち込み品である可能性が示唆される。また，搬入品と見られる須玖式（甕棺・壷？），黒髪式（甕）も認められ，地域間交流の一端が窺える。本遺跡において確認されたタイプの甕棺は，近年散発的に出土しており，金峰町下小路遺跡[9]，吹上町入来遺跡[10]，山川町成川遺跡[11]，鹿児島市北麓遺跡[12]，万之瀬川採集品[13]などで確認されている。

打製石鏃や剥片石器も出土しているが，本来はこの時期に帰属するものであると考えられる。

弥生時代終末期～古墳時代前半期

この時期の遺構も判然としない。中津野式の甕・壷・台付鉢のほかに，東原式の甕・壷などが見られる。ほか

にも古式土師器とよばれる布留式並行期の土器も一個体確認されている。個体数としては，非常に少ない。

布留式並行の甕は，畿内布留式そのものではなく，やや変容しているように見える。しかし，南九州の成川式土器様式と比較すると，薄手であり，器面調整も整調である。また，暗文を施すという観点からも，南部九州産ではなく，持ち込み品である可能性が高い。

古墳時代後半期

5層上面で検出された遺構は，住居跡の配置と，互いに切りあっている直線的な溝の配置には，特に有意な関係性を読み取ることはできなかった。

本調査地点の北東部に位置する釘田第1地点[14]や，総合教育研究棟(総合教育研究棟[文系総合研究棟]:1999-2000年度調査；未報告)[15]，また北西部に位置する理学部周辺[16]の，住居跡が幾重にも切り合っている状況とは異なっている。居住域の占地する密度の違いは，一般に，生産域と居住域の違いなど，環境的な状況によるものと判断されるが，本調査地点がそれに対応するか，結論は3次調査を含めた次号以降に譲りたい。いずれにせよ，本調査地点は，古墳時代後半期ごろには，居住域としてはあまり利用されていない土地には間違いない。

A地点における笹貫式段階と考えられる柄鏡型の住居跡（SK4）は，比較的珍しい例である。いわゆるベッド状遺構と呼ばれるステップが竪穴側面の掘り込みに沿って作り出されており，その上面には深い土坑が認められ，形態とその深さから判断すれば，主柱穴であると考えられ，未発掘部分にも同様に存在するとすれば，4本の主柱建物であるかもしれない。竪穴の外側には，いくつかの柱穴が存在するが，これが支柱であるのかは判断ができなかった。

床面・ベッド状遺構上にも壁溝が認められる。SK4に近接する浅い土坑SK5・6は，SK4と切り合うことはなく，独立している。また，入口と考えられる掘り込み突出部と壁溝，そして屋根の想定からは，土堤の存在とSK5・6の存在が関わっているものと判断し，土堤をつくる際の掘り込みであるか，住居廃絶の際の掘穴であると判断した。

住居床面の製作工程は，まず粗く掘り込み（凹凸のまま），その上に貼り床をしてフラットな床面を作り出し，その上で地床炉を設けている。また，炉は，住居中央部に位置し，3度のつくりかえがみられるが，鹿児島大学構内遺跡郡元団地に顕著な埋設土器は残されておらず，現状では，設置していたのかは，明らかにできなかった。

直裁的に考えるならば，南東部に位置する掘り込みの突出部が住居入口として認識できるが，その場合，南東部にむけて入口をつくりだしていると考えられる。大学構内遺跡の他地点の住居跡は方形が多く，入口も判然としないものがほとんどであるが，今回の調査の，A地点SK4の入口の方向を根拠とした場合，方形住居跡もまた，そのほとんどが南東部に一辺をもち，住居軸にはほとんど大きなズレはない。したがって，可能性として，方形住居の入口もまた，南東部側にあるように思われる。

中摩浩太郎氏[17]の一連の研究では，柄鏡形住居跡（ⅡA）は，東原式段階（古墳時代前期）から辻堂原式段階（古墳時代中期）にかけての存在が知られているが，笹貫式には認識されていない。しかし，ⅡBγ，ⅥBγタイプの住居跡は，方形掘り込みのなかに柄鏡形の掘り込みを持つものであるが，ⅥBγタイプは笹貫式段階に認められている。本調査区の柄鏡形住居跡（A地点SK4）の帰属時期は笹貫式段階と考えられるが，ⅡAの最終段階のタイプと捉えるか，ⅥBγタイプの地域的な変異であると捉えるか，現在，結論は見出せない。郡元団地N～T-7～10区(教育学部運動場)の発掘調査[18]でも，類似した住居跡が検出されており，東原式～笠貫式段階の土器が出土している。

SK4付近の遺物接合状況をみると，SK4以外とはほとんど接合せず，掘り込み内部と上層の4b層とのみ接合する（〔98〕は，住居内出土遺物ではない）。これは，住居廃棄の際に，土堤などを破壊し，一気に埋め戻した結果ではないかと判断する。4b層包含層そのものの遺物は，最大15mは移動していることから判断すると(Fig.72)，SK4埋土中の遺物出土状況と接合状況は，単なる流れ込みによるものではない可能性が高い。ちなみに比較的フラットな層である2・3層の遺物もまた，大きく移動している様子が分かる(Fig.71)。

B地点のSD5-7は，直線的な溝であるが，遺物の出土量も少なく，また，水の流れている様子も認められない。したがって，何らかの区画をする溝であると判断した。

A・B地点における遺物のほとんどが，この時期に帰属するものである。甕，壷，大壷，鉢，高坏，坩が認められる。しかしながら，これらは小さな破片が多い。

土器は，特徴の明確なもののほとんどが笹貫式土器であり，甕は，直状あるいは内湾気味の甕で，一条の突帯を貼付するものである。突帯には貼り付けの際の指頭圧痕が明瞭に残っている。壷は，いわゆる幅広突帯を胴上半部に貼付するもので，突帯の沈線文などによる加飾は，バリエーションがある。しかし，今回得られた資料は，沈線文によるもののみで，竹管による刺突文などは認められなかった。高坏は，坏部が碗状になるものが認められ，坩は平底資料が得られている。どちらも古墳時代後半期の年代が与えられるものである。

註

1)上村俊雄・金子千穂枝 1986「第Ⅲ章 鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以前の調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅰ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2)1995年，埋蔵文化財調査室の中村が，図書館職員よりコンテナ5箱分の遺物を譲り受けた。これは，1971年の図書館工事の際に出土したものであったという。職員の名前は記録されていないが，埋蔵文化財の保存を意識し，大切に保管していた同職員には敬意を表したい。同遺物は，現在図書館に保管されている。

3)本田道輝 1997「南部九州における脚台付甕の底部成形について」「人類史研究」第9号 人類史研究会

4)中村直子 2003「2 郡元団地M・N-4・5(サークル棟建設予定地)における発掘調査報告」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」17 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

5)河口貞徳 1951「一の宮遺蹟報告」「考古学雑誌」第37巻第4号 日本考古学会

6)出口浩ほか編 1996「北麓遺跡」鹿児島市教育委員会

7)本田道輝編 1986「鹿児島大学郡元団地内遺跡(J・7地点)」鹿児島大学理学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室

8)村上恭通・山村芳貴 2003「農耕具」「考古資料大観」第7巻 小学館

9)河口貞徳ほか 1976「下小路遺跡」「鹿児島考古」第11号 鹿児島県考古学会

10)河口貞徳 1976「入来遺跡」「鹿児島考古」第11号 鹿児島県考古学会

11)出口浩ほか編 1983「成川遺跡」鹿児島県教育委員会

12)6)に同じ

13)本田道輝 1996「入来遺跡(日置郡吹上町)採集の弥生土器とその位置づけ」「大河」第6号 大河同人

14)1)に同じ

15)中村直子 2001「鹿児島大学構内遺跡郡元団地I・J・K-3～5区発掘調査概要」「平成13年度鹿児島県考古学会研究発要旨」

16)松永幸男・坪根伸也 1986「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」Ⅰ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
本田道輝編 1986「鹿児島大学郡元団地内遺跡(J・7地点)」鹿児島大学理学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室
本年報の第1章「1 調査概要」の2001-2郡元団地J-7・8区(理学部改修地)参照

17)中摩浩太郎 1999「南部九州古墳時代の竪穴住居類型の変異に関する一考察」「人類史研究」第11号 人類史研究会

18)中村直子 2001「付編 郡元団地M～T-7～10区(運動場)発掘調査報告」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」15 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

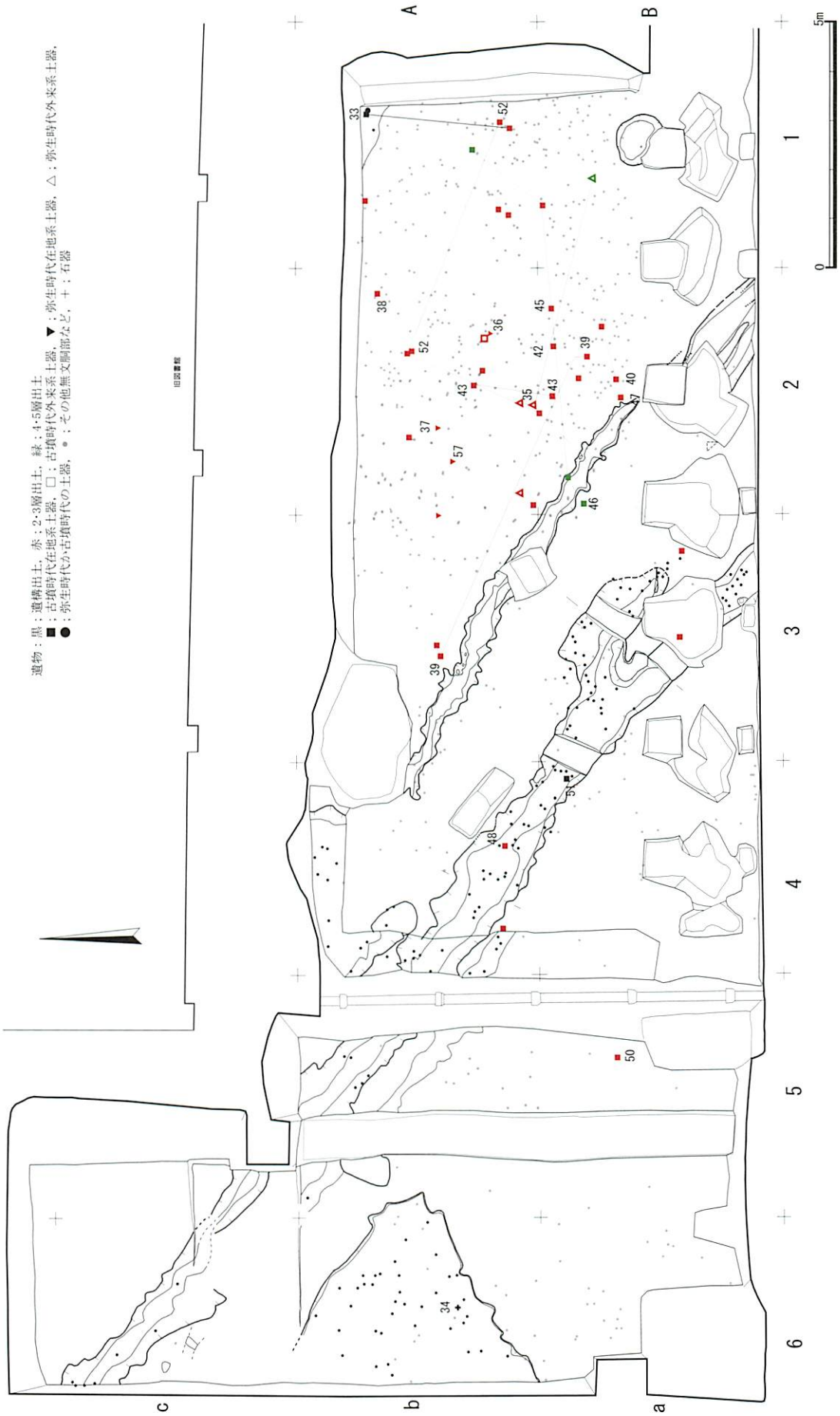


Fig.71 A･B 地点 2-3 層遺物出土状況と接合状況(S=1/120)

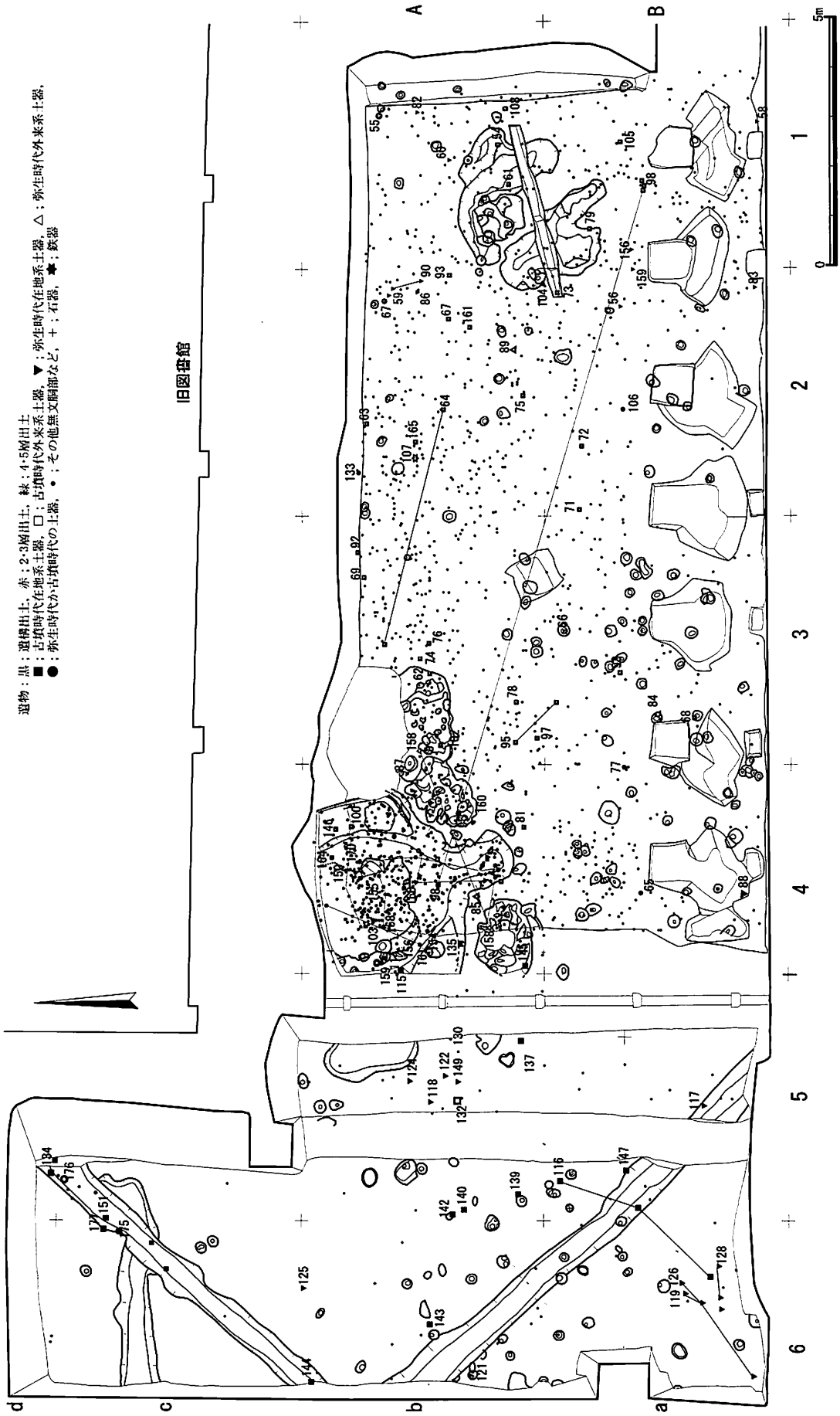


Fig.72 A・B地点4-5層遺物出土状況と接合状況(S=1/120)

Tab.38 A・B 地点遺物出土状況

時期区分			弥生時代中期					古墳時代									中世		近世								計
			入来Ⅱ式土器	一の宮式土器	須玖式土器	黒髪式土器	不明	中津野式土器	東原式土器	笹貫式土器	不明	古式土師器系	須恵器	弥生か古墳	不明	青磁・白磁	備前	薩摩	染付	土錘	石器	鉄器	軽石製品	古銭	
92-4		1層									10			1				4	1						16
		2a層								1	2			1		1	1	4	6	1				1	18
		2b層									6			3	1	1			4		1				16
		3層			1		2				69			1				1							74
		4層									6														6
		4a層	3				5			4	104										1				117
		4b層	4		1	1	11			3	58			8							1	1			88
		5層																			1				1
		pit 18								1	1														2
		pit 65									1														1
		pit 68									1														1
		SD 1									28														28
		SD 2									1			1											2
		SK 2									1														1
		SK 4	2			1	1	1	3	1	28			3							1		1		42
		SK 5				1								1											2
		不明					1			1	2														4
93-1	表採								1		2														3
	A	不明	1																						1
	A	pit 116												1											1
	A	SK 4									8			1											9
	B	不明									1														1
	B	1層									1			1				2							4
	B	2層											2			3	1	7	3						16
	B	3b層									3														3
	B	4層								1	33														34
	B	4a層					1				24														25
	B	4b層	3	1			14	1		1	105	1		1							1				128
	B	5層									1														1
	B	SD 2																			1				1
	B	SD 3									1														1
	B	SD 5					1							1											2
	B	SD 6									3			1											4
	B	SK 2									1										1				2
計			13	1	2	3	36	2	4	13	501	1	2	25	1	5		18	14	1	8	1	1	1	653

※ 無文胴部は除く.

付編２　郡元団地L-6区(中央図書館増築地Ａ地点北壁)におけるプラント・オパール分析結果報告

宮崎大学　　藤原宏志

先般　当該遺跡で採取した土壌試料のプラント・オパール定量分析結果が出ましたので、下記のとおり報告致します。

記

プラント・オパール定量分析結果

同上　図

1. 成川式土器包含層(3-4層)から、多量のイネ(Oryza sativa) が検出された。検出量からみて、この地でイネが生産された可能性が高いと判断される。
2. 3層ではヨシ (Phragmites) が検出されており、湿潤な堆積環境であったと推定されることから、水田稲作が営まれていた可能性が大きい。3bおよび4a層はタケが多く、比較的乾燥した堆積環境であったと推定され、キビ族植物も検出されていることも合わせ考えると、この時代の稲作は畑作を想定するのが自然と思われる。
3. 3a-4a層で検出されたイネのプラント・オパール総量から、これらの時代に生産されたイネ籾総量 (10aあたり) を算出すると、約33.5t/10aとなる。当時の年間イネ籾生産量を約100kg/10aとすると約330年間ほど稲作が行われたと推定される (ただし、当時の稲作が穂刈であったと仮定して)。

Tab.39 プラント・オパール定量分析結果

鹿児島大学　遺跡における
プラント・オパール定量分析結果

宮崎大学農学部　農作業管理学研究室

sampling block [L-6]
sampling date (2/17'93)

層名	植物体乾重 (t／10a.cm) イネ (O.sati.)	イネ籾 (rice g.)	キビ族 (Pani.)	キビ族種実 (Pani.seed)	ヨシ (Phrag.)	タケ亜科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andoro.)
2	19.503	6.833	25.290	11.484	0.000	0.796	1.799
3a	6.715	2.353	2.144	0.973	2.435	0.337	1.089
3b	4.271	1.496	13.292	6.036	0.000	2.615	2.477
4a -1	1.535	0.538	12.743	5.787	0.000	3.593	1.727
4a -2	3.015	1.056	26.808	12.173	0.000	1.758	1.453
4b -1	0.314	0.110	5.207	2.364	0.000	0.819	1.985
4b -2	0.000	0.000	9.286	4.217	0.000	0.183	1.101
5	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.087	0.000

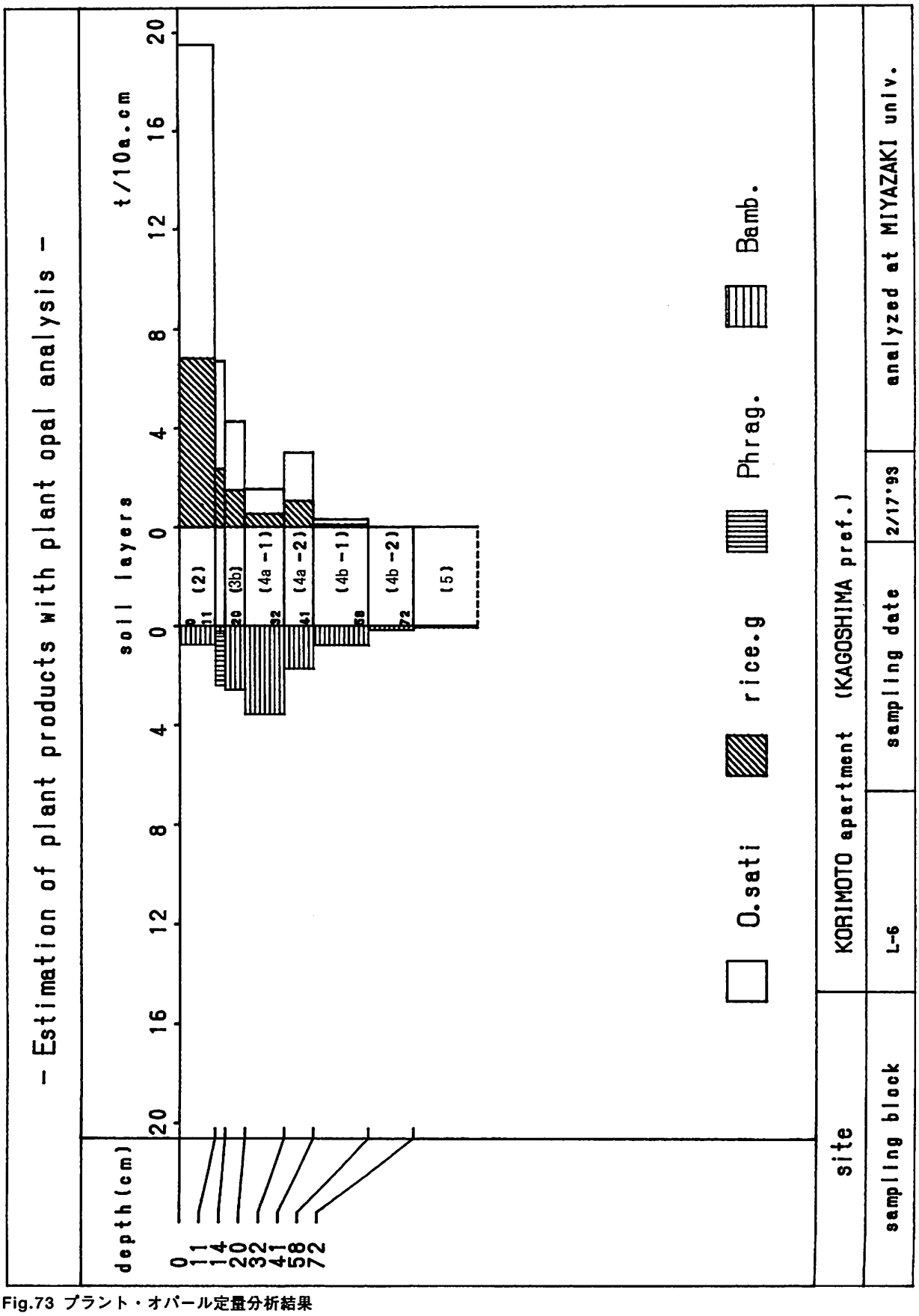


Fig.73 プラント・オパール定量分析結果

Tab.40 生産量推定結果

－プラント・オパール分析による生産量推定結果－　　鹿児島大学　　[L-6](2/17'93 sampling)

層名	深さ (cm)	層厚 (cm)	GB数／g	植物名	PO／GB	PO数／g	仮比重	PO数／cc	地上部乾重 (t/10a.cm)	種実重 (t/10a.cm)	種実生産総量 (t/10a)
[2]											
	0	11	301228	イネ	32 / 186	51824	1.280	66335	19.503	6.833	75.158
				キビ族	10	16195		20730	10.000	11.484	126.327
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	8	12956		16584	0.796		
				ススキ	7	11337		14511	1.799		
[3a]											
	11	3	307881	イネ	13 / 191	20955	1.090	22841	6.715	2.353	7.058
				キビ族	1	1612		1757	1.000	0.973	2.920
				ヨシ	2	3224		3514	2.435		
				タケ	4	6448		7028	0.337		
				ススキ	5	8060		8785	1.089		
[3b]											
	14	6	312318	イネ	8 / 172	14526	1.000	14526	4.271	1.496	8.977
				キビ族	6	10895		10895	6.000	6.036	36.214
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	30	54474		54474	2.615		
				ススキ	11	19974		19974	2.477		
[4a-1]											
	20	12	318039	イネ	3 / 190	5022	1.040	5223	1.535	0.538	6.455
				キビ族	6	10043		10445	6.000	5.787	69.439
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	43	71977		74856	3.593		
				ススキ	8	13391		13927	1.727		
[4a-2]											
	32	9	305579	イネ	7 / 194	11026	0.930	10254	3.015	1.056	9.506
				キビ族	15	23627		21973	15.000	12.173	109.559
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	25	39379		36622	1.758		
				ススキ	8	12601		11719	1.453		
[4b-1]											
	41	17	308712	イネ	1 / 217	1423	0.750	1067	0.314	0.110	1.868
				キビ族	4	5691		4268	4.000	2.364	40.195
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	16	22762		17072	0.819		
				ススキ	15	21340		16005	1.985		
[4b-2]											
	58	14	301831	イネ	0 / 207	0	0.870	0	0.000	0.000	0.000
				キビ族	6	8749		7611	6.000	4.217	59.034
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	3	4374		3806	0.183		
				ススキ	7	10207		8880	1.101		
[5]											
	72	----	302698	イネ	0 / 177	0	1.060	0	0.000	0.000	-------
				キビ族	0	0		0	0.000	0.000	-------
				ヨシ	0	0		0	0.000		
				タケ	1	1710		1813	0.087		
				ススキ	0	0		0	0.000		

SUMMARY

This is the report of the archaeological excavations and surveys in Kagoshima University Korimoto Campus conducted by Kagoshima University Research Center for Archaeology in the fiscal year 2002 from April 2002 to March 2003. This volume also includes the report of the excavation, and plant opal analysis of samples from Area L-6 carried in 1992 to 1993 in Korimoto Campus.

Excavations in Korimoto Campus

The center made three rescue excavations in 2002. One is the excavation of the site of Faculty of Science Building(Area J-7・8) carried from March to October 2002. The excavation revealed the village that belonged to the late Kofun period (6-7C). The excavation of this village uncovered approximately 80 houses overlapped, many pits, and a ditch. Under the Kofun layer, we found a large ditch containing artifacts of the early middle Yayoi period. This means there was a village of that age.

Another excavation was made at the site in Faculty of Engineering Building(J・K-9～11) Korimoto Campus next to Area J-7・8 carried April to October 2002. This site is a paddy field in the early Yayoi to the 11th century.

The center also conducted a rescue excavation of the site in Area H-12・13 from March to August 2003 before the construction of Venture Business Laboratory(VBL). Eight ancient rivers were found. Rivers no.1 to 3 belong to the Ancient to the medieval periods. Rivers no.4 to 8 are belonging to the late Yayoi to the late Kofun periods. We found about 40 wooden piles used as the irrigation facilities in Rivers no.4-7. A sample of the pile was dated cal AD130 by C-14 dating. There found many shards, a stone reaping knife, arrow heads, and a whetstone.

Surveys in Korimoto and Sakuragaoka Campuses

24 surveys were conducted by the center in two campuses. The survey at Area I-8・9 and I-8～10 in Korimoto Campus revealed the same situation as that of Area J-7・8. Areas I-8・9 and I-8～10 are so important to require the future wide excavation for the reconstruction of human activities in the Yayoi to Kofun period in this region.

Appendix1: Excavation of Area L-6 in Korimoto Campus

The center excavated the site (Area L-6) of the central library before its extension from January to September 1993. The excavation revealed cultural remains and artifacts in the second to the fourth layers there. A house, three ditches and many pits were excavated on the surface of the fifth layer of the late Kofun period. Many sherds, stone arrowheads and stone tools were also found in the same layer. The house found here measures about 6m in diameter and 0.5-1.0m deep. A furnace is located in the central part of the floor. Red ochre is distributed on the floor. We also found three ditches west of the house, and many pits in the excavated area. Their functions are unknown There found a lot of sherds, and various stone tools including a pumice implement, arrowheads and a reaping knife that belong to the middle Yayoi and the late Kofun periods. A socketed iron axe was also collected here.

Appendix2: Plant opal analysis of the samples from Area L-6 in Korimoto Campus

In Area L-6 in Korimoto Campus, we found a lot of the plant opals of rice (*Oryza sativa*) and those of *Phragmites* in the upper layers of the late Kofun period. In the lower layers of the same period, we found a lot of the plant opals of rice and those of bamboo and Pani. Pani seeds were also found in the same layers. According to the plant opal analysis, they cultivated land rice at first and then sifted to the wet rice cultivation.

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうじゅうはち
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報18
編著者名	新里貴之(編)
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒890-8580　鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号 TEL　099-285-7270　　FAX　099-285-7271
発行年月日	西暦2004年3月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m²)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 こおりもとだんち 郡元団地　　L-6区	かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっちょうめ 一丁目21番35号	4620		31° 34′ 09″	130° 32′ 42″	19930120～ 19930910	310	建物増築

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿児島大学構内遺跡 郡元団地　　L-6区	弥生 古墳 中近世	住居跡 溝状遺構 土壙 ピット	土器 石器 鉄斧 陶磁器	古墳時代後半期の 住居跡

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報18

2004年3月発行

編集・発行　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目21-24
TEL 099-285-7270

印刷　渕上印刷株式会社
鹿児島市樋之口町6-6
TEL 099-225-2727

Kagoshima University Research Center for Archaelogy Report Vol.18

CONTENTS

Chapter

1 Report of archaeological research in fiscal year 2002 · · · · · · · · · · · · · · · · · · 1

2 Report of rescue surveys · 6

Appendix

1 Report of the excavation at Area L-6 in Korimoto Campus · · · · · · · · · · · · · · 25

2 Report of the plant opal analysis of excavated samples
from Area L-6 in Korimoto Campus · 75

Published by

Kagoshima University Research Center for Archaeology

2004